



東洋大学

在学中保管

履修要覧

Faculty of Food and Nutritional Sciences

食環境科学部

2023

建学の理念と創立者 井上円了

建学の理念

○建学の精神

「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」

○東洋大学の教育理念

【自分の哲学を持つ】

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学（人生観・世界観）を持つ人間を育成する。

【本質に迫って深く考える】

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方で、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

【主体的に社会の課題に取り組む】

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

○東洋大学の心

【他者のために自己を磨く】

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

【活動の中で奮闘する】

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。

東洋大学は、明治20（1887）年、哲学者・井上円了が創設した「私立哲学館」によってその歴史が始まりました。円了は幕末の安政5（1858）年、越後国長岡藩西組浦村（現在の新潟県長岡市浦）のお寺の長男として生まれ、明治14年、設立間もない東京大学文学部哲学科にただひとりの1年生として入学しました。勉学を通して「洋の東西を問わず、真理は哲学にあり」と確信します。当時のわが国は欧米文化至上主義の時代で、円了は西洋化に踊らされる日本を憂えていたと思われます。ここでいう哲学とは、「万物の原理を探り、その原理を定める学問」であり、それは観念的演繹的な哲学ではなく、事実と実証に基づく哲学であるという点が強調されました。

円了は創立前に「哲学はあらゆる事物の原理を定める学問であります。政治、法律はもとより科学や芸術まで、その根底には哲学がなくてはなりません」と述べています。この考えから明治20年「私立哲学館」という哲学専修の私立学校を創立しました。これが現在の東洋大学の前身にあたります。

円了が教育で目指した哲学は、いわゆる「哲学者」の養成ではなく、思想や精神を錬磨する術（すべ）であり、他に応用する能力も身につけなければならないものであると説いています。

哲学という言葉が初めて使われた明治時代から、哲学の欠如が問われている現在までの125年以上にわたり、東洋大学も激動の歴史を歩みながら、創立者井上円了の教育理念を継承してきました。

哲学館創立以降に、円了は「余資なく、優暇なき者」のために「社会教育」と「開かれた大学」を目指して活動を開始しました。その一つに、学校開設の翌年から『哲学館講義録』を発行して、通学できない者にも勉学の機会を与えました。これは当時としては画期的なことであり、この精神は現在の通信教育部に受け継がれています。

さらに、円了は30代から生涯続けることになる全国巡講を始めています。統計に残っている明治39年から大正7年までの13年間で、全国60市、2198町村において5291回の講演を行い、社会教育に力を入れました。明治の日本に新しい教育の扉を開こうとした円了の情熱がうかがえます。この心を引き継いで現在の東洋大学では「開かれた大学」を目指し、講師派遣事業や公開講座など、地域のみならず全国の人々に生涯学習の場を提供しています。

食環境科学部

I 履修要綱
第1章 学修計画の基礎 試験と成績評価
第2章 食環境科学科 (フードサイエンス専攻) 履修方法と専攻教育課程表
第3章 健康栄養学科 履修方法と学科教育課程表
II 食環境科学部 学生支援プログラム
III 諸 資 格
IV 学籍および納付金
V そ の 他
VI 教員紹介 (プロフィール)

卒業まで大切に使用・保管してください。

この履修要覧は、皆さんが学業を進めていくうえで必要不可欠な、学部の基本的な事項を収録したものです。再配布はしませんので、卒業まで大切に保管してください。記載内容は2023年4月現在のものです。記載内容の変更については別途お知らせします。

食環境科学部の教育研究上の目的

1. 人材の養成に関する目的

少子高齢社会において、あらゆるライフステージにおける健康で活力に満ちた質の高い暮らしを実現するため、食と健康分野における教育・研究を通じて食品の機能を総合的に探究し、これを高度な栄養指導に発展させるとともに、21世紀における食と健康を中心とした生命科学の創成、現在の社会が直面している食糧問題、健康問題などを解決する、生命と健康、食の安全・安心に係る分野で活躍できるグローバル人材の育成を目的とする。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

「食」、「栄養」、「健康」に関して、最新の生命科学、バイオテクノロジーを深く学習して、食品機能科学や食と健康をつなぐ高度な専門的知識・技術を修得する。さらに、高度な倫理観を身に付け、実社会で自ら判断し、自主的、主体的に問題を解決していく認知的能力（独立自活）、総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力を育成し、食環境科学の新しい分野を切り拓いていく能力、グローバル化に的確に対応できる能力を身に付けることを教育目標とする。

食環境科学部の卒業の認定及び学位授与に関する方針

食環境科学部では2学科の定める教育上の目的に基づく教育課程にしたがって学修し、基準となる単位数を修得することが学位授与の要件である。生命科学的視点に立って、食品機能科学の基礎的知識・技術を修得するとともに、「食」、「栄養」、「健康」の関わりを深く理解し、国民が全体として生涯にわたり健康的で明るく、活力ある生活が送れるよう、地球社会の発展に貢献するという強い意志を有すること。

食 環 境 科 学 部 長

目 次

食環境科学部の教育研究上の目的
食環境科学部の卒業の認定及び学位授与に関する方針

I 履修要綱

第1章 学修計画の基礎・試験と成績評価

第1節 学修にあたって	8
1 カリキュラムの概要	
2 学期	
3 セメスタ制	
4 単位制	
5 修業年限と在学年数	
6 学士の学位授与	
第2節 授 業	11
1 授業の期間	
2 授業の時間帯	
3 休講	
4 補講・集中講義	
第3節 Web履修登録について	13
1 履修登録の流れ	
2 登録時の注意事項	
3 シラバスについて	
4 科目の記号と番号(科目ナンバリング)	
第4節 試 験	16
1 試験の種類	
2 学期末試験	
3 平常試験	
4 試験の注意事項	
第5節 成績評価	19
1 成績の評価	
2 G P A制度	
3 成績の発表	
4 成績に関する問い合わせ(成績調査)	
5 学修指導	
6 卒業再試験について	

第2章 食環境科学科(フードサイエンス専攻) 履修方法と専攻教育課程表

食環境科学科フードサイエンス専攻の教育研究上の目的

食環境科学科フードサイエンス専攻3つの教育方針

1 カリキュラム上の特徴	27
2 食環境科学科フードサイエンス専攻卒業要件	
3 年次別履修単位数制限	
4 卒業論文着手条件	
5 履修上の注意	
基盤教育科目	
専門教育科目	
開放領域について	
自由科目	
卒業要件を上回って修得した単位について	
食環境科学科フードサイエンス専攻教育課程表	
食環境科学科の開放領域	

第3章 健康栄養学科 履修方法と学科教育課程表

健康栄養学科の教育研究上の目的

健康栄養学科3つの教育方針

- 1 健康栄養学科が目指す管理栄養士像…………… 45
- 2 カリキュラム上の特徴
- 3 学級数
- 4 健康栄養学科卒業要件
- 5 年次別履修単位数制限
- 6 4年次必修授業受講条件
- 7 履修上の注意
 - 基盤教育科目
 - 専門教育科目
 - 開放領域について
 - 自由科目
 - 卒業要件を上回って修得した単位について
 - 健康栄養学科教育課程表
 - 健康栄養学科の開放領域

II 食環境科学部学生支援プログラム

- 1 英語単位認定制度…………… 60
- 2 Toyo Global Leader (TGL) プログラム
- 3 英語特別教育科目 LEAPプログラム
- 4 大学院開講科目履修制度
- 5 成績優秀者表彰制度
- 6 聴講制度 (群馬県内大学単位互換制度)
- 7 実務研修 I・II (食環境科学科のみ)
- 8 東京外国語大学の単位互換制度

III 諸資格

- 1 教職課程 (教育職員免許状)…………… 70
 - 教育職員免許状について
 - 教育職員免許状の取得条件について
 - 教職課程登録料について
 - 教職の履修登録について
 - 教育実習 (栄養教育実習) について
 - 介護等体験について (食環境科学科のみ対象)
 - 教職実践演習について
 - 教育職員免許状一括申請について
 - 休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合について
 - 教員採用試験について
 - 教員採用に関する支援について
- 2 食品衛生管理者および食品衛生監視員 (任用資格)
- 3 フードスペシャリスト
- 4 危険物取扱者 (甲種)
- 5 バイオ技術者認定試験 (中級・上級)
- 6 管理栄養士・栄養士 (健康栄養学科のみ)

IV 学籍および納付金

- 1 学籍 (学籍異動に関する手続)…………… 94
- 2 納付金に関する取扱

V その他

- 1 国際教育センター 海外留学・研修プログラム…………… 106
- 2 板倉キャンパスの情報環境について
- 3 学則 (学籍に関する事項の抜粋)
- 4 東洋大学食環境科学部規程

VI 教員紹介（プロフィール）	117
板倉校舎案内図	131

I 履修要綱

第1章 学修計画の基礎・試験と成績評価

第1節 学修にあたって

1 カリキュラムの概要

東洋大学は、全学的な教育目標「東洋大学スタンダード2021」をふまえ、哲学教育・グローバル教育・キャリア教育を軸として学力と人間力をともに養成し、グローバル人財の育成を実現するカリキュラムを編成しています。

(1) 東洋大学スタンダード2021

東洋大学は、建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」に基づき、学生に以下の力を身につけさせることを宣言します。

1. 「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力
2. 「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力
3. 「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力
4. 変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力
5. グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力

(2) 基盤教育科目・ 学科専門教育科目

本学部、各学科の人材養成の目的とその他教育研究上の目的を実現するために必要なカリキュラムが構成されています。

基盤教育科目において幅広い知識・教養を身につけ、学科専門教育科目において、学問領域を深く体系的に学ぶことができるよう、本学の学士課程教育が構成されています。

基盤教育科目	
哲学・思想	<p>「諸学の基礎は哲学にあり」の精神に基づき、生涯にわたり本質に迫って深く考え抜く力</p> <p>理論哲学や実践哲学、倫理観を確立するとともに、自ら考え、判断し、行動する能力、総合的視野に立ち、他分野の人々と協働できる能力を身につける。そのために古今東西の賢人たちが残した哲学・思想に耳を傾け、それらについて深く考えることで思考を錬磨し、自らのものの見方・考え方の基盤を築くとともに、多角的なものの見方・考え方を受容する力の獲得を目指す。</p>
学問の基礎	<p>「知徳兼全」の精神に基づき、人間としての価値の実現を目指し、地球環境と人類社会に貢献できる人間力</p> <p>変化の激しい現代社会を生きるための教養とは、幅広い知識の修得のみならず、グローバルな視野を持ち、歴史的かつ多元的な視点で物事を深く考え、自然やものの成り立ち、科学と社会との関係を正しく理解したうえで適切な判断ができる能力を意味する。人文・社会・自然科学の諸分野における先人の知恵に学び、それらを横断する学際的な探求活動を通じて、教養を身につける。</p>
国際人の形成	<p>グローバル社会において、多様な伝統と文化を尊重し、対話や議論を通じて他者と協働していく力</p> <p>地球でともに生きる市民のひとりであることを自覚し、多様な伝統や文化を越えて、個を尊重しながら共生、協働していくための素養を身につける。そのために複数の言語を使う力を伸ばすとともに、柔軟で論理的な思考力、異なる価値観を認めあうための受容力と発信力を高め、自らの考えを的確に伝えられる、そして相手の考えを多角的、多元的に理解できるコミュニケーション能力の伸長を目指す。</p>
キャリア・市民形成	<p>「独立自活」の精神に基づき、社会的に自立した人間として、主体的に判断し、行動できる力</p> <p>人生100年時代を迎え、さまざまに多様化が進む現代社会で「よく生きる」ためには、社会的・職業的な課題の理解力、判断力、行動力が必要である。これらの養成のために、法律、会計、IT、情報、環境など、社会や組織を理解するための基本を学ぶとともに、他者と協働し、自ら行動するためのコミュニケーション力、調整力、キャリア開発力を身につける。</p>
総合・学際	<p>変わりゆく社会のなかで、自ら問いを立て諸課題を解決できる想像力とイノベーション力</p> <p>グローバル化と技術革新の進展がもたらす現代社会の課題について、複数の学問視点や複合・学際領域など多様な視点から、さまざまなひとや組織と協働して、柔軟で斬新な解を見いだす力を身につける。そのために、分野を超えて最新の技術動向や研究成果を学ぶ授業を展開し、対話をとおして、その知識や技能を応用して発展的・創造的に思考・発想する力を養成する。</p>
健康・スポーツ科学	<p>多様化するグローバル社会に対して、知徳体のバランスの取れた健康的な人材を育成することを目指し、スポーツの価値の中核である「楽しさ」「喜び」を享受し、スポーツの持つ価値を最大化させる「人」「社会」「世界」を様々な結びつける人間力となるコミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性、課題発見・解決能力等を身につける。</p>
専門教育科目	
学科専門教育科目	カリキュラムの中心となる最も多く履修・修得する必要がある学科専門教育科目群です。必修・選択必修・選択科目に分かれています。
教職科目	教育職員免許状を取得するために開設されています。

2 学 期

1年を次の学期に分けます。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年の3月31日まで

※ただし、授業開始日や終了日、履修登録期間は年度によって異なるので、学生生活ハンドブックや東洋大学公式アプリで確認してください。

3 セメスタ制

セメスタ制は、上記のように1年を2つの学期（セメスタ）に分け、4年間で8つのセメスタを段階的に積み上げて卒業するシステムです。半年単位で授業が完結することによって、授業効果を高め、学生が集中して学ぶことができ、学生の理解度を把握しやすくなるメリットがあります。

セメスタ制の仕組み

1 学 年	第1セメスタ
	第2セメスタ
2 学 年	第3セメスタ
	第4セメスタ
3 学 年	第5セメスタ
	第6セメスタ
4 学 年	第7セメスタ
	第8セメスタ
卒 業	

4 単位制

(1) 単位制とは

授業科目の履修には単位制が採用されています。単位制とは、授業科目にそれぞれ定められた単位があり、一定の基準（科目の単位数に見合う授業時間）に沿って、その授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目の単位が認定される制度です。

従って、学科教育課程表に基づく卒業要件を満たした場合に卒業として認定し、学士の学位が与えられます。

(2) 単位数の計算方法

授業科目には学習時間に応じた単位数が定められており、卒業要件等の基準は修得すべき単位数として規定されています。1単位は、授業や自習（予習・復習）を含め45時間の学修を行う計算になっており、次の基準により設定されています。

授業科目の区分と1単位あたりの学修時間

授業科目等	授業実施	学習時間		
		授業時間	自習時間 (予習・復習時間)	合計
講義・演習	15週	15時間	30時間	45時間
外国語科目	15週	30時間	15時間	45時間
実験・実技・実習	15週	45時間	0時間	45時間

5 修業年限と在学年数

修業年限は4年です。

在学年数は、通算して8年が限度となります。この場合において、休学年数は在学年数に算入しません。

6 学士の学位授与

卒業要件（卒業に必要な単位数）を満たし、修業年限を経過した者には、下記の学位が授与されます。

食環境科学科……学士（食環境科学）

健康栄養学科……学士（健康栄養学）

第2節 授 業

1 授業の期間

本学で行われる授業には、1年間を春学期・秋学期の2学期（セメスタ）に分割し、15週間単位で授業を行うセメスタ授業と、各セメスタを2分割し、8週間単位で授業を行うクォーター授業があります。また、夏季・春季休暇期間等に、集中講義や実習等の授業が行なわれる場合があります。これをセッション授業といいます。

春学期（4月1日～9月30日）						秋学期（10月1日～3月31日）					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春セメスタ授業期間					夏セッション	秋セメスタ授業期間					春セッション
第1クォーター		第2クォーター				第3クォーター		第4クォーター			
						夏季休暇					
						春季休暇					

※学則上の学期日程と実際の学年暦（キャンパスカレンダー）は異なることがあります。学籍異動等の取り扱いは、学則上の学期日程（春：4月1日～9月30日、秋：10月1日～3月31日）で取り扱います。

※学年暦（キャンパスカレンダー）の詳細は、大学ホームページ（<https://www.toyo.ac.jp/about/schedule/>）で確認してください。

※各年度の授業時間割・開講形態・履修登録期間等は『授業時間割表』（4月初旬にデータ配信）にて、お知らせします。また、追加の周知事項がある場合、東洋大学公式アプリで随時お知らせします。

2 授業の時間帯

授業時間は、1時限（1コマ）90分とし、各時限の区切りは次の表のとおりです。

※2024年度からは授業時間が変更になります。

時 限	時 間 帯
1	9：30 ～ 11：00
2	11：10 ～ 12：40
昼休み	12：40 ～ 13：20
3	13：20 ～ 14：50
4	15：00 ～ 16：30
5	16：40 ～ 18：10
6	18：20 ～ 19：50

一部の実験・実習科目および補講等については上記の時限、時間帯と異なる場合があります。

（詳細は授業時間割表およびToyoNet-ACE・掲示で確認してください）

3 休 講

教員のやむを得ない理由、学会等への参加、大学の行事などにより授業を休講にすることがあります。

授業の休講は、東洋大学公式アプリ、食堂内電子掲示板でお知らせします。

なお、次の場合は板倉事務課窓口にお問い合わせをして、その指示を受けてください。

- (1) 休講の指示がなく授業開始時刻を30分以上経過しても授業が開始されない場合。
- (2) その他特別にやむを得ない状況のとき。

※休講に関して電話で問い合わせることはできません。

4 補講・集中講義

次のような場合で、補講・集中講義を実施するときは、その内容を事前にToyoNet-ACE等でお知らせします。

- (1) 授業が休講となったとき。
- (2) その他の理由で、特別に補講・集中講義を必要とするとき。

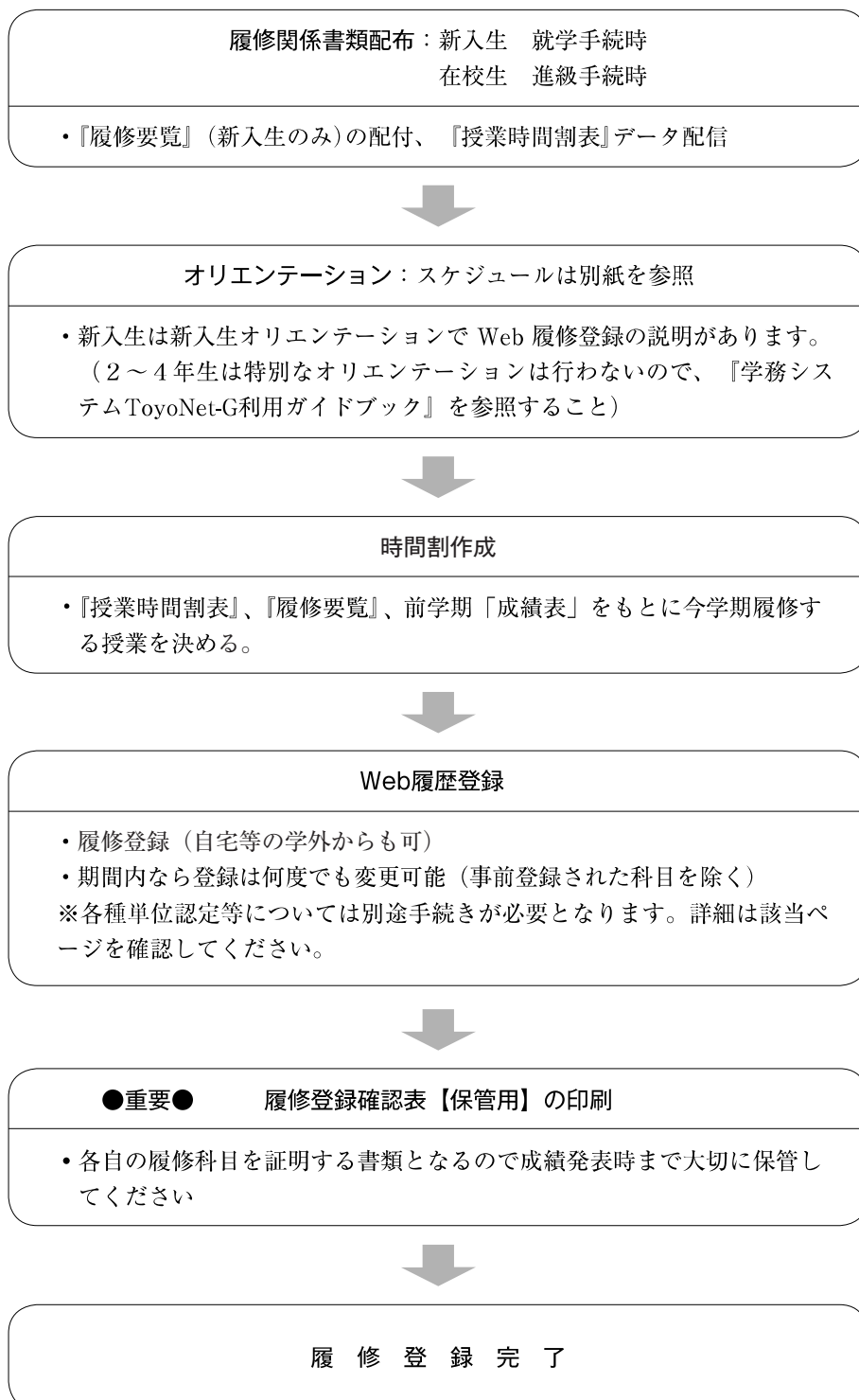
なお、補講は学期末に行う場合と、通常授業期間に行う場合があります。担当教員の指示に従ってください。

第3節 Web履修登録について

詳細については『学務システム ToyoNet-G利用ガイドブック』を参照してください。

1 履修登録の流れ

※春学期の開始時（4月）
と秋学期の開始時（9月
下旬）の年2回行います。



2 登録時の注意事項

- (1) 履修登録にあたっては、履修要覧及び授業時間割表を熟読してください。
- (2) 学科教育課程表に示された配当学年に従って履修登録してください。
- (3) **履修登録期間以降の追加・訂正・削除は一切認めません。**
(ただし、履修取消についてはこの限りではありません。P19、20「GPA制度」参照)
- (4) 授業時間割及び講義内容等に変更があった場合は、東洋大学公式アプリ、Toyo Net-ACEでお知らせしますので確認してください。
- (5) 履修登録確認表は必ず印刷して、履修内容を確認し保管してください。

3 シラバスについて

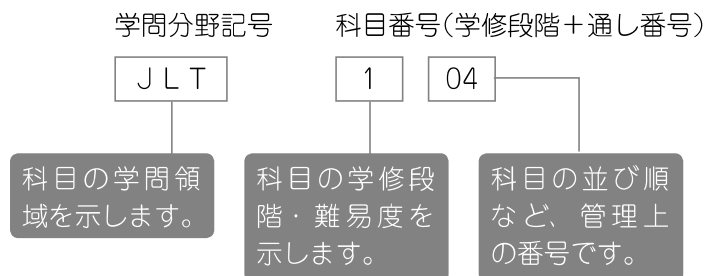
シラバス（講義要項）には、授業の内容（概要）や到達目標など、科目の履修を通じて身につけることのできる知識、能力、また各回の授業の進め方や内容、成績評価方法・基準、使用テキストや予習・復習の指示などが、予め学生に示されています。

履修する科目を決めるにあたって、シラバスを熟読することはもちろん、次回の授業の準備学習や復習の際の振り返りに用いるなど、シラバスを活用することによって学習効果を高めるよう努めてください。

シラバスはToyoNet-Gにて公開しています。

4 科目の記号と番号 (科目ナンバリング)

各授業科目には、記号と番号が付いています（教育課程表を参照）。
記号と番号の意味は以下のとおりです。



学問分野記号

教育課程表上の各科目に付されている学問分野記号は次のとおりです。

AHS	応用健康科学	ECE	生態・環境	LAM	病態検査学
ALG	代数学	ECO	経済学	LIE	英米・英語圏文学
AMC	応用分子細胞生物学	EDP	教育心理学	MAT	数学
ANC	分析化学	EDU	教育学	MOB	分子生物学
APA	動物生理・行動	EER	環境技術・環境負荷低減	ORC	有機化学
APB	応用生物化学	ENG	語学（英語）	PHP	薬理系薬学
APC	複合化学	ESS	教科教育学	PHT	哲学・思想（基盤教育）
APM	応用微生物学	EVB	進化生物学	PHY	物理学
ARS	地域研究	FAS	学問の基礎（基盤教育）	PMB	植物分子・生理科学
ASS	社会経済農学	FOS	食品科学	PMC	病態医化学
BAA	解析学基礎	FRA	語学（フランス語）	POL	政治学
BAB	基礎生物学	FUL	基礎法学	PSY	心理学
BAM	基礎医学	GEA	解剖学一般（含組織学・発生学）	PUL	公法学
BIC	生物分子化学	GEB	ゲノム生物学	SEM	ゼミナール／基礎演習
BLS	生物科学	GLG	地質学	SEP	固体地球惑星物理学
BMS	生体分子科学	GMC	医化学一般	SGB	遺伝育種科学
BPC	生物物理・化学物理・ソフトマターの物理	HLS	生活科学	SHS	科学社会学・科学技術史
BSC	基礎化学	HPH	衛生学・公衆衛生学	SOC	社会学
CEB	細胞生物学	HSS	健康・スポーツ科学	SPA	語学（スペイン語）
CHI	語学（中国語）	HUG	人文地理学	SSE	社会システム工学・安全システム
CIV	キャリア/インターンシップ/ボランティア系組	HUI	人間情報学	STS	統計科学
CPH	化学系薬学	IHR	国際人の形成	THE	卒業論文／卒業制作
CUA	文化人類学・民俗学	INC	無機化学	THI	情報学基礎理論
DEV	持続可能システム	ITS	総合・学際	TYS	自校教育科目
EAH	食生活学	JPN	語学（日本語）		
ECD	キャリア・市民形成	KOR	語学（韓国語）		

科目番号（学修段階＋通し番号）

100番台	主に大学1年生を対象とした授業（1年次レベル）
200番台	主に大学2年生を対象とした授業（2年次レベル）
300番台	主に大学3年生を対象とした授業（3年次レベル）
400番台	主に大学4年生を対象とした授業（4年次レベル）
500番台	大学院レベル

※上記の科目番号は授業の難易度を示すものとして付されています。教育課程表に記載されている配当学年（履修可能年次）と異なる場合があります。

第4節 試 験

1 試験の種類

履修した科目の単位を修得するためには、その授業科目の授業に3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。

この成績評価を行うための試験は、筆記（レポートを含む）または口頭により行います。

2 学期末試験

学期末試験とは、各学期の最終週に行うテスト等を指します。例年、春学期は7月下旬～8月上旬、秋学期は1月下旬～2月上旬に実施予定で、学期末試験時間割に従って実施します（ToyoNet-Gで各自の時間割を確認してください）。試験の日、時限、場所（教室）、方法等は、次により発表します。

試験の種類	発表の方法	発表の時期	確認方法
学期末試験	ToyoNet-G	試験開始の約1週間前	ToyoNet-Gの「学生メニュー」>「学期末試験」>「試験時間割表照会」

※発表内容に変更が生じたときは、随時ToyoNet-Gの情報を更新します。

3 平常試験

平常試験とは、各授業科目の担当教員が平常の授業時間内で行うテスト等を指します。

4 試験の注意事項

(1) 学期末試験の受験資格

次のいずれかに該当するときは、試験を受験することができません。

- (1) 履修登録をしていないとき。
- (2) 受験に際して有効な学生証を携帯していないとき。
- (3) 休学及び停学中のとき。
- (4) 試験開始後20分を経過したとき。

(2) 平常・学期末試験上の注意事項

受験にあたっては、次のことに注意してください。

1. 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
2. 学期末試験、平常試験ともに通常授業実施時間帯で試験が行われます。
3. 試験会場は平常授業時と異なる場合があるので、ToyoNet-Gの情報を確認してください。
4. 1科目で試験会場が2カ所以上になる場合、学籍番号で試験会場を指定するので、必ず指定された試験会場で受験してください。
5. 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
6. 学期末試験では、学生証がないと受験できないので必ず携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。（平常試験でも求められる場合がありますので、学生証は必ず携帯すること。）
7. 試験会場に持ち込みできるものは、筆記用具・時計機能だけの時計・持ち込み

が許可されたもののみです。スマートフォン、スマートウォッチ等の通信機能が付いた機器は机上に置けません。試験の妨げにならないよう電源を必ず切って、かばんにしまってください。なお、上記の機器、音楽プレーヤーを時計代わりに使用することはできません。

8. 筆記用具（ボールペン、鉛筆、消しゴム）を必ず持参してください。貸出は一切行いません。
9. 試験中の飲食は禁止します。
10. 答案用紙の、学部・学科・学年・学籍番号・氏名欄には必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください（ただし、インクが消しゴム等で消せないものに限る）。
11. 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効です。
12. 学期末試験は試験開始後20分までに入室しないと受験資格を失います。また退出は開始後30分を経過し、監督者の指示があった後にのみ許可します。途中退室した場合、再入場は認めません。
13. 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書（コピー可）等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
14. 不正行為を行った場合は、学則（第57条）に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容はP17、P18を参照してください。平常試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明をよく確認してください。
15. 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間に余裕をもって入場してください。

平常・学期末試験における不正行為

不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）を平常・学期末試験において行った場合は、学則第57条に則り処分されます。

1. 処分の種類

処分は、譴責、停学又は無期停学とする。

2. 処分とその対象となる不正行為

(1) 譴責の対象となる行為

- ア 持ち込みが認められているものの貸借。
- イ 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せ又はそれを見る行為。
- ウ 試験監督者又は監督補助者からの注意を無視した行為。
- エ その他アからウに準ずる行為。

(2) 停学1ヵ月の対象となる行為

- ア 解答用紙を交換する行為。
- イ 許可されていないものの持込み。
- ウ 書込みを許可されていない持込許可教材、机上、手掌等へ書込みをしての受験、又は、これに類似する行為。
- エ 試験監督者又は監督補助者からの注意に対する暴言。

- オ その他アからエに準ずる行為。
- (3) 無期停学の対象となる行為
 - ア 替え玉受験。
 - イ 在学中における再度の不正行為。
 - ウ 試験監督者又は監督補助者からの注意に対する暴力行為。
 - エ その他、極めて悪質な行為。

3. 処分に伴う措置

- (1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度(学期)において認定しない。また、上記「2.(2)」及び「2.(3)」の停学の対象となる行為については、当該年度(学期)の試験期間において実施される全ての試験科目の単位を認定しない。
- (2) 停学期間は当該学部教授会で処分に関する意見を決定した日から起算することを原則とする。
- (3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人及び保証人と面接のうえ、通達する。
- (4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。
- (5) 「譴責の対象となる行為ア及びイ」、「停学1ヵ月の対象となる行為ア」、「無期停学の対象となる行為ア」の不正行為は、その当事者全てが上記(1)～(4)の措置の対象となる。

4. 不服申立て

不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。

(3) レポート

各授業科目の担当教員からレポート提出の指示があったときは、下記の注意事項を厳守して、提出日に必ず提出してください。

レポート作成上の注意事項

- (1) レポート作成にあたっては、担当教員の指示に従うこと。
- (2) レポートの用紙サイズについて、特に指示があった場合は、これに従うこと。
- (3) レポートには、次の項目を必ず記載すること。
 - 科目名、教員名、題目、学籍番号、氏名
- (4) レポートの左側上部をホッチキスで止めること。
- (5) レポート提出について
 - ・担当教員の指示を受け、直接担当教員に提出すること。
 - ・板倉事務課窓口では、特別指示のない限り、レポート郵送先・教員の連絡先の照会に応じることはできません。

第5節 成績評価

1 成績の評価

成績の表示は次の通りです。

【東洋大学成績評価基準】

合 否	成績表示	点 数	基 準
合 格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不 合 格	D	59～40	到達目標を達成していない項目があるが、学修行動を改めることにより達成する可能性がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。

※「評価対象外」とは、授業期間を通じ出席不良、または不受験・レポート未提出のため成績評価の判断ができないものを指します。

※上表のほかに、留学先大学での学修成果などを単位認定する場合、「T」を合格の評価として使用する場合があります。

2 GPA制度

単位や成績評価、単位の質自体を保証していくことを目的としてGPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

GPAとは、授業科目ごとの成績に対して、4.3～0.0のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

卒業時にGPA2.0を上回ることを目標にし、努力してください。

〔GPAの算出方法〕

$$GPA = \frac{(Sの修得単位数 \times 4.3) + (Aの修得単位数 \times 4.0) + (Bの修得単位数 \times 3.0) + (Cの修得単位数 \times 2.0) + (Dの修得単位数 \times 1.0) + (Eの修得単位数 \times 0.0) + (*の修得単位数 \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

※対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。

※対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。

※再履修で評価を受けた成績については、最新の成績が反映されます。

※GPAは計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示します。

GPAは、「成績表」に直近と累積の値が記載され、海外留学の際の学力指標や学内奨学金の採用基準となる他、成績優秀者の表彰や、学内の学習指導に利用されることがあります。

(履修取消について)

卒業要件に関わる科目については授業開始の一定期間経過後に履修取り消しが可能です。

履修科目の取り消しを希望する場合は、定められた期間にToyoNet-Gにて手続きしてください。なお、履修科目の追加・変更はできません。

3 成績の発表

第1クォーターについては6月下旬、春学期、第2クォーターについては9月中旬～下旬、第3クォーターについては11月下旬、秋学期、第4クォーターについては3月中旬～下旬にToyoNet-Gで発表します。

4 成績に関する問い合わせ(成績調査)

成績発表後、次の①～④に該当する科目については、成績調査受付期間にToyoNet-Gで成績調査申請を行い、成績評価の確認をすることができます。成績調査申請した科目の評価については定められた回答確認期間に各自で必ず確認してください。なお、電話での問い合わせや手続きはできません。

①履修登録をしたが、成績評価の記載がない科目

②履修登録をしていなかったが、成績評価が記載されている科目

③履修登録し、授業へ出席・受験したにもかかわらず、成績表に「*」印が表示されている場合

④履修登録し、シラバスにある成績評価基準を満たしているが、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、確認を求めたい科目

※④の場合については成績の再考を求めるものではないので、十分に注意すること。

5 学修指導

学修指導として、専任教員から、本人への指導および保証人への連絡を行う場合があります。

6 卒業再試験について

食環境科学部の4年次第8セメスタ以上（卒業当該学期のみ）において、卒業単位が不足する学生が対象となります。

再試験の受験資格、再試験の対象としない科目などについては、「食環境科学部卒業再試験実施に関わる内規」に基づき実施されます。

食環境科学部卒業再試験実施に関わる内規（抜粋）

（目的）

第1条 この内規は、不受験者および単位不足者の取り扱いに関する規程第2条に基づき、食環境科学部学生の単位不足者に対する卒業再試験に関して必要な事項を定める。

（受験資格）

第2条 4年次生で、卒業を希望する者であり、卒業に必要な単位数に6単位以内の不足があり、かつ3科目以内である者とする。

（対象科目）

第3条 卒業再試験の対象となる科目は、次のすべてに該当する科目とする。

- （1）原則として卒業当該学期に履修登録を行っている科目であること
- （2）単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目であること

（対象除外科目）

第4条 次の科目は、卒業再試験対象科目から除外する。

- （1）演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- （2）卒業研究、卒業論文
- （3）不正行為等により無効となった科目
- （4）通常の評価において「E」「*（評価不能）」と判定された科目
- （5）科目の性質上、担当教員と学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとする。

（再試験手続）

第5条 再試験は、卒業当該学期で発表される単位充足者発表時に、定められた時間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとする。

- （1）再試験手続きを行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅する。
- （2）受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができる。
- （3）他学部開講科目を受験する場合は、当該学部の卒業再試験の規定に従うものとする。
- （4）代理人での手続きは認めない。

（再試験受験料）

第6条 再試験受験料は次の通りとする。

1科目5,000円

（再試験の評価）

第7条 卒業再試験の成績評価は次の通りとする。

- （1）成績評価基準は、それぞれの科目において定期試験で実施した基準と同等とする。
- （2）再試験の結果、合格した者の成績評価の上限は「C」評価とする。



第2章 食環境科学科 （フードサイエンス専攻）

履修方法と専攻教育課程表

食環境科学科 フードサイエンス専攻の教育研究上の目的

1. 人材の養成に関する目的

食を通じて健やかな生命を育み、質の高い暮らしを実現するため、生命の維持に必要な「食」の視点から生命科学を学び、生命科学の視点から「食」について考える必要がある。本専攻では、生命科学的視点に立って、食品素材が持つ機能とこれが人の健康維持に果たす役割を考究し、高度な倫理観によって、生命と健康、食の安全・安心に係る分野で活躍できるグローバルな食品技術者の育成を目的とする。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

食品の機能科学、栄養・健康科学、食品の安全、あるいは食育を通じた食文化の維持・向上などの専門知識の系統的な修得、健康の視点から食をコーディネートする総合力の育成、先端的バイオテクノロジーを基礎とした食品機能と食品の安全を高度に追及できる専門能力、および、高い倫理観を持って社会活動に参画できる人材を育成するため、生命倫理、生命論、生命哲学あるいは技術者倫理に関する科目を配し、生命の維持に必要な「食」という視点から「生命・人間」を総合的に理解する能力の育成を目指す。

食環境科学科長

食環境科学科フードサイエンス専攻3つの教育方針

1. 卒業の認定及び学位授与に関する方針

フードサイエンス専攻は、食を通じて健やかな生命をはぐくみ、豊かな暮らしを実現するため、生命の維持に必要な「食」の視点から生命科学を学び、生命科学の視点から「食」について考える必要があります。本専攻では、高度な倫理観と広い視野をもち、食の安全に関わる専門知識と技術、技能を学び、生命と健康、食の安全・安心に関わる専門技術や実践力、総合力を修得し、食品関連分野で社会に貢献できるグローバルな食品技術者として、次の基準を満たす学生に学位を授与します。

- (1) 生命科学に関する基礎知識を体系的に習得している
- (2) 高い倫理観と広い視野を備えている
- (3) 外国の人々とコミュニケーションを通じて文化の違いを理解する能力をもつ
- (4) 食の安全に関する専門知識を修得している
- (5) 食の安全を守るための実践力、思考力、想像力をもっている

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針

- (1) フードサイエンス専攻では、化学や生物を初めて学ぶ人にも十分学習できるカリキュラムを編成し、食品の機能科学、栄養・健康科学、食品の安全、あるいは食育を通じた食文化の維持・向上などの専門知識を系統的に教授しています。また、基盤教育科目に社会人基礎力の育成のための科目や短期海外研修科目を配して、キャリア形成支援とグローバル人材の育成を行うとともに、正しい倫理観をもった技術者を育成するための科目を配して、物の見方、考え方をしっかりと身に付ける教育を行います。
- (2) 2年次からは、将来の目標に添って専門性を高める教育を行なっています。
食品を健康と関連づけて探求したい学生は、「食」を通して「いのち」を考え、食品の機能科学・栄養、健康科学を中心に学習することで、健康の視点から食をコーディネートする総合力の修得を目指します。
食品の機能性を化学的に探求したい学生は、先端バイオテクノロジーを基礎に、食品機能と安全、未利用食資源の有効活用、最新の分析技術を学習し、食品の安全を高度に追及できる食品技術の修得を目指します。
- (3) 「食」の視点から「生命・人間」を総合的に理解し、高い倫理観を持って社会活動に参画できる人材を育成するため、生命哲学、技術者倫理に関する科目を教授しています。

3. 入学者の受入れに関する方針

フードサイエンス専攻は、生命科学の視点から食を考え、最先端のバイオテクノロジーを基礎に食育から食の安全・安心に至るまでの総合的な知識と技術を教授しています。

以上の観点から本専攻は、食育・食文化、食品の機能科学、栄養・健康科学、食の安全、あるいは食品に関わる社会問題に興味を持ち、食を取り巻く諸問題に対して積極的・意欲的に解決したいと考えている人を求めています。

求める学生像

- (1) 食と健康あるいは食の安全など食に関する諸問題に関心を持っている人
- (2) バイオテクノロジーの先端技術を活用して、食品の機能性・安全性を探究するため、「生物」、「化学」といった基礎科目を意欲的に勉学する人
- (3) 常に自ら積極的に学ぼうとする強い意欲がある人
- (4) 本学科で学んだことを活かして社会に貢献したいという目的意識と向上心のある人
- (5) 勉学だけでなくサークル活動等を通してリーダーシップを発揮できる人
- (6) 海外で生命と健康、食の安全・安心に係る分野で活躍したい人

1 カリキュラム上の特徴

分子生物学、微生物学、遺伝子工学などの観点から「食」を捉え、それらを基礎とした最新の生命科学、生命活動に必要な食品機能の化学的、生物学的解析、食の安全・安心に関わる分析化学、最新バイオテクノロジーなど生物、化学に関連した専門教育科目を教育課程に多く配し、「食」を地球環境における生命の維持という視点から探求するカリキュラムとなっています。

このカリキュラムを通して、食品の機能科学、栄養・健康科学、食品の安全、あるいは食育を通じた食文化の維持・向上などの専門知識を系統的に学修していきます。

第1学年	第2学年	第3学年
基礎化学（2）	基礎生化学（2）	機能食品科学（2）
化学実験（2）	分子生物学概論（2）	生体高分子化学（2）
基礎微生物学（2）		
生物学（2）		
フードサイエンスの化学（2）		

※（ ）内は、単位数です。

食環境科学科 フードサイエンス専攻 カリキュラムマップ

大学院
進学

食品産業界
(研究開発・品質検査)

食育インストラクター

公務員
(食品衛生監視員など)

理科教員
(中学・高校)

「高い倫理観を持ち、生命と健康、食の安全・安心に携わる分野で、幅広く活躍できる人材」

4年

専門的実験技術・プレゼンテーション能力の修得 / 大学生活の集大成

卒業研究

卒業論文

幅広い教養を身につけるための基盤教育科目群(一般教養的科目・社会人基礎科目)

教員資格のための教職科目群

基礎的実験技術の修得 フードサイエンスに関する専門知識の修得

3年

研究室仮配属

フードサイエンス
実験(Ⅱ)

専門領域

食品学概論	食品化学
美味しさの科学	フードエンジニアリング
予防・臨床栄養学	食品物性論
プロバイオティクス	食品安全学
細胞生物学	機能食品科学
ファイトセラピー論	HACCP論
食品検査概論	食品加工貯蔵学
調理科学実習	

多彩な専門知識を学ぶ科目群

味とニオイの科学
スパイスの科学
植物生理学
微生物生理学
遺伝子工学
環境修復学
バイオエネルギー
食品流通学
マーケティング入門
など

2年

フードサイエンス
実験(Ⅰ)

生物学実験

スペシャリストによる特別講義(2年～)

食品科学特別講義

1年

物理実験

化学実験

基礎領域(1年～)

人体の構造と機能・食育論・フードコーディネート論・基礎栄養学・基礎生化学・食品微生物利用学・食品バイオテクノロジー・機器分析・食品添加物概論・食品官能評価概論・公衆衛生学・食環境科学英語(I・II)など

哲学教育(1年～)

井上円了と東洋大学哲学入門・生命倫理・生命哲学・生命論・食品技術者と倫理

- 「食」を選択する力(食育)
- 食品の栄養学的機能の理解
- 高い倫理観をもった食品技術者の養成
- バイオテクノロジーを利用した効率的な食糧生産技術や食品分析技術の修得
- 食品の生産から流通までカバーする総合的な食品知識の修得

専攻キーワード

食の安全・安心

健康

食のバイオテクノロジー

食環境科学科 フードサイエンス専攻入学

2 食環境科学科フードサイエンス専攻卒業要件

卒業に必要な単位数は、124単位以上で、次の表に掲げる所定の単位を修得しなければなりません。

食環境科学部 食環境科学科 フードサイエンス専攻			
授 業 科 目 区 分		卒業論要件単位数	
基 盤 教 育 科 目	哲学・思想		4 単位以上
	学問の基礎	人文科学	4 単位以上
		社会科学	
		自然科学	
	国際人の形成	世界の伝統と文化	24単位以上
		グローバル社会の実際	
		語学	
	キャリア・市民形成		必修科目 8 単位
健康・スポーツ科学			
総合・学際			
専 門 教 育 科 目	必修		53 単位
	選択必修		90 単位以上 22 単位以上
	選択		
合 計		124単位以上	

3 年次別履修単位数制限

下記のとおり年次別に履修できる単位数が制限されています。

年 次	年 間	卒業に必要な単位として認められる科目		卒業に必要な単位として認められない科目
		春学期	秋学期	
1 年次	48	24	24	制限なし
2 年次	48	24	24	
3 年次	48	24	24	
4 年次	48	24	24	

<卒業に必要な単位として認められる科目>

基盤教育科目、専門教育科目、開放領域（他学部他学科）

<卒業に必要な単位として認められない科目>

教職課程の各教科の指導法、教育の基礎的理解に関する科目

（理科指導法 I A、教職概論、教育心理学等（P74、76参照））

自由科目（P31参照）

※既に単位を修得した科目は履修できません。

4 卒業論文着手条件

卒業研究・論文に着手するのは4年次のはじめ（第7セメスタ）からです。
着手するためには3年次（第6セメスタ）までに、下記条件を満たさなければなりません。

修得単位は、卒業に必要な単位として認められる科目のものとしします。

食環境科学部 食環境科学科 フードサイエンス専攻			
授 業 科 目 区 分		卒業論文着手要件単位数	
基 盤 教 育 科 目	哲学・思想	4単位以上	
	学問の基礎	人文科学	4単位以上
		社会科学	
		自然科学	
	国際人の形成	世界の伝統と文化	24単位以上
		グローバル社会の実際	
		語学	
	キャリア・市民形成	必修科目 8単位	
健康・スポーツ科学			
総合・学際			
専 門 教 育 科 目	必修	実験科目 11単位を含む 43単位以上	
	選択必修	22単位以上	
	選択		
合 計		105単位以上	

以上の条件を満たさなければ、卒業研究・卒業論文に着手することができず、卒業時期が延期になります。

5 履修上の注意

基盤教育科目

【基盤教育科目】

基盤教育科目では、合計24単位以上を修得しなければなりません。

哲学・思想、学問の基礎では、それぞれ4単位以上を修得しなければなりません。
語学は、必修科目8単位を修得しなければなりません。

専門教育科目

【専門教育科目】

専門教育科目では、4年間で必修53単位、選択必修22単位を含め、合計90単位以上を修得しなければなりません。

【必修】

必修では、1年次5科目10単位、2年次9科目20単位、3年次8科目17単位、4年次3科目6単位の計53単位を修得しなければなりません。

【選択必修】

選択必修では、計22単位以上を修得しなければなりません。

開放領域について

制限単位数内ならば、生命科学部生命科学科、応用生物科学科で開講している一部の科目を履修することができます（P40参照）。修得した単位は卒業単位「開放領域（他学部他学科）」に含みます。

なお、履修にあたっては、開講学部・学科の指示に従ってください。

自由科目

所属学科の教育課程表にない科目は、「自由科目」として履修することができます。修得した単位は卒業単位に含みません。申請用紙（板倉事務課窓口で配布）に記入の上、授業担当教員から許可印または署名を受け、板倉事務課窓口へ提出してください。

自由科目は履修単位数制限（24単位）に含まれません。

配当学年（セメスタ）は開講している学部・学科の配当学年（セメスタ）に従ってください。

卒業要件を上回って修得した単位について

各要件を上回って修得した単位は、卒業要件の単位として換算されます。

※124（卒業単位）－114（要件単位）＝残り10単位は基盤教育科目・専門教育科目・開放領域（他学部他学科）のどの領域から修得しても換算されます。

食環境科学部食環境科学科フードサイエンス専攻 教育課程表 (科目一覧表)

※科目区分における () 内の数字は、その区分の最低必要単位数です。

卒業要件	科目群名	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
基盤教育科目 (24単位以上)	哲学・思想 (4単位以上)	選択必修	TYS101	井上円了と東洋大学	1～4	2	
		選択必修	PHT101	生命倫理	1～4	2	
		選択必修	PHT103	哲学入門	1～4	2	
		選択必修	PHT104	生命哲学	1～4	2	
		選択必修	PHT102	生命論	1～4	2	
	学問の基礎 (4単位以上)	人文科学	選択必修	PSY102	心理学	1～4	2
			選択必修	CUA101	文化人類学入門	1～4	2
			選択必修	HUG101	人文地理学入門	1～4	2
		社会科学	選択必修	ECO101	経済学入門	1～4	2
			選択必修	PSY101	スポーツ社会学	1～4	2
			選択必修	SOC101	ソーシャルサーベイ概論	1～4	2
			選択必修	POL101	政治学入門	1～4	2
			選択必修	FUL101	法学入門	1～4	2
			選択必修	SOC102	社会学入門	1～4	2
		自然科学	選択必修	BSC101	現代化学	1～4	2
			選択必修	SHS101	科学技術論	1～4	2
			選択必修	PHY101	現代物理	1～4	2
			選択必修	EVB101	生命科学史	1～4	2
			選択必修	BAB104	現代生物学	1～4	2
			選択必修	MAT101	数学の世界	1～4	2
	国際人の形成	世界の伝統と文化	選択	LIE101	欧米の文学と文化	1～4	2
			選択	IHR102	異文化と社会事情	1～4	2
			選択	EAH104	日本の食文化	1～4	2
		グローバル社会の実際	選択	IHR101	文化間コミュニケーション	1～4	2
			選択	IHR119	短期海外フィールドワーク	1～4	1
			選択	IHR118	英語ビジネス実務	1～4	2
			選択	IHR120	海外文化研修	1～4	2
			選択	IHR105	留学のすすめ	1～4	2
			選択	IHR104	異文化理解概論	1～4	2
			選択	IHR106	海外研修 I	1～4	2
			選択	IHR107	海外研修 II	1～4	2
			選択	IHR108	海外実習 I	1～4	2
選択			IHR109	海外実習 II	1～4	2	
選択			IHR110	短期海外研修 I	1～4	1	
選択			IHR111	短期海外研修 II	1～4	1	
選択			IHR112	短期海外研修 III	1～4	1	
選択			IHR113	短期海外研修 IV	1～4	1	
選択			IHR114	短期海外実習 I	1～4	1	
選択			IHR115	短期海外実習 II	1～4	1	
選択			IHR116	短期海外実習 III	1～4	1	
選択	IHR117	短期海外実習 IV	1～4	1			

卒業要件	科目群名	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
基盤教育科目 (24単位以上)	国際人の形成	語学	必修	ENG101	Integral English I	1	1
			必修	ENG103	Integral English II	1	1
			必修	ENG102	English Communication I	1	1
			必修	ENG104	English Communication II	1	1
			必修	ENG201	Integral English III	2	1
			必修	ENG202	Integral English IV	2	1
			必修	ENG301	English for Liberal Arts I	3	1
			必修	ENG302	English for Liberal Arts II	3	1
			選択	CHI101	中国語 I	1～4	1
			選択	CHI102	中国語 II	1～4	1
			選択	KOR101	ハングル I	1～4	1
			選択	KOR102	ハングル II	1～4	1
			選択	FRA101	フランス語 I	1～4	1
			選択	FRA102	フランス語 II	1～4	1
			選択	SPA101	スペイン語 I	1～4	1
			選択	SPA102	スペイン語 II	1～4	1
			選択	ECD101	テクニカルライティング	1～4	2
			選択	ECD102	アカデミックライティング	1～4	2
			選択	ENG108	Business English Communication	1～4	2
			選択	ENG109	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG110	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	1～4	2
			選択	ENG111	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG112	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1～4	2
			選択	ENG113	Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG114	Pre-Study Abroad: Writing	1～4	1
			選択	JPN101	日本語 I	1	1
			選択	JPN201	日本語 II	2	1
			選択	JPN102	日本語と日本社会	1	1
			選択	JPN202	日本語と日本文化	2	1
			選択	JPN103	* Japanese for Beginners: Theory	1～4	2
			選択	JPN104	* Japanese for Beginners: Practice	1～4	2
			選択	JPN105	* Integrated Japanese I Theory	1～4	2
			選択	JPN106	* Integrated Japanese I Practice	1～4	2
			選択	JPN107	* Integrated Japanese II Theory	1～4	2
			選択	JPN108	* Integrated Japanese II Practice	1～4	2
			選択	JPN109	* Integrated Japanese III Theory	1～4	2
			選択	JPN110	* Integrated Japanese III Practice	1～4	2
			選択	JPN111	* Japanese Reading I	1～4	1
			選択	JPN112	* Japanese Reading II	1～4	1
			選択	JPN113	* Japanese Reading III	1～4	1
			選択	JPN114	* Japanese Listening I	1～4	1
			選択	JPN115	* Japanese Listening II	1～4	1
			選択	JPN116	* Japanese Listening III	1～4	1
選択	JPN117	* Japanese Writing I	1～4	1			
選択	JPN118	* Japanese Writing II	1～4	1			
選択	JPN119	* Japanese Writing III	1～4	1			
選択	JPN120	* Project Work I	1～4	1			
選択	JPN121	* Project Work II	1～4	1			
選択	JPN122	* Project Work III	1～4	1			
選択	JPN123	* Japanese Culture and Society A	1～4	2			

※が付いている科目はすべて、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目です。

卒業要件	科目群名		必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
基盤教育科目（24単位以上）	国際人の形成	語学	選択	JPN124	* Japanese Culture and Society B	1～4	2	
			選択	JPN125	* Introduction to Japanology A	1～4	2	
			選択	JPN126	* Introduction to Japanology B	1～4	2	
	キャリア・市民形成			選択	PUL101	日本国憲法	1～4	2
				選択	ARS101	産官学連携概論	1～4	2
				選択	HUI101	情報処理基礎	1～4	2
				選択	HUI102	情報処理演習	1～4	2
				選択	CIV101	キャリアデザインⅠ	1	2
				選択	CIV201	キャリアデザインⅡ	2	2
		健康・スポーツ科学			選択	HSS110	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1～4
			選択	HSS111	スポーツ健康科学実技Ⅱ	1～4	1	
			選択	HSS112	スポーツ健康科学実技Ⅲ	1～4	1	
			選択	HSS113	スポーツ健康科学実技Ⅳ	1～4	1	
			選択	HSS108	スポーツと健康Ⅰ	1～4	2	
			選択	HSS109	スポーツと健康Ⅱ	1～4	2	
	総合・学際			選択	ITS101	全学総合A	1～4	2
				選択	ITS102	全学総合B	1～4	2
				選択	ITS103	全学総合C	1～4	2
				選択	ITS104	全学総合D	1～4	2
				選択	ITS105	全学総合E	1～4	2
				選択	ITS106	全学総合F	1～4	2
				選択	ITS107	全学総合G	1～4	2
				選択	ITS108	全学総合H	1～4	2
				選択	ITS109	全学総合I	1～4	2
				選択	ITS110	全学総合J	1～4	2
				選択	ITS111	全学総合K	1～4	2
				選択	ITS112	全学総合L	1～4	2
				選択	ITS113	全学総合M	1～4	2
	専門教育科目（90単位以上）	必修科目 (53単位)			BSC103	基礎化学	1	2
					BSC102	化学実験	1	2
					BAB102	基礎微生物学	1	2
					BAB103	生物学	1	2
					FOS101	フードサイエンスの化学	1	2
				BAB201	生物学実験	2	3	
				BLS201	基礎生化学	2	2	
				ORC202	有機化学Ⅱ	2	2	
				CEB201	細胞生物学	2	2	
				FOS203	フードサイエンス実験Ⅰ	2	3	
				HLS201	基礎栄養学	2	2	
				PMB202	植物バイオテクノロジー概論	2	2	
				MOB201	分子生物学概論	2	2	
				FOS205	食環境科学英語Ⅰ	2	2	
				FOS308	フードサイエンス実験Ⅱ	3	3	
				FOS302	食品衛生学	3	2	

※が付いている科目はすべて、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目です。

卒業要件	科目群名	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
専門教育科目（90単位以上）	必修科目 (53 単位)	FOS301	機能食品科学	3	2
		FOS310	食環境科学英語Ⅱ	3	2
		BIC301	生体高分子化学	3	2
		APM304	食品微生物利用学	3	2
		APB302	応用酵素学	3	2
		ASS401	食品技術者と倫理	3	2
		SEM401	食環境科学輪講Ⅰ	4	2
		THE401	卒業研究	4	2
		THE402	卒業論文	4	2
	選択必修 (22 単位以上)	BAB101	基礎生物学	1	2
		PHY102	物理Ⅰ	1	2
		BAM101	人体の構造と機能	1	2
		PHY103	物理Ⅱ	1	2
		PHY104	物理実験	1	2
		INC101	無機化学	1	2
		ORC101	有機化学Ⅰ	1	2
		EAH102	フードコーディネータ論	1	2
		STS101	生物統計学	1	2
		EAH101	フードスペシャリスト特別講義	1	2
		PMB201	植物生理学	2	2
		ASS201	食品流通学	2	2
		HPH201	公衆衛生学	2	2
		FOS207	機器分析	2	2
		FOS208	食品分析学概論	2	2
		FOS204	食品学概論	2	2
		HLS202	調理科学実習	2	2
		FOS201	フードエンジニアリング	2	2
		HLS203	食品物性論	2	2
		EAH201	食育論	2	2
		SEP202	地学	2	2
		BPC201	物理化学	2	2
		APM201	微生物生理学	2	2
		GLG201	地学概論（実験含む）	2	2
		ORC201	生物有機化学	2	2
		FOS206	食品科学特別講義	2	2
		HLS204	美味しさの科学	2	2
FOS202	食品化学	2	2		
MUD201	ビッグデータ入門	2	2		
CIV301	実務研修Ⅰ	2	1		
CIV302	実務研修Ⅱ	2	2		
FOS307	生物資源利用学	3	2		
SGB301	植物遺伝育種学	3	2		
AMC301	遺伝子工学	3	2		
AMC302	食品バイオテクノロジー	3	2		

卒業要件	科目群名	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
専門教育科目（90単位以上）	選択必修 (22 単位以上)	FOS304	食品官能評価概論	3	2
		HLS301	応用栄養学	3	2
		FOS309	食品安全学	3	2
		APM301	プロバイオティクス	3	2
		FOS303	食品検査概論	3	2
		PHP301	ファイトセラピー論	3	2
		EER301	環境修復学	3	2
		HLS304	フードパッケージング論	3	2
		MUD301	ビッグデータ解析演習	3	2
		APM303	食品微生物制御学	3	2
		CPH301	食品添加物概論	3	2
		ITS301	知的財産法	3	2
		FOS306	食品加工貯蔵学	3	2
		FOS305	H A C C P 論	3	2
		PMC301	予防・臨床栄養学	3	2
		DEV301	バイオエネルギー	3	2
		SGB302	動物バイオテクノロジー	3	2
	SEM402	食環境科学輪講Ⅱ	4	2	
	選択	ECE101	生態学	1	2
		ALG101	微分積分学	1	2
		AHS101	スポーツと栄養学	1	2
		BAA101	解析学	1	2
		HLS205	味とニオイの科学	2	2
		APM202	微生物利用学	2	2
		ECO201	地域産業論	2	2
		HLS302	スパイスの科学	3	2
ECO301		マーケティング入門	3	2	
HLS303		ソムリエ講座	3	2	

科目群名	科目 ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
他学部他学科科目	DEB101	発生・再生生物学	1	2
	ANC201	分析化学	2	2
	ESR201	地球環境学	2	2
	PMB203	植物分子栄養学	2	2
	GEB302	ゲノムインフォマティクス	3	2
	BRC302	メディカルバイオテクノロジー	3	2
	BRC301	糖鎖科学	3	2
	BSB301	脳科学	3	2
	PMB301	植物生化学	3	2
	PMB302	植物環境生理学	3	2
	BLS102	生物統計学	1	2
	SEE101	技術倫理	1	2
	APM103	微生物学	1	2
	BIP201	薬物生体作用学	2	2
	PNS201	植物代謝化学	2	2
	APM203	環境微生物学	2	2
	STP201	古生物学	2	2
	SOC201	公害防止総論	2	2
	APM302	極限環境微生物学	3	2
	BRC303	酵素工学	3	2
EER303	水圏環境科学	3	2	
教職科目	ESS301	理科指導法 I A	3	2
	ESS302	理科指導法 I B	3	2
	ESS303	理科指導法 II A	3	2
	ESS304	理科指導法 II B	3	2
	EDU104	教育学概論	1	2
	EDU103	教職概論	1	2
	EDU101	教育の制度と経営	1	2
	EDP201	教育心理学	2	2
	EDU105	特別支援教育基礎論	1	2
	EDU102	教育課程論	1	2
	EDU204	道徳教育論	2	2
	EDU301	総合的な学習の時間の指導法	3	2
	EDU203	特別活動の理論と方法	2	2
	EDU201	教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	2	2
	EDU202	生徒指導論（進路指導論を含む）	2	2
	EDP202	教育相談	2	2
	ESS401	教育実習 I（事前・事後指導を含む）	4	5
	ESS402	教育実習 II（事前・事後指導を含む）	4	3
	EDU401	教職実践演習（中・高）	4	2

食環境科学部食環境科学科フードサイエンス専攻 教育課程表

		1		2		3		4			
		授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋		
食環境科学科 (フードサイエンス専攻) 基盤教育科目 (24)	哲学・思想 (4)	井上円了と東洋大学 生命論	2 2	生命倫理	2	哲学入門	2	生命哲学	2		
	学問の基礎 (4)	人文科学	心理学	2	文化人類学入門	2	人文地理学入門	2			
		社会科学	経済学入門 法学入門	2 2	スポーツ社会学 社会学入門	2 2	ソーシャルサーベイ概論	2	政治学入門	2	
		自然科学	現代化学 現代生物学	2 2	科学技術論 数学の世界	2 2	現代物理 食と健康	2 2	生命科学史	2	
	世界の伝統と文化		欧米の文学と文化	2	異文化と社会事情	2	日本の食文化	2			
		グローバル社会の実際	文化間コミュニケーション	2	短期海外フィールドワーク	1	英語ビジネス実務	2	海外文化研修	2	
			留学のすすめ	2	異文化理解概論	2					
			海外研修 I	2	海外研修 II	2	海外実習 I	2	海外実習 II	2	
			短期海外研修 I	1	短期海外研修 II	1	短期海外研修 III	1	短期海外研修 IV	1	
	短期海外実習 I		1	短期海外実習 II	1	短期海外実習 III	1	短期海外実習 IV	1		
	国際人の形成	必 修 (8)	(外国語科目)								
			Integral English I	1	Integral English III	1	English for Liberal Arts I	1			
			Integral English II	1	Integral English IV	1	English for Liberal Arts II	1			
			English Communication I	1							
		English Communication II	1								
		語 学 選 択	中国語 I	1	中国語 II	1	ハングル I	1	ハングル II	1	
			フランス語 I	1	フランス語 II	1	スペイン語 I	1	スペイン語 II	1	
			テクニカルライティング	2	アカデミックライティング	2	Business English Communication	2			
			(留学支援科目 (LEAP))								
			IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	2	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	2					
			IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	2*2	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	2*2					
			Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	2*2	Pre-Study Abroad: Writing	1*1					
	(留学生対象科目)										
	日本語 I	1	日本語 II	1							
日本語と日本社会	1	日本語と日本文化	1								
(交換留学生のための初修日本語・日本文化科目)											
キャリア・市民形成	日本国憲法	2	産官学連携概論	2							
	情報処理基礎	2	情報処理演習	2							
健康・スポーツ科学	キャリアデザイン I	2	キャリアデザイン II	2							
	スポーツ健康科学実技 I	1	スポーツ健康科学実技 II	1	スポーツ健康科学実技 III	1	スポーツ健康科学実技 IV	1			
総合・学際	スポーツと健康 I	2	スポーツと健康 II	2							
	《特設テーマ：東洋大学フィロソフィ～自校について学ぼう～》										
	全学総合 A	2	全学総合 B	2	全学総合 C	2					
	《特設テーマ：数理・データサイエンス・AI》										
	全学総合 D	2	全学総合 E	2							
	全学総合 F	2	全学総合 G	2	全学総合 H	2	全学総合 I	2			
全学総合 J	2	全学総合 K	2	全学総合 L	2	全学総合 M	2				

※ 開講学期は変更となる場合があります。必ず毎年配信される最新の時間割表を確認してください。

※ *印は春学期・秋学期ともに開講している科目です。

		1		2		3		4	
		授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋
必 修 (53)		基礎化学	2	生物学実験	3	フードサイエンス実験Ⅱ	3	食環境科学輪講Ⅰ	2 * 2
		化学実験	2	基礎生化学	2	食品衛生学	2	卒業研究	2 * 2
		基礎微生物学	2	有機化学Ⅱ	2	機能食品科学	2	卒業論文	2 * 2
	生物学	2	細胞生物学	2	食環境科学英語Ⅱ	2			
	フードサイエンスの化学	2	フードサイエンス実験Ⅰ	3	生体高分子化学	2			
			基礎栄養学	2	食品微生物利用学	2			
			植物バイオテクノロジー概論	2	応用酵素学	2			
			分子生物学概論	2	食品技術者と倫理	2			
			食環境科学英語Ⅰ	2					
専 門 教 育 科 目 (90)	選 択 必 修 (22)	基礎生物学	2	植物生理学	2	生物資源利用学	2	食環境科学輪講Ⅱ	2 * 2
		物理Ⅰ	2	食品流通学	2	植物遺伝育種学	2		
		人体の構造と機能	2	公衆衛生学	2	遺伝子工学	2		
		物理Ⅱ	2	機器分析	2	食品バイオテクノロジー	2		
		物理実験	2	食品分析学概論	2	食品官能評価概論	2		
		無機化学	2	食品学概論	2	応用栄養学	2		
		有機化学Ⅰ	2	調理科学実習	2	食品安全学	2		
		フードコーディネータ論	2	フードエンジニアリング	2	プロバイオティクス	2		
		生物統計学	2	食品物性論	2	食品検査概論	2		
		フードスペシャリスト特別講義	2	食育論	2	ファイトセラピー論	2		
			地学	2	環境修復学	2			
			物理化学	2	フードパッケージング論	2			
			微生物生理学	2	ビッグデータ解析演習	2			
			地学概論（実験を含む）	2	食品微生物制御学	2			
			生物有機化学	2	食品添加物概論	2			
			食品科学特別講義	2	知的財産法	2			
			美味しさの科学	2	食品加工貯蔵学	2			
			食品化学	2	HACCP論	2			
			ビッグデータ入門	2	予防・臨床栄養学	2			
			実務研修Ⅰ	1	バイオエネルギー	2			
		実務研修Ⅱ	2	動物バイオテクノロジー	2				
選 択		生態学	2	味とニオイの科学	2	スパイスの科学	2		
		微分積分学	2	微生物利用学	2	マーケティング入門	2		
		スポーツと栄養学	2	地域産業論	2	ソムリエ講座	2		
		解析学	2						

※ 開講学期は変更となる場合があります。必ず毎年配信される最新の時間割表を確認してください。

※ *印は春学期・秋学期ともに開講している科目です。

※ 斜体になっている科目は「食品衛生管理者および食品衛生監視員（任用資格）」を得るために必要な科目です。

詳細はP86を参照してください。

食環境科学科の開放領域 ……生命科学部生命科学科・応用生物科学科の専門教育科目（実験・演習・卒業論文を除く）で食環境科学科の学生が履修可能な科目
 （他学部他学科）

1	2	3	4
授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）	授業科目（単位数）
生命科学部 生命科学科 専門教育科目			
発生・再生生物学（2）	分析化学（2） 地球環境学（2） 植物分子栄養学（2）	ゲノムインフォマティクス（2） メディカルバイオテクノロジー（2） 糖鎖科学（2） 脳科学（2） 植物生化学（2） 植物環境生理学（2）	
生命科学部 応用生物科学科 専門教育科目			
生物統計学（2） 技術倫理（2） 微生物学（2）	薬物生体作用学（2） 植物代謝化学（2） 環境微生物学（2） 古生物学（2） 公害防止総論（2）	極限環境微生物学（2） 酵素工学（2） 水圏環境科学（2）	

第3章 健康栄養学科

履修方法と学科教育課程表



健康栄養学科の教育研究上の目的

1. 人材の養成に関する目的

生命科学分野の幅広い知識を有し、健康と食との間をつなぐ専門的知識と技術を修得し、医療・福祉・栄養行政の分野の専門職を目指して、社会に貢献できる高度な知識と技術力をもった管理栄養士として、地域社会に参画し、人々の生活の質（QOL）の向上に貢献できる人材の育成を目的とする。

2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

最新の生命科学、バイオテクノロジーをもとに、生物学的な観点から社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康を専門基礎科目として学び、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論の講義および実験実習を通して、専門知識を修得し、学外実習の臨地実習で専門的知識及び技能の統合を図り、管理栄養士としての能力を身に付けて社会で活躍できる実践力を養う。

健康栄養学科長

健康栄養学科 3つの教育方針

1. 卒業の認定及び学位授与に関する方針

- (1) 生命科学の幅広い知識を基盤とし、管理栄養士に必要な人体・食品・代謝・衛生等の基礎的知識と、行政・学校・病院・給食施設等の職場で働くにあたっての実践的知識・技能を有していること。
- (2) 国民の健康づくり、子供の食育、高齢者の介護、アスリートの栄養管理、傷病者の疾病治療、機能性食品の開発等に携わり、人々の健康維持・増進のために主体的かつ協動的に取り組み、社会に貢献できる能力を有していること。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針

- (1) 健康栄養学科では、基盤教育科目に社会人基礎力育成のための科目や短期海外研修科目を配して、キャリア形成支援とグローバル人材の育成を行うとともに、倫理観をもった管理栄養士を育成するための科目を配して、物の見方、考え方をしっかりと身につける教育を行います。
- (2) 専門基礎科目分野では、生命科学を基礎として社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康を学び、講義および実験実習を通して、専門知識の基礎を養います。専門科目分野では、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論の講義および実験実習を通して、専門知識を修得し、学外で実施する臨地実習にて専門的知識及び技能の統合を図ります。
- (3) 最新バイオテクノロジーの実践的知識を学ぶ科目、スポーツと栄養の関連について学ぶ科目を選択科目に導入し、管理栄養士としての幅広い知識とより専門的な能力を養います。

3. 入学者の受入れに関する方針

生命科学の基礎知識に立って、健康と食との間をつなぐ専門的知識と技術を修得し、医療・福祉・栄養行政・食品・スポーツ等の分野の専門職を目指す管理栄養士として、社会に貢献したいと考えている人、また、国内だけでなく海外での社会貢献を積極的に考えている意欲のある人を求めています。

求める学生像

- (1) 高等学校までの基礎的学力を有し、社会性を身につけている人
- (2) 本学科が管理栄養士としての専門的知識・技術を修得する場であると理解し、努力できる人
- (3) 食と栄養に関心を持っている人
- (4) 社会における食料、資源、環境、健康に関する問題に関心を持つと同時に、様々な事象について考察し、自分の考えをまとめることができる人
- (5) 本学科で学んだことを活かして社会に貢献したいという目的意識と向上心のある人
- (6) 国内外を問わず、管理栄養士として活躍し、将来的にはその指導的な役割を担う意欲がある人

1 健康栄養学科が目指す 管理栄養士像

健康栄養学科は、東洋大学建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」に則り、人々の健康の維持・増進に貢献する知徳兼全な人材育成を目的としています。また、国民の健康志向の高まりや食生活環境の多様化に応えるべく、学士課程で諸学の基礎である哲学を学び、その理念に基づき人間栄養学に基づいた管理栄養士を育成します。

本学科では、様々な栄養管理に関する知識を伝授するのみではなく、栄養マネジメントのできる管理栄養士の育成が必須と考えています。SBO (Specific Behavioral Objectives : 行動目標)「栄養マネジメントができる管理栄養士の育成」を達成するために、大学3年次以降は実践系科目を重点的に配備し、俯瞰的人間栄養学を具現化していきます。

2 カリキュラム上の特徴

健康栄養学科では、学科目標である「栄養マネジメントができる管理栄養士の育成」を達成するために、実学教育を重視する教育課程の編成を行なっています。

「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」及び「食べ物と健康」よりなる「専門基礎科目」において管理栄養士の専門性を高めるための基盤となる能力を養った後、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」よりなる「専門科目」において管理栄養士としての専門的知識・技術を修得します。4年次には、学内で修得した専門的知識及び技術の統合を図るため、「総合演習」及び「臨地実習」を配置し、病院、保健センター、保健所など管理栄養士の職場における学外実習も行っています。

また、「基盤教育科目」として哲学・思想、学問の基礎、国際人の形成、キャリア・市民形成、総合・学際、外国語系教育科目、留学支援科目を配置することで、リベラル・アーツに基づいた学士教育を行うと共に、本学における建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を礎とした管理栄養士の育成を行っています。

3 学級数

食環境科学部健康栄養学科では、「管理栄養士国家試験受験資格」を得るために必須の科目において、以下の学級数で授業を行います。

授業科目等	学級数
講義・演習	1クラス
実験・実習	3クラス

食環境科学部 健康栄養学科 カリキュラムマップ

＜取得可能な資格＞栄養士、管理栄養士、栄養教諭一種免許、食品衛生管理者、食品衛生監視員、
甲種危険物取扱者、上級・中級バイオ技術者認定試験、フードスペシャリスト

—卒業後の進路—

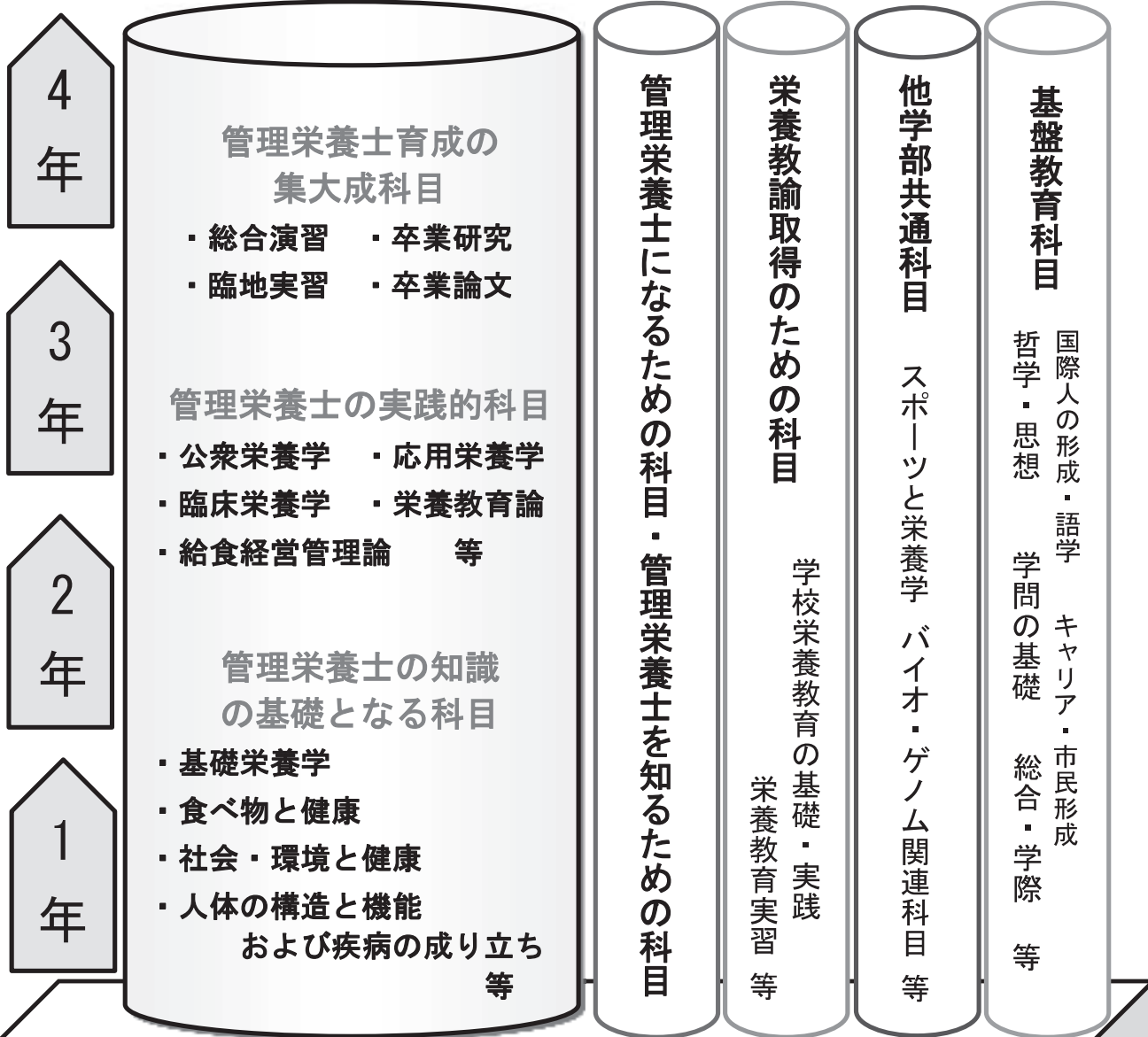
病院、給食受託会社、スポーツ関連施設、行政、高齢者福祉施設、学校、保育所
薬局（ドラッグストア）、食品会社、大学院 等



管理栄養士国家試験合格

高度な専門的知識・技術を持ち

幅広い分野で活躍できる管理栄養士の育成



食環境科学部 健康栄養学科 入学（男女共学）

4 健康栄養学科卒業要件

卒業に必要な単位数は、124単位以上で、次の表に掲げる所定の単位を修得しなければなりません。

食環境科学部 健康栄養学科			
授 業 科 目 区 分		卒業要件単位数	
基 盤 教 育 科 目	哲学・思想		4 単位以上
	学問の基礎	人文科学	4 単位以上
		社会科学	
		自然科学	
	国際人の形成	世界の伝統と文化	24単位以上
		グローバル社会の実際	
		語学	
	キャリア・市民形成		必修科目 6 単位
健康・スポーツ科学			
総合・学際			
専 門 教 育 科 目	必修		61 単位
	選択必修		90 単位以上
	選択		10 単位以上
合 計		124単位以上	

5 年次別履修単位数制限

下記のとおり年次別に履修できる単位数が制限されています。

	年 間	卒業に必要な単位として認められる科目		卒業に必要な単位として認められない科目
		春学期	秋学期	
1 年次	48	24	24	制限なし
2 年次	48	24	24	
3 年次	48	24	24	
4 年次	48	24	24	

<卒業に必要な単位として認められる科目>

基盤教育科目、専門教育科目

<卒業に必要な単位として認められない科目>

教職課程の教育の基礎的理解に関する科目等（栄養一免）

（教職概論、教育心理学等（P75、77参照））

自由科目（P49参照）

※既に単位を修得した科目は履修できません。

6 4年次必修授業受講条件

4年次必修授業を受講するためには3年次（第6セメスタ）までに、下記条件を満たさなければなりません。

修得単位は、卒業に必要な科目として認められている科目のものとします。

食環境科学部 健康栄養学科			
授 業 科 目 区 分		4年次必修授業受講条件単位数	
基 盤 教 育 科 目	哲学・思想		4単位以上
	学問の基礎	人文科学	4単位以上
		社会科学	
		自然科学	
	国際人の形成	世界の伝統と文化	24単位以上
		グローバル社会の実際	
		語学	
	キャリア・市民形成		必修科目6単位
健康・スポーツ科学			
総合・学際			
専 門 教 育 科 目	必修		50単位以上
	選択必修		
	選択		
合 計		105単位以上	

以上の条件がすべて満たさなければ、4年次開講の必修科目を受講することができず、卒業時期が延期になります。

7 履修上の注意

基盤教育科目

【基盤教育科目】

基盤教育科目では、合計24単位以上を修得しなければなりません。

哲学・思想、学問の基礎では、それぞれ4単位以上を修得しなければなりません。

外国語系教育科目では、必修6単位（外国人留学生は8単位）を修得しなければなりません。

専門教育科目

【専門教育科目】

専門教育科目では、4年間で必修61単位、選択必修10単位を含め、合計90単位以上を修得しなければなりません。

【必修】

必修では、1年次8科目14単位、2年次16科目26単位、3年次12科目17単位、4年次2科目4単位の計61単位を修得しなければなりません。

【選択必修】

選択必修では、計10単位以上を修得しなければなりません。

開放領域について

制限単位数内ならば、食環境科学部食環境科学科で開講している一部の科目を履修することができます（P58参照）。修得した単位は卒業単位「開放領域（他学部他学科）」に含みます。

なお、履修にあたっては、開講学部・学科の指示に従ってください。

自由科目

所属学科の教育課程表にない科目は、「自由科目」として履修することができます。修得した単位は卒業単位に含みません。申請用紙（板倉事務課窓口で配布）に記入の上、授業担当教員から許可印または署名を受け、板倉事務課窓口へ提出してください。

自由科目は履修単位数制限（24単位）に含まれません。

配当学年（セメスタ）は開講している学部・学科の配当学年（セメスタ）に従ってください。

卒業要件を上回って修得した単位について

各要件を上回って修得した単位は、卒業要件の単位として換算されます。

※124（卒業単位）－114（要件単位）＝残り10単位は基盤教育科目・専門教育科目のどの領域から修得しても換算されます。

食環境科学部健康栄養学科 教育課程表（科目一覧表）

※科目区分における（ ）内の数字は、その区分の最低必要単位数です。

卒業要件	科目群名	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
基盤教育科目 (24単位数以上)	哲学・思想 (4単位数以上)	選択必修	TYS101	井上円了と東洋大学	1～4	2	
		選択必修	PHT101	生命倫理	1～4	2	
		選択必修	PHT103	哲学入門	1～4	2	
		選択必修	PHT104	生命哲学	1～4	2	
		選択必修	PHT102	生命論	1～4	2	
	学問の基礎 (4単位数以上)	人文科学	選択	PSY102	心理学	1～4	2
			選択	CUA101	文化人類学入門	1～4	2
			選択	HUG101	人文地理学入門	1～4	2
		社会科学	選択	ECO101	経済学入門	1～4	2
			選択	PSY101	スポーツ社会学	1～4	2
			選択	SOC101	ソーシャルサーベイ概論	1～4	2
			選択	POL101	政治学入門	1～4	2
			選択	FUL101	法学入門	1～4	2
			選択	SOC102	社会学入門	1～4	2
			自然科学	選択	BSC101	現代化学	1～4
		選択		SHS101	科学技術論	1～4	2
		選択		PHY101	現代物理	1～4	2
		選択		EVB101	生命科学史	1～4	2
		選択		BAB104	現代生物学	1～4	2
	選択	MAT101		数学の世界	1～4	2	
	世界の伝統と文化	選択	EAH103	食と健康	1～4	2	
		選択	LIE101	欧米の文学と文化	1～4	2	
		選択	IHR102	異文化と社会事情	1～4	2	
	国際人の形成	グローバル社会の実際	選択	EAH104	日本の食文化	1～4	2
			選択	IHR101	文化間コミュニケーション	1～4	2
			選択	IHR119	短期海外フィールドワーク	1～4	1
		語学	選択	IHR118	英語ビジネス実務	1～4	2
			選択	IHR120	海外文化研修	1～4	2
			選択	IHR105	留学のすすめ	1～4	2
			選択	IHR104	異文化理解概論	1～4	2
			選択	IHR106	海外研修Ⅰ	1～4	2
			選択	IHR107	海外研修Ⅱ	1～4	2
			選択	IHR108	海外実習Ⅰ	1～4	2
選択			IHR109	海外実習Ⅱ	1～4	2	
選択			IHR110	短期海外研修Ⅰ	1～4	1	
選択			IHR111	短期海外研修Ⅱ	1～4	1	
選択			IHR112	短期海外研修Ⅲ	1～4	1	
選択			IHR113	短期海外研修Ⅳ	1～4	1	
選択			IHR114	短期海外実習Ⅰ	1～4	1	
選択			IHR115	短期海外実習Ⅱ	1～4	1	
選択	IHR116	短期海外実習Ⅲ	1～4	1			
選択	IHR117	短期海外実習Ⅳ	1～4	1			
語学	必修	ENG101	Integral English I	1	1		
	必修	ENG103	Integral English II	1	1		

卒業要件	科目群名	必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	
基盤教育科目 (24単位以上)	国際人の形成	語学	必修	ENG102	English Communication I	1	1
			必修	ENG104	English Communication II	1	1
			必修	ENG201	Integral English III	2	1
			必修	ENG202	Integral English IV	2	1
			選択	ENG301	English for Liberal Arts I	1～4	1
			選択	ENG302	English for Liberal Arts II	1～4	1
			選択	CHI101	中国語 I	1～4	1
			選択	CHI102	中国語 II	1～4	1
			選択	KOR101	ハングル I	1～4	1
			選択	KOR102	ハングル II	1～4	1
			選択	FRA101	フランス語 I	1～4	1
			選択	FRA102	フランス語 II	1～4	1
			選択	SPA101	スペイン語 I	1～4	1
			選択	SPA102	スペイン語 II	1～4	1
			選択	ECD101	テクニカルライティング	1～4	2
			選択	ECD102	アカデミックライティング	1～4	2
			選択	ENG108	Business English Communication	1～4	2
			選択	ENG109	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG110	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	1～4	2
			選択	ENG111	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG112	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1～4	2
			選択	ENG113	Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1～4	2
			選択	ENG114	Pre-Study Abroad: Writing	1～4	1
			選択	JPN101	日本語 I	1	1
			選択	JPN201	日本語 II	2	1
			選択	JPN102	日本語と日本社会	1	1
			選択	JPN202	日本語と日本文化	2	1
			選択	JPN103	* Japanese for Beginners: Theory	1～4	2
			選択	JPN104	* Japanese for Beginners: Practice	1～4	2
			選択	JPN105	* Integrated Japanese I Theory	1～4	2
			選択	JPN106	* Integrated Japanese I Practice	1～4	2
			選択	JPN107	* Integrated Japanese II Theory	1～4	2
			選択	JPN108	* Integrated Japanese II Practice	1～4	2
			選択	JPN109	* Integrated Japanese III Theory	1～4	2
			選択	JPN110	* Integrated Japanese III Practice	1～4	2
			選択	JPN111	* Japanese Reading I	1～4	1
			選択	JPN112	* Japanese Reading II	1～4	1
			選択	JPN113	* Japanese Reading III	1～4	1
			選択	JPN114	* Japanese Listening I	1～4	1
			選択	JPN115	* Japanese Listening II	1～4	1
			選択	JPN116	* Japanese Listening III	1～4	1
			選択	JPN117	* Japanese Writing I	1～4	1
			選択	JPN118	* Japanese Writing II	1～4	1
選択	JPN119	* Japanese Writing III	1～4	1			
選択	JPN120	* Project Work I	1～4	1			
選択	JPN121	* Project Work II	1～4	1			
選択	JPN122	* Project Work III	1～4	1			
選択	JPN123	* Japanese Culture and Society A	1～4	2			

※が付いている科目はすべて、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目です。

卒業要件	科目群名		必修/選択	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	管理栄養士必修	栄養士必修	
基盤教育科目 (24単位以上)	国際人の形成	語学	選択	JPN124	* Japanese Culture and Society B	1～4	2			
			選択	JPN125	* Introduction to Japanology A	1～4	2			
			選択	JPN126	* Introduction to Japanology B	1～4	2			
	キャリア・市民形成			選択	PUL101	日本国憲法	1～4	2		
				選択	ARS101	産官学連携概論	1～4	2		
				選択	HUI101	情報処理基礎	1～4	2		
				選択	HUI102	情報処理演習	1～4	2		
				選択	CIV101	キャリアデザインⅠ	1	2		
				選択	CIV201	キャリアデザインⅡ	2	2		
				健康・スポーツ科学			選択	HSS110	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1～4
	選択	HSS111	スポーツ健康科学実技Ⅱ				1～4	1		
	選択	HSS112	スポーツ健康科学実技Ⅲ				1～4	1		
	選択	HSS113	スポーツ健康科学実技Ⅳ				1～4	1		
	選択	HSS108	スポーツと健康Ⅰ				1～4	2		
	選択	HSS109	スポーツと健康Ⅱ				1～4	2		
	総合・学際			選択	ITS101	全学総合 A	1～4	2		
				選択	ITS102	全学総合 B	1～4	2		
				選択	ITS103	全学総合 C	1～4	2		
				選択	ITS104	全学総合 D	1～4	2		
				選択	ITS105	全学総合 E	1～4	2		
				選択	ITS106	全学総合 F	1～4	2		
				選択	ITS107	全学総合 G	1～4	2		
				選択	ITS108	全学総合 H	1～4	2		
選択				ITS109	全学総合 I	1～4	2			
選択				ITS110	全学総合 J	1～4	2			
選択				ITS111	全学総合 K	1～4	2			
選択				ITS112	全学総合 L	1～4	2			
選択				ITS113	全学総合 M	1～4	2			
専門教育科目 (90単位以上)	必修科目 (61単位)			GMC101	生化学	1	2	●	●	
				AHS101	基礎栄養学Ⅰ	1	2	●	●	
				FOS102	食品学Ⅰ	1	2	●	●	
				GEA101	解剖生理学	1	2	●	●	
				HPH101	社会・環境と健康Ⅰ	1	2	●	●	
				EAH103	調理科学	1	2	●		
				AHS103	基礎栄養学実験	1	1	●	●	
				EAH104	調理学実習Ⅰ	1	1	●	●	
				FOS202	食品学Ⅱ	2	2	●	●	
				FOS203	食品衛生学	2	2	●	●	
				AHS201	応用栄養学Ⅰ	2	2	●	●	
				HPH201	公衆栄養学Ⅰ	2	2	●	●	
				EAH203	調理科学実験	2	1	●		
				GEA201	解剖生理学実験	2	1	●	●	
				FOS201	食品学実験Ⅰ	2	1	●	●	
				GMC201	生化学実験Ⅰ	2	1	●	●	
				EAH201	給食経営管理論Ⅰ	2	2	●	●	
				AHS205	臨床栄養学Ⅰ	2	2	●	●	
				AHS204	栄養教育論Ⅰ	2	2	●	●	
	HPH202	社会・環境と健康Ⅱ	2	2	●	●				

※が付いている科目はすべて、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目です。

卒業要件	科目群名	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	管理栄養士必修	栄養士必修
専門教育科目 (90単位以上)	必修科目 (61単位)	BAM201	基礎医学	2	2	●	●
		FOS206	食品衛生学実験	2	1	●	●
		AHS203	応用栄養学実習Ⅰ	2	1	●	●
		EAH204	栄養カウンセリング論	2	2	●	
		AHS307	臨床栄養学Ⅱ	3	2	●	●
		AHS305	栄養教育論Ⅱ	3	2	●	●
		SSE301	給食経営管理論Ⅱ	3	2	●	●
		BAM302	臨床医学Ⅰ	3	2	●	
		HPH301	公衆栄養学実習	3	1	●	●
		AHS302	臨床栄養学実習Ⅰ	3	1	●	●
		AHS306	応用栄養学実習Ⅱ	3	1	●	●
		EAH301	給食経営管理実習	3	1	●	●
		EAH305	調理学実習Ⅱ	3	1	●	
		BAM303	臨床医学Ⅱ	3	2	●	
		AHS303	栄養教育論実習	3	1	●	●
		AHS301	臨床栄養学実習Ⅱ	3	1	●	●
		AHS408	健康栄養学科輪講Ⅰ	4	2		
		AHS409	健康栄養学科輪講Ⅱ	4	2		
	選択必修 (10単位)	ORC101	基礎化学	1	2	●	●
		EAH106	微生物学	1	2	●	
		AHS102	基礎栄養学Ⅱ	1	2		
		EAH202	微生物学実験	2	1	●	
		AHS202	応用栄養学Ⅱ	2	2	●	
		HPH203	公衆栄養学Ⅱ	2	2	●	
		GMC202	生化学実験Ⅱ	2	1	●	
		FOS204	食品学実験Ⅱ	2	1	●	
		AHS308	臨床栄養学Ⅲ	3	2	●	
		AHS304	臨床栄養学Ⅳ	3	2	●	
		HPH302	社会・環境と健康Ⅲ	3	2	●	
		ITS301	事前演習	3	2		
		AHS402	総合演習	4	2	●	
		EAH302	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	4	1	●	●
		SSE401	臨地実習Ⅱ（臨床栄養学Ⅰ）	4	1	●	
AHS405	臨地実習Ⅲ（給食経営管理論）	4	1	※1			
HPH404	臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ⅱ）※2	4	1	※1			
AHS406	臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ⅲ）※3	4	1	※1			
HPH407	臨地実習Ⅵ（公衆栄養学）	4	1	※1			
選択	FOS103	食品機能性分析学	1	2			
	ECE101	生態学	1	2			
	EAH101	食生活論	1	2			
	STS101	統計の基礎	1	2			
	FOS101	食品分析学	1	2			
	EAH105	スポーツ栄養科学	1	2			
	EAH102	フードコーディネート論	1	2			

※1 4科目のうち2科目を選択

※2 臨地実習Ⅱ（臨床栄養学Ⅰ）を履修している場合のみ、臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ⅱ）を履修可

※3 臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ⅱ）を履修している場合のみ、臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ⅲ）を履修可

卒業要件	科目群名	科目ナンバリング	科目名	配当学年	単位数	管理栄養士必修	栄養士必修
専門教育科目 (90単位以上)	選択	EAH107	食生活実習	1	2		
		ASS201	食品流通学	2	2		
		HSS201	運動生理学	2	2		
		MOB201	分子生物学概論	2	2		
		FOS205	フードエンジニアリング	2	2		
		FOS301	食品機能学	3	2		
		AHS310	学校栄養教育の基礎	3	2		
		FOS303	食品検査概論	3	2		
		FOS302	食品安全学	3	2		
		FOS304	食品官能評価概論	3	2		
		AMC301	遺伝子工学	3	2		
		AMC205	食品バイオテクノロジー	3	2		
		ORC301	生体高分子化学	3	2		
		HSS301	スポーツ栄養学	3	2	●	
		AHS311	学校栄養教育の実践	3	2		
		HSS302	スポーツ心理学	3	2		
		THE402	卒業研究	4	2		
		THE401	卒業論文	4	2		
		BAM401	実践人体の構造及び疾病の成り立ち	4	2		
		FOS401	実践食べ物と健康	4	2		
		AHS410	実践基礎栄養学	4	2		
		HPH406	実践公衆栄養学	4	2		
		SSE402	実践給食経営管理論	4	2		
		AHS411	実践応用栄養学	4	2		
		AHS412	実践臨床栄養学	4	2		
		AHS413	実践栄養教育論	4	2		
HPH405	実践社会・環境と健康	4	2				

科目群名	科目 ナンバリング	科目名	配当学年	単位数
他学部他学科科目	EAH108	フードスペシャリスト特別講義	1	2
	AHS104	スポーツと栄養学	1	2
教職課程	EDU104	教育学概論	1	2
	EDU103	教職概論	1	2
	EDU101	教育の制度と経営	1	2
	EDP201	教育心理学	2	2
	EDU105	特別支援教育基礎論	1	2
	EDU102	教育課程論	1	2
	EDU204	道徳教育論	2	2
	EDP203	特別活動の理論と方法 (総合的な学習の時間の指導法を含む)	2	2
	EDU201	教育方法の理論と実践 (情報通信技術の活用を含む)	2	2
	EDU205	生徒指導論 (進路指導論を含む)	2	2
	EDP202	教育相談	2	2
	ESS401	栄養教育実習 (事前・事後指導を含む)	4	2
	EDU401	教職実践演習 (栄養教諭)	4	2

食環境科学部健康栄養学科 教育課程表

		1		2		3		4			
		授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋		
基 盤 教 育 科 目 (24)	哲学・思想 (4)	井上円了と東洋大学 生命論	2 2	生命倫理	2	哲学入門	2	生命哲学	2		
	学問の 基礎 (4)	人文科学	心理学	2	文化人類学入門	2	人文地理学入門	2			
		社会科学	経済学入門 法学入門	2 2	スポーツ社会学 社会学入門	2 2	ソーシャルサーベイ概論	2	政治学入門	2	
		自然科学	現代化学 現代生物学	2 2	科学技術論 数学の世界	2 2	現代物理 食と健康	2 2	生命科学史	2	
	世界の伝統と文化		欧米の文学と文化	2	異文化と社会事情	2	日本の食文化	2			
		グローバル 社会の実際	文化間コミュニケーション 留学のすすめ	2 2	短期海外フィールドワーク 異文化理解概論	1 2	英語ビジネス実務	2	海外文化研修	2	
			海外研修 I 短期海外研修 I	2 1	海外研修 II 短期海外研修 II	2 1	海外実習 I 短期海外研修 III	2 1	海外実習 II 短期海外研修 IV	2 1	
			短期海外実習 I	1	短期海外実習 II	1	短期海外実習 III	1	短期海外実習 IV	1	
	国際人の 形成	必修 (6)	(外国語科目)								
			Integral English I	1	Integral English III	1					
			Integral English II	1	Integral English IV	1					
			English Communication I	1							
		語 学 選 択	English Communication II	1							
			English for Liberal Arts I	1	English for Liberal Arts II	1					
			中国語 I	1	中国語 II	1	ハングル I	1	ハングル II	1	
			フランス語 I	1	フランス語 II	1	スペイン語 I	1	スペイン語 II	1	
			テクニカルライティング	2	アカデミックライティング	2	Business English Communication	2			
			(留学支援科目 (LEAP))								
			IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking		2	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking		2			
			IELTS for Study Abroad I Reading/Writing		2*2	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing		2*2			
	Pre-Study Abroad: Listening/Speaking		2*2	Pre-Study Abroad: Writing		1*1					
	語 学 選 択	(留学生対象科目)	日本語 I	1	日本語 II	1					
			日本語と日本社会	1	日本語と日本文化	1					
(交換留学生のための初修日本語・日本文化科目)											
Japanese for Beginners: Theory		2*2	Japanese for Beginners: Practice		2*2						
Integrated Japanese I Theory		2*2	Integrated Japanese I Practice		2*2						
Integrated Japanese II Theory		2*2	Integrated Japanese II Practice		2*2						
Integrated Japanese III Theory		2*2	Integrated Japanese III Practice		2*2						
Japanese Reading I		1*1	Japanese Reading II		1*1	Japanese Reading III		1*1			
Japanese Listening I		1*1	Japanese Listening II		1*1	Japanese Listening III		1*1			
Japanese Writing I		1*1	Japanese Writing II		1*1	Japanese Writing III		1*1			
Project Work I		1*1	Project Work II		1*1	Project Work III		1*1			
Japanese Culture and Society A		2	Japanese Culture and Society B		2	Introduction to Japanology A		2			
Introduction to Japanology B		2									
キャリア・ 市民形成	日本国憲法	2	産官学連携概論	2							
	情報処理基礎	2	情報処理演習	2							
	キャリアデザイン I	2	キャリアデザイン II	2							
健康・スポーツ科学	スポーツ健康科学実技 I	1	スポーツ健康科学実技 II	1	スポーツ健康科学実技 III	1	スポーツ健康科学実技 IV	1			
	スポーツと健康 I	2	スポーツと健康 II	2							
総合・学際	《特設テーマ：東洋大学フィロソフィ～自校について学ぶ～》										
	全学総合 A	2	全学総合 B	2	全学総合 C	2					
	《特設テーマ：数理・データサイエンス・AI》										
	全学総合 D	2	全学総合 E	2							
	全学総合 F	2	全学総合 G	2	全学総合 H	2	全学総合 I	2			
全学総合 J	2	全学総合 K	2	全学総合 L	2	全学総合 M	2				

※ 開講学期は変更となる場合があります。必ず毎年配信される最新の時間割表で確認してください。

※ *印は春学期・秋学期ともに開講している科目です。

	1		2		3		4		
	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	授業科目	春 秋	
専 門 教 育 科 目 (61)	必 修	生化学	2	食品学Ⅱ	2	臨床栄養学Ⅱ	2	健康栄養学科輪講Ⅰ	2 * 2
		基礎栄養学Ⅰ	2	食品衛生学	2	栄養教育論Ⅱ	2	健康栄養学科輪講Ⅱ	2 * 2
		食品学Ⅰ	2	応用栄養学Ⅰ	2	給食経営管理論Ⅱ	2		
		解剖生理学	2	公衆栄養学Ⅰ	2	臨床医学Ⅰ	2		
		社会・環境と健康Ⅰ	2	調理科学実験	1	公衆栄養学実習	1		
		調理科学	2	解剖生理学実験	1	臨床栄養学実習Ⅰ	1		
		基礎栄養学実験	1	食品学実験Ⅰ	1	応用栄養学実習Ⅱ	1		
		調理学実習Ⅰ	1	生化学実験Ⅰ	1	給食経営管理実習	1		
				給食経営管理論Ⅰ	2	調理学実習Ⅱ	1		
				臨床栄養学Ⅰ	2	臨床医学Ⅱ	2		
				栄養教育論Ⅰ	2	栄養教育論実習	1		
				社会・環境と健康Ⅱ	2	臨床栄養学実習Ⅱ	1		
				基礎医学	2				
		食品衛生学実験	1						
		応用栄養学実習Ⅰ	1						
		栄養カウンセリング論	2						
選 択 必 修 (10)		基礎化学	2	微生物学実験	1	臨床栄養学Ⅲ	2	総合演習	2
		微生物学	2	応用栄養学Ⅱ	2	臨床栄養学Ⅳ	2	臨地実習Ⅰ(給食の運営)	1
		基礎栄養学Ⅱ	2	公衆栄養学Ⅱ	2	社会・環境と健康Ⅲ	2	臨地実習Ⅱ(臨床栄養学Ⅰ)	1
				生化学実験Ⅱ	1	事前演習	2	臨地実習Ⅲ(給食経営管理論)	1 * 1
				食品学実験Ⅱ	1			臨地実習Ⅳ(臨床栄養学Ⅱ)	1 * 1 * 2
						臨地実習Ⅴ(臨床栄養学Ⅲ)	1 * 1 * 3		
						臨地実習Ⅵ(公衆栄養学)	1 * 1		
選 択		食品機能性分析学	2	食品流通学	2	食品機能学	2	卒業研究	2 * 2
		生態学	2	運動生理学	2	学校栄養教育の基礎	2	卒業論文	2 * 2
		食生活論	2	分子生物学概論	2	食品検査概論	2	実践人体の構造及び疾病の成り立ち	2
		統計の基礎	2	フードエンジニアリング	2	食品安全学	2	実践食べ物と健康	2
		食品分析学	2			食品官能評価概論	2	実践基礎栄養学	2
		スポーツ栄養科学	2			遺伝子工学	2	実践公衆栄養学	2
		フードコーディネータ論	2			食品バイオテクノロジー	2	実践給食経営管理論	2
		食生活実習	2			生体高分子化学	2	実践応用栄養学	2
						スポーツ栄養学	2	実践臨床栄養学	2
						学校栄養教育の実践	2	実践栄養教育論	2
				スポーツ心理学	2	実践社会・環境と健康	2		

※ 開講学期は変更となる場合があります。必ず毎年配信される最新の時間割表で確認してください。

※ *印は春学期・秋学期ともに開講している科目です。

※ 1 4科目のうち、2科目を選択

※ 2 臨地実習Ⅱ(臨床栄養学Ⅰ)を履修している場合のみ、臨地実習Ⅳ(臨床栄養学Ⅱ)を履修可

※ 3 臨地実習Ⅳ(臨床栄養学Ⅱ)を履修している場合のみ、臨地実習Ⅴ(臨床栄養学Ⅲ)を履修可

健康栄養学科の開放領域 ……食環境科学部食環境科学科の専門教育科目で健康栄養学科の学生が履修可能な科目
 (他学部他学科)

1	2	3	4
授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)	授業科目 (単位数)
食環境科学部 食環境科学科 専門教育科目			
フードスペシャリスト特別講義 (2) スポーツと栄養学 (2)			



II 食環境科学部 学生支援プログラム

1. 英語単位認定制度
2. Toyo Global Leader (TGL) プログラム
3. 英語特別教育科目 LEAPプログラム
4. 大学院開講科目履修制度
5. 成績優秀者表彰制度
6. 聴講制度（群馬県内大学単位互換制度）
7. 実務研修（食環境科学科のみ）
8. 東京外国語大学の単位互換制度

1. 英語単位認定制度（食環境科学部）

1. 対象学生

食環境科学部に在学する学生

2. 制度の趣旨

外国語科目を単位認定することにより自身でさらに上級のレベルを目指した英語学習に充当してもらうことを目的とした制度です。

3. 単位認定基準

取得資格に応じて、以下の基準により単位を認定します。

	実用英語 技能検定	国際連合公用語 英語検定試験	TOEIC (IP 含む)	TOEFL (PBT・ITP)	TOEFL (iBT)	IELTS	認定科目と 単位数
認定基準①	2級	B級	644～495	519～467	67～51	5～4.5	2科目2単位
認定基準②	準1級以上	A級以上	990～645	677～520	120～68	9～5.5	4科目4単位

- ▶ 単位認定に関する資格の有効期限は、申請日より遡って2年以内とします。
- ▶ オンライン受検のスコアでは申請できません。
- ▶ 各認定基準で利用できる資格は1つのみとします。
- ▶ 認定基準①を利用し単位認定を受けた後、認定基準②を満たした場合は追加申請が可能です。追加申請を行った場合の上限単位数は、以前に認定基準①で認定された単位数を含め4科目4単位となります。

4. 申請方法

① 申請スケジュール

申請時期	結果通知	単位認定時期
1月	3月下旬	翌年度春学期末
7月	9月上旬	秋学期末
4月（履修登録期間）※	5月上旬	春学期末

※申請時期：4月（履修登録期間）は新入生（1年1セメスタ）のみ対象です。

② 申請方法

各検定試験のスコアデータをご用意の上、Google Forms（英語単位認定制度申請フォーム）から回答を送信し、申請してください。英語単位認定を申請する場合ToyoNet-Gの履修登録は不要です。

③ 申請可能科目

申請時の学年セメスタ	申請可能科目
1年1セメスタ	English Communication I、English Communication II English for Liberal Arts I 《健康栄養学科対象》 English for Liberal Arts II 《健康栄養学科対象》
1年2セメスタ 2年3セメスタ	English Communication I、English Communication II Integral English III、Integral English IV English for Liberal Arts I 《健康栄養学科対象》 English for Liberal Arts II 《健康栄養学科対象》
2年4セメスタ以上	English Communication I、English Communication II Integral English III、Integral English IV English for Liberal Arts I English for Liberal Arts II

5. 成績評価

評価は「**T**」（Transfer）とします。

英語単位認定は年間履修制限単位には含まれません。

2. Toyo Global Leader (TGL) プログラム

TGLプログラムは、東洋大学生が国内外で活躍できるグローバル人材となるために、「異文化環境における英語運用表現能力」、「多文化共生社会における価値創造能力」、「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って、「Gold 東洋グローバルリーダー最優秀賞」「Silver 東洋グローバルリーダー優秀賞」「Bronze 東洋グローバルリーダー敢闘賞」のランクごとに7つの認定要件を定め、各要件を満たした学生をToyo Global Leaderとして認定します。

1. 認定要件

下記のとおり、ランクごとに認定要件が設定されています。

認定要件	TGL Gold	TGL Silver	TGL Bronze
(1) 英語能力 (TOEIC® L&R)	730点	590点	—
(2) 外国語による授業科目の修得	40単位	20単位	10単位
(3) 外国語によるレポート・論文等執筆	必須	—	—
(4) 海外留学・インターンシップ	必須	どちらかを必須	—
(5) 海外アクティビティ	必須		—
(6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ	必須 (運営)	必須 (参加)	必須 (参加)
(7) Toyo Global (TG) ポイント	30ポイント	20ポイント	10ポイント

2. 認定要件について

(1) 英語能力

英語資格試験のスコアにより認定します。TOEIC® L&R (公開テストおよびIPテスト)のほか、TOEFL iBT®, TOEFL ITP®, IELTS™, CASECのスコアをTOEIC® L&Rスコアに換算します。なお、スコアは在学中に受験したものに限りします。

(2) 外国語による授業科目の修得

基盤教育の語学科目や開講言語が外国語の授業科目および英語特別教育科目の修得単位数を加算していきます。また、海外留学や海外インターンシップ等により認定された科目の単位数も加算できます。

さらに、卒業論文等を外国語で執筆した場合、卒業論文の科目の単位数も加算します。

(3) 外国語によるレポート・論文等執筆

下記 a. b. c. のいずれかに当てはまるレポート・論文等を執筆し、a. b. については、指導教員の確認書と共に提出することで認定します。

a. 言語を問わず執筆した卒業論文等の英文要旨もしくは英語で執筆した卒業論文等

b. 授業内で各言語(日本語を除く)により作成し提出された論文等

※外国人留学生については日本語(ネイティブ言語以外)での執筆も認める。

c. 国際教育センターで設定したテーマに基づいた英語の課題論文

(4) 海外留学・インターンシップ

海外での活動が連続で3週間(現地入国から出国までが21日間)以上*の留学やインターンシップを対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

※海外での活動が4週間(28日間)以上であれば、[(5)海外アクティビティ]の要件と合わせて達成となります。

(5) 海外アクティビティ

上記(4)に該当しない、海外での活動が連続で1週間(現地入国から出国までが7日間)以上の留学、研修、インターンシップ、ボランティア等の活動を対象とします。大学で開催しているプログラムのほか、学外機関が主催するプログラムも活動内容等により対象となります。なお、単位認定の有無は問いません。

(6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ

本学で実施する「東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ」への参加(または運営補助者としての参加)により認められます。
※2回以上の参加で、自動的に運営スタッフとなります。

(7) Toyo Global (TG) ポイント

国内外の国際交流活動(海外留学、インターンシップ、ボランティア、国際シンポジウム等)および課外語学講座等への参加がポイントの対象となります。ポイントは各活動期間に応じて付与します。

※要件(4)(5)については、オンラインプログラムも付与対象になる場合がございます。適用条件などの詳細はToyoNet-ACEの「TOYO GLOBAL DIAMONDS(国際交流情報)」コースを確認してください。

【TGL プログラムの仕組み】

一度の取り組みで複数の認定要件に当てはまる場合があります。

<例>

東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプに参加した。

認定要件	結 果
(6) 東洋グローバルリーダー (TGL) キャンプ	⇒ 認定(参加)
(7) Toyo Global (TG) ポイント	⇒ 1ポイント付与(半日のプログラム) 2ポイント付与(1日のプログラム)

<例>

交換留学で1年間海外渡航(TOEFL ITP®550点を保有)。

留学先で英語による専門科目5科目を修得、東洋大学で5科目×2単位=10単位が認定された。

認定要件	結 果
(1) 英語能力	⇒ 認定(TOEIC®L&R730点に換算)
(2) 外国語による授業科目の修得	⇒ 10単位加算
(4) 海外留学・インターンシップ	⇒ 要件クリア
(5) 海外アクティビティ	⇒ 要件クリア
(7) Toyo Global (TG) ポイント	⇒ 30ポイント付与

プログラムの詳細は、ToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS(国際交流情報)」コース内、「東洋グローバルリーダー (TGL) プログラム」を確認してください。

https://www.toyo.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1324577



【TGL プログラム問い合わせ先】

国際部〔国際教育センター〕(白山キャンパス 8号館1階)

E-mail: ml-tgl@toyo.jp

3. 英語特別教育科目 LEAPプログラム

LEAP (Learning English for Academic Purposes) プログラムは将来海外留学を目指す学生や、英語力を高めたいと希望する学生を対象とした学術英語プログラムです。留学に必要なIELTS™のスコアアップに加えて、大学レベルの授業を英語で受けるのに対応できるだけの学習スキルの習得も目指します。LEAPの授業は英語で行われるため、内容を理解し、課題などをこなしていくために基礎的な英語力が必要となります。修得した単位は卒業単位として認められます。

LEAPは、英語力に応じてIELTS I、IELTS II、PSAの3段階に分かれています。
IELTS I : IELTS™を受験したことがない学生に推奨
IELTS II : IELTS™4.5点程度 (TOEFL ITP® 470~500点未満) の学生が対象。(白山キャンパスでのみ開講)
PSA (留学準備コース) : IELTS™5.0点程度 (TOEFL ITP® 500点以上) 以上の学生が対象。(白山キャンパスでのみ開講)
※上記の基準スコアは受講者数や、スコア分布により変動する場合があります。

LEAP IELTS I は、IELTS I Listening/Speaking と IELTS I Reading/Writing の2つの科目に分かれています。春学期にListening/Speaking、秋学期にReading/Writing科目を開講します。

Listening/Speaking (週2日・2単位) …ListeningとSpeakingに特化した科目
Reading/Writing (週2日・2単位) …ReadingとWritingに特化した科目

IELTS™4.5以上またはそれに相当する英語試験のスコアを取得している場合はIELTS II、IELTS™5.0以上またはそれに相当する英語試験のスコアを取得している場合はPSA科目の履修が可能です。IELTS II、PSA科目は白山キャンパスで開講されます。開講時間は白山の時間割ですので、注意してください。

IELTS II は、IELTS II Listening/Speaking と IELTS II Reading/Writing の2つの科目に分かれています。

Listening/Speaking (週2回・2単位) …ListeningとSpeakingに特化した科目
Reading/Writing (週2回・2単位) …ReadingとWritingに特化した科目

PSA は次の2科目から成ります。

Pre-Study Abroad : Listening/Speaking (PSA L/S)
…留学してからの受講スキルを学習 (週2回・2単位)

Pre-Study Abroad : Writing (PSA W)
…英語で論文を書くための基礎を学習 (週1回・1単位)

<申込・お問い合わせ>

プログラムの詳細はToyoNet-ACE「TOYO GLOBAL DIAMONDS (国際交流情報)」コース内、「語学学習 LEAP・ランゲージセンター・課外講座」を確認してください(春学期履修の案内は前年度1月頃、秋学期履修の案内は5~7月頃配信予定)。

LEAPプログラムについての問い合わせ先
LEAPオフィス(白山キャンパス8号館2階)
Email: mlleapoffice@toyo.jp TEL: 03-3945-7341



4. 大学院開講科目履修制度

食環境科学部では、食環境科学研究科との6年間一貫教育を推進しており、食環境科学部学生に食環境科学研究科で実施している学術レベルの高度な科目を勉学する機会を与えることを目的として、4年生が大学院開講科目を履修できる「大学院開講科目履修制度」を導入しています。

本制度の概要は次のとおりですので、希望者は下記の事項を熟読し、必要な手続きを行ってください。

1. 制度の概要

- (1) 本制度は、食環境科学部4年生が本学大学院食環境科学研究科開講科目を履修できる制度です。
- (2) 本制度により修得した単位は、本学大学院食環境科学研究科博士前期課程に入学時に、所定の手続きをとることにより、大学院の単位として認定されます。
※“T”（トランスファー）として認定されます。
※大学院のカリキュラム変更等により、単位認定がされない場合もあります。
- (3) 本制度を利用できるのは、以下の項目を満たす者とします。
 - (ア) 本学部4年次に在学中であり、卒業研究を行なっていること。
 - (イ) 本学部卒業後、本学大学院食環境科学研究科博士前期課程に入学する予定であること。
 - (ウ) 卒業研究指導教員の推薦があること。
 - (エ) 履修を希望する大学院開講科目担当教員の履修許可を得ていること。
- (4) 本制度で履修できる科目は、当該年度に博士前期課程で開講されている講義科目です。
- (5) 本制度により履修する科目は、本学部の自由科目として取り扱います。従って、卒業単位数に含めることはできません。また、本制度により履修する科目は、年間履修単位数に含まれます。
- (6) 本制度により履修できる上限単位数は、**第4年次在学中に合計15単位まで**とします。
- (7) 本制度により修得した成績評価は、学部の成績原簿・成績表・成績証明書に記載されます。
- (8) 本制度は卒業単位数に含まれない科目履修のため、履修取消は一切受け付けません。
※食環境科学研究科以外の本学大学院研究科の先行履修を希望する場合は、各大学院の教務担当窓口へお問い合わせください。
(必ずしもその他の研究科の授業を先行履修できるわけではありませんのでご注意ください。)

2. 申込手続き

履修登録期間内に「大学院開講科目履修制度」申込フォーム（web）より申請してください。申請方法の詳細は別途東洋大学公式アプリでお知らせします。

5. 成績優秀者表彰制度

食環境科学部では優秀な成績を修めた学生を表彰する制度があります。下記の基準を満たす各学科・各学年の上位10名程度を「成績優秀者」として選出し、翌年度4月のオリエンテーション時（4年生のみ卒業証書授与式時）に表彰します。

（成績優秀者選出基準）

- 1年次一年間（当該年度）40単位以上修得
- 2年次一年間（当該年度）38単位以上修得
- 3年次一通算116単位以上修得（通算GPAの上位者）
- 4年次一通算124単位以上修得（通算GPAの上位者）

※GPA制度を適用し、当該年度のGPA2.5以上を考慮します。

※同順位の場合は「S」及び「A」評価の科目合計を優先し、同数の場合は「S」評価の科目数を優先します。

6. 聴講制度（群馬県内大学単位互換制度）

群馬県内単位互換制度協定に基づき、下記の大学の授業科目（各大学が指定する科目）を特別聴講生として聴講し、大学の単位として認定する制度です。

この制度を利用して下記の大学における聴講を希望する学生は、板倉事務課に申し出て必要な手続きを行ってください。なお、聴講可能な科目等に関する資料および手続きに必要な書類は板倉事務課にありますので、問い合わせてください。詳細は科目登録の時期に告知します。

なお、この制度は2023年度までとなる見込みです。

開講大学名及び所在地

群馬県立女子大学	佐波郡玉村町上之手1395-1
関東学園大学	太田市藤阿久町200番
上武大学	伊勢崎市戸谷塚町634-1
共愛学園前橋国際大学	前橋市小屋原町1154-4
放送大学（群馬学習センター）	前橋市若宮町1-13-2
群馬大学	前橋市荒牧町4-2

7. 実務研修 I・II（食環境科学科のみ）

概要は次の通りですので、希望者は下記の事項を熟読し、必要な手続きを行ってください。

1. 実務研修の概要

企業等の製造所・研究室、公的試験研究機関での実習を通して、講義と実社会との関連を理解し、大学での授業では接することのできない産業界の現状、現場における技術体験を通して、社会における物事の見方を習得することを目的とします。研修期間は夏季休暇期間中となり、研修後にはレポート提出及び報告会を行います。

2. ガイダンスについて

実務研修については、春学期にガイダンスを実施しますので、履修希望者は必ず出席してください。詳細は東洋大学公式アプリやToyoNet-ACEに掲載しますので、各自で必ず確認してください。

3. 履修方法

実務研修の単位数は実習の期間に応じて異なります（下記の表を参照）。

実務研修の単位は、その学期で履修できる上限単位数に含まれます（卒業に必要な単位として認められている単位のみ）。実務研修 I・II は 2 年次以上が履修可能です。

履修希望者は、各学年とも秋学期に履修登録を板倉事務課にて行います。実習に参加し、履修を希望する学生は、担当教員に申し出てください。（別途「授業時間割表」を参照してください）。

科目名	実習期間	単位数
実務研修 I	1 週間程度	1
実務研修 II	2 週間以上	2

※詳細はガイダンスで確認してください。

8. 東京外国語大学の単位互換制度

東洋大学では語学科目を中心とした多様な学習機会を拡充することを目的として、2018年度より、東京外国語大学との間における単位互換協定を締結しました。これに伴い、東京外国語大学の授業の一部を履修することが可能になりました。

ここでは、東京外国語大学の科目を履修するにあたっての条件、履修方法などを規定しています。詳細は、東京外国語大学の履修要覧・シラバスを参照するとともに、板倉事務課までお問合せください。

1. 対象学生
学部2年次以上
2. 履修可能単位数
学期の履修単位数の制限内かつ、（入学前も含む）本学以外の大学等で取得できる単位数は60単位を上限とする。
3. 学籍の取扱い
東京外国語大学では「特別聴講学生」として在籍することになります。
4. 開講キャンパス
東京外国語大学府中キャンパス（所在地：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1）
5. 履修可能科目
板倉事務課で確認してください。ただし、都合によって履修可能科目が変更になることがあります。また、本学と東京外国語大学双方の曜日時限が重複する科目や移動時間も含めて授業開始時刻に間に合わない科目を履修することはできません。
6. 履修手続
 - ①「特別聴講願」を板倉事務課窓口で受け取り、所定の期間内に提出してください。
 - ②提出された「特別聴講願」をもとに、東京外国語大学が受講の可否を決定します。
 - ③第1回目の講義に出席し、東京外国語大学の授業担当教員へ「東洋大学食環境科学部」の学生である旨と聴講申請手続き中である旨、申し出てください。
 - ④受講の正式な可否については、東洋大学公式アプリにてお知らせを配信しますので、確認のうえ、受講可の学生は東京外国語大学で所定の手続を行ってください。
7. 試験
東京外国語大学の制度によります。追・再試験は原則行いません。
8. 単位認定
東京外国語大学からの成績到着後、当該科目の単位の認定を希望する場合は、板倉事務課窓口まで、「単位認定申請書」を提出してください。単位認定の可否については、教授会での審議を経て決定されます。申請が認められる場合は「T」評価として認定します。

東京外国語大学入構時には「学生証」を必ず携帯し、東洋大学の学生であることを示すこと。その他、東京外国語大学の学則に従い、規律ある行動をとること。

Ⅲ 諸 資 格

1. 教職課程（教育職員免許状）
2. 食品衛生管理者および食品衛生監視員（任用資格）
3. フードスペシャリスト
4. 危険物取扱者（甲種）
5. バイオ技術者認定試験（中級・上級）
6. 管理栄養士・栄養士（健康栄養学科のみ）

1. 教職課程（教育職員免許状）

東洋大学教職センター

本学の学祖井上円了は哲学館の創設にあたり「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、「先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間」「社会の課題に自主的・主体的に取り組み、よき人間関係を築いていける人間」の育成をめざした。そして特に「教育家と宗教家」の養成に力を入れた。このように本学は創設以来、教員養成を重視し、この分野の伝統と実績を有する大学であり、多くの卒業生が教員として全国の学校で活躍している。

これから教職課程を履修し、教員免許状を取得して教員になろうと志す学生にはまずこのことをしっかりと自覚してほしい。

言うまでもなく、教員になるためには教員免許状の取得が必要である。免許状の取得に関する諸事項は教育職員免許法に定められており、本学もこれに基づいて教職課程教育を実施している。

教職課程に属する科目の多くは、各学科の卒業に必要な科目とは別に履修し単位を修得しなければならない。従って、教職課程を履修する学生は、他の学生よりも多くの科目を履修しなければならない。学修に費やす時間もそれだけ多くなる。1年次からの計画的な履修と学修が求められる。その詳細については、教職課程ガイダンスに参加して説明を聞くとともに、この「履修要覧」を熟読してほしい。

教員になるためには、担当する教科に関する知識を豊富に持つことが必要となることは言うまでもない。しかしそれだけでは教員として十分とは言えない。教員は成長・発達の途上にある児童・生徒を指導し、ともに学ぶ存在である。教員の言動は、時として、子どもの将来を大きく左右することもある。その意味で教員というのは恐ろしい職業である。しかし同時に、教員は子どもの成長を直接目にし、それを助け、ともに喜び合えるやりがいのある職業でもある。

ある教育学者が次のようなことを問うている。「あなた（教員）は何の権利があって他人の子どもを教育するなどという大それたことができるのか」。

この間に答えることは簡単ではない。しかし「他人の子ども」を教育するという「大それた事」を職業とすることを、子どもから、保護者から、そして社会から、許されるだけの準備を大学生生活のなかですておくことが、教員をめざす学生の最低限の義務である。

教員をめざす学生には、大学の授業で学ぶことはもちろん、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイトなど、さまざまな経験をしながら、自分自身を成長させることを期待したい。豊かな人間性を持った信頼に足る教員をめざしてほしい。

食環境科学科における理科教員養成の理念

（食環境科学科フードサイエンス専攻）

環境、食糧、健康・医療に関する問題の解決には、生命現象を正しく理解できる理科教育が必要であると考えている。生命活動は、遺伝情報の流れを軸とした、物理や化学の法則に従った現象であり、生命を健康的に維持することに「食」を切り離すことはできない。すなわち、食の機能を理解するには、生物や化学の基礎的な知識の修得が要求されるものである。

- ①生命現象を正しく理解できる理科教員
- ②実験指導技術、科学的に調べられる能力、態度、自ら考え問題解決を行っていく独立自活の精神等、総合的な教育能力を備えた理科教員
- ③身近な自然現象を分かりやすく教え、生徒の疑問を受け止め、一緒になって考え、科学精神の芽生えを伸ばせる教員
- ④倫理や価値観、社会や環境への影響について理解し、自然科学と人文・社会科学と関連させた総合的な視点を持ち、科学技術を常に人間や社会と関連付けて考える理科教員

本専攻では、食の視点から生命科学を捉えた人材養成を目的とする教育に加えて、幅広い教養を基盤とする実践的な指導力を持った理科教員、科学精神の芽生えを伸ばすことのできる理科教員、科学技術を常に人間や社会と関連付けて考える理科教員の養成を重視する。

健康栄養学科における栄養教諭養成の理念

近年、我が国の食生活をめぐる環境が変化し、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、輸入食品、加工食品等の依存、食の安全等、様々な問題が生じている。一方、子どもにおいては貧困が社会的問題となっており、我が国の子どもの貧困率は、先進国の中でも高い水準となっている。

このような現状を打開するために、子どもの頃からの正しい食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間育成が課題となっている。その一翼を担う栄養教諭は、学校の中核的な役割を担う教育職員として創設され、平成17年度から施行されている。

健康栄養学科では、本学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を礎とした、哲学の理念を持ち、子どもに誠実に向き合い、幅広い教養を基盤とする実践的な指導力を持った栄養教諭、学校の食育の推進の先駆者・リーダーとして活躍できる栄養教諭の養成を行っている。

- ①EBN (Evidence-based Nutrition) に基づく食育を推進できる栄養教諭
- ②教育スキル、食に関する科学的探究心、態度、自ら考え問題解決を行っていく独立自活の精神等、総合的な教育能力を備えた栄養教諭
- ③食に関する幅広い事象、食物と生体の関係、学校給食を生きた教材として児童・生徒にわかりやすく教え、常に児童・生徒の疑問を受け止め、一緒になって考え、常に研鑽する栄養教諭
- ④倫理や価値観、社会や環境への影響について理解し、自然科学と人文・社会科学と関連させた総合的な視点を持ち、科学技術を常に人間や社会と関連付けて考える栄養教諭

1) 教育職員免許状について

大学卒業後、中学校・高等学校の教員になるためには教育職員免許状を取得しなければなりません。
食環境科学部で取得できる教育職員免許状は次の表のとおりです。

学科 (専攻)	免許状の種類 (教科)	中学校教諭1種免許状 (教科)	高等学校教諭1種免許状 (教科)
食環境科学科 (フードサイエンス専攻)		理科	理科
健康栄養学科		栄養教諭1種免許状	

2) 教育職員免許状の取得条件について

教育職員免許状を取得するためには、下の表にあるような基礎資格として「学士の学位を有すること」（卒業に必要な単位を修得すること、健康栄養学科ではこれに加えて「栄養士の免許を受けていること」）が要求されます。従って、教育職員免許状取得のための単位は取得できたものの卒業ができなかったということにならないよう、4年間の履修計画を立ててください。本学では「教育職員免許法」及び同法施行規則に基づいて、教育職員免許状取得に必要な単位が修得できるよう科目を開設しています。

- 近年、教員採用試験等で中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得（見込）していることが採用試験受験の条件、または有利になる傾向があります。したがって、できる限り中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得してください。
- 教育職員免許状を取得するために必要な科目は、4年間で履修かつ修得できるよう配置されているため、4年間の履修計画を入念に立て、1年次より必要な科目を確実に履修かつ修得してください。
- 2年次ないし3年次から4年次終了（卒業）までに教育職員免許状を取得することは難しいので注意してください。

基礎資格と免許法における最低修得単位数

免許状の種類	基礎資格	免許法における最低修得単位数							
		教科及び教科の指導法（栄養に係る教育）に関する科目 <表1>	教育の基礎的理解に関する科目 <表2>	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目 <表3>	その他	
中学校教諭 1種免許状	学士の学位を有すること	28	10	10	7	4	8	介護等の体験（詳細はP82,83）	
高等学校教諭 1種免許状		24	10	8	5	12	8		
栄養教諭 1種免許状	学士の学位を有すること、かつ、管理栄養士養成施設の課程を修了し栄養士の免許を受けていること	4	8	6	4	※	8		

（注 意）

上記の免許法における最低修得単位数と、本学における最低修得単位数は異なります。

本学の学生は、本学における最低修得単位数を履修かつ修得しなければなりません。P74～78の本学における「教科及び教科の指導法に関する科目」「栄養に係る教育に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「免許法施行規則第66条の6に定める科目」の一覧表で確認してください。

※大学が独自に設定する科目の単位の修得方法は、栄養に係る教育に関する科目若しくは大学が加えるこれに準ずる科目又は養護教諭・栄養教諭の教育の基本的理解に関する科目等のうち一以上の科目について単位を修得するものとする。

3) 教職課程登録料について

本学では、通学課程の学部学生及び大学院生が教職課程の履修を希望する場合、教職課程登録料が必要となります。所定の期日までに指定された方法で納入してください。

なお、登録料の区分、徴収対象、徴収額および有効期間は以下の通りとなります。

	区分	徴収対象	徴収額	有効期間
教職課程登録料	在籍生登録料	東洋大学教職課程の履修を希望する通学課程の学部生及び大学院生	30,000円	・学部生は、納入時から卒業年度の3月31日（秋学期卒業生を含む。ただし、春学期卒業生は9月30日）まで。 ・大学院生は、納入時から修了年度の3月31日（秋学期修了生を含む。ただし、春学期修了生は9月30日）まで。
	卒業生等登録料	東洋大学の卒業生及び大学院修了生（ただし、退学者及び除籍者を含む。）で、教職支援室の利用等（教職に関するセミナー等への参加を含む。）を希望する者	5,000円 （ただし、秋学期からの場合は当該年度のみ2,500円とする。）	納入年度の3月31日まで。

※再入学した学生のうち、在籍時に教職課程登録料を納入している場合は、再度の納入は必要ありません。

4) 教職の履修登録について

教育職員免許状の取得のためには、卒業単位の充足のほかに、下記の必要科目をそれぞれ必ず履修し、単位を修得する必要があります。

- (1) 教科及び教科の指導法に関する科目、栄養に係る教育に関する科目（〈表1〉参照）
- (2) 「教育の基礎的理解に関する科目」等（〈表2〉参照）
- (3) 免許法施行規則第66条の6に定める科目（〈表3〉参照）

〈表1〉「教科及び教科の指導法に関する科目」一覧表（中・高一理科）（免許法施行規則第4条・第5条）

食環境科学科フードサイエンス専攻入学生用

1. ○：必修科目 △：必修科目（中学校のみ）
2. 科目の単位数は2単位（生物学実験は3単位）

免許法施行規則に定める科目区分	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
物 理 学	○物理Ⅰ ○物理Ⅱ			
物 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)	○物理実験			
化 学	○基礎化学 無機化学	○基礎生化学 有機化学Ⅱ	生体高分子化学	
化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)	○化学実験			
生 物 学	○生物学 基礎微生物学	○分子生物学概論 細胞生物学 植物生理学		
生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)		○生物学実験		
地 学		○地学		
地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)		○地学概論 (実験を含む)		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)			○理科指導法ⅠA ○理科指導法ⅡA △理科指導法ⅠB △理科指導法ⅡB	
「教科及び教科の指導法に関する科目」の最低修得単位数	中学校1種：31単位 ・ 高等学校1種：27単位			

Ⅲ 諸資格

〈表1〉「栄養に係る教育に関する科目」一覧表（栄教一種）（免許法施行規則第10条）

健康栄養学科入学生用

1. ○：必修科目 2. 科目の単位数は2単位

免許法施行規則に定める科目区分	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年
栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項			○学校栄養教育の基礎	
幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項				
食生活に関する歴史的及び文化的事項				
食に関する指導の方法に関する事項			○学校栄養教育の実践	
「栄養に係る教育に関する科目」の最低修得単位数	栄養教諭 1 種 : 4 単位			

〈表2〉「教育の基礎的理解に関する科目等」一覧表

1. ○：必修科目 △：選択必修

2. 「最低修得単位数」：食環境科学部において各免許状を取得するための最低単位数

免許法施行規則に定める科目区分等	中学校教諭1種（理科）			高等学校教諭1種（理科）		
	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年	最低修得単位数	教職に関する科目	配当学年
教育の基礎的理解に関する科目	12	○教育学概論（2）	1	12	○教育学概論（2）	1
		○教職概論（2）	1		○教職概論（2）	1
		○教育の制度と経営（2）	1		○教育の制度と経営（2）	1
		○教育心理学（2）	2		○教育心理学（2）	2
		○特別支援教育基礎論（2）	1		○特別支援教育基礎論（2）	1
		○教育課程論（2）	1		○教育課程論（2）	1
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	12	○道徳教育論（2）	2	10	○総合的な学習の時間の指導法（2）	3
		○総合的な学習の時間の指導法（2）	3		○特別活動の理論と方法（2）	2
		○特別活動の理論と方法（2）	2		○教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）（2）	2
		○教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）（2）	2		○生徒指導論（進路指導論を含む）（2）	2
		○生徒指導論（進路指導論を含む）（2）	2		○教育相談（2）	2
		○教育相談（2）	2			
教育実践に関する科目	7	○教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）（5）	4	5	△教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）（5）*	4
		○教職実践演習（中・高）（2）	4		△教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）（3）	4
					○教職実践演習（中・高）（2）	4
					※いずれか1科目を履修すること。 ただし、教育実習Ⅰを修得しても、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。	
「教育の基礎的理解に関する科目」等の最低修得単位数	31			27		

免許取得のための必要単位数の合計 「教科及び教科の指導法に関する科目」 +「教育の基礎的理解に関する科目等」	中学校1種：62単位以上 高等学校1種：59単位以上
--	-------------------------------

※（ ）内は、単位数です。

※「道徳教育論」は、中学校教諭1種免許状を取得する場合に必修です。高等学校教諭1種免許状取得希望者が「道徳教育論」の単位を修得した場合は、「大学が独自に設定する科目」の単位としてカウントされます。

※「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」は、高等学校教諭1種免許状申請の際には3単位として申請します。

〈表2〉「教育の基礎的理解に関する科目等（栄教一免）」一覧表

1. ○：必修科目

2. 「最低修得単位数」：食環境科学部において各免許状を取得するための最低単位数

免許法施行規則に定める科目区分等	栄養教諭1種		
	最低修得単位数	本学開講科目	配当学年
教育の基礎的理解に関する科目	12	○教育学概論（2） ○教職概論（2） ○教育の制度と経営（2） ○教育心理学（2） ○特別支援教育基礎論（2） ○教育課程論（2）	1 1 1 2 1 1
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	○道徳教育論（2） ○特別活動の理論と方法（総合的な学習の時間の指導法を含む）（2） ○教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む） ○生徒指導論（進路指導論を含む）（2） ○教育相談（2）	2 2 2 2 2
教育実践に関する科目	4	○栄養教育実習（事前・事後指導含む）（2） ○教職実践演習（栄養教諭）（2）	4 4
「教育の基礎的理解に関する科目」等（栄教一免）の最低修得単位数	26		

免許取得のための必要単位数の合計 「栄養に係る教育に関する科目」 + 「教育の基礎的理解に関する科目等」	栄養教諭1種：30単位
--	-------------

〈表3〉「免許法施行規則第66条の6に定める科目」一覧表

下表のとおり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目、又は情報機器の操作」のそれぞれの分野で2単位ずつ修得しなければなりません。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分	必要単位数	本学での開講科目
日本国憲法	2	日本国憲法
体育	2	スポーツ健康科学実技Ⅰ
		スポーツ健康科学実技Ⅱ
		スポーツ健康科学実技Ⅲ
		スポーツ健康科学実技Ⅳ
外国語コミュニケーション	2	Integral English Ⅰ
		Integral English Ⅱ
数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	情報処理基礎
		情報処理演習

5) 教育実習（栄養教育実習）について

教育実習（栄養教育実習）は、大学で学んだ教育理論や技術をもとに、実習校（中学校・高等学校）での実習を通じて、教育の意味や学校教育の全領域について学習するものです。「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」（3週間以上実習対象者）、「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）」（2週間実習対象者）、「栄養教育実習（事前・事後指導含む）」（栄養教諭1種免許状取得希望者対象）は、4年次に履修します。4月から事前指導が行われ、ほとんどの学生が6月頃から実際に学校現場に赴き、中学校教諭の免許状取得の場合には3週間（学校によって4週間の場合もある）、高等学校教諭の免許状取得の場合には2週間の教育実習、栄養教諭の免許状取得の場合には1週間の栄養教育実習を行います。実習終了後、実習事後指導として、学生の実習体験発表、実習感想文の提出、アンケート調査などによって、実習の成果を振り返り、教員として必要な資質能力が培えたかどうかを確認します。教育実習（栄養教育実習）は勤務という形態で行われるので、実習期間中に就職活動をするような時間的、精神的余裕は全くありません。教職という仕事の重要性を認識し、実習期間中は就職活動などは中止し、実習に専念してください。

(1) 教育実習参加条件（食環境科学科）

教育実習にあたっては、3年次終了までに次の①～⑩の条件を満たしていなければなりません。

この条件がひとつでも欠けると、教育実習に参加することはできません。

- ①教壇に立って授業を行うに必要な学力を有すること。
- ②教育実習指導教員の指導のもとに、教育実習生としてふさわしい行動のとれる人物であること。
- ③本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為を行い、処分を受けたことがない学生であること。
- ④3年次終了の時点で卒業に必要な単位数を**105単位以上**修得し、卒業論文着手条件、4年次必修授業受講条件を満たしていること。
- ⑤3年次終了の時点で、以下の2つの条件をともに満たしていること。
 - (i) 「教育学概論」、「教職概論」、「教育の制度と経営」、「教育心理学」、「特別支援教育基礎論」、「教育課程論」、「道徳教育論」、「総合的な学習の時間の指導法」、「特別活動の理論と方法」、「教育方法の理論と実践(情報通信技術を含む)」、「生徒指導論(進路指導論を含む)」、「教育相談」、12科目のうち、7科目以上の単位を修得済みであること。
 - (ii) 実習予定教科の「理科指導法ⅠA」、「理科指導法ⅠB」、「理科指導法ⅡA」、「理科指導法ⅡB」を修得済みであること。
- ⑥4年次において、卒業に必要な科目（単位）および教育職員免許状を取得するために必要な科目（単位）を修得し終える見込みのある者。
- ⑦次の a. b. c. を含む大学及び関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。
 - a. 実習前年度の9月までに、実習受入の内諾を受け大学に文書で通知がきていること、または実習の申請に必要な手続きを完了させていること。
 - b. 大学指定の誓約書に署名・捺印のうえ所定の期日までに提出していること。
 - c. 教育実習料を所定の期日までに納入していること。
- ⑧教育実習実施年度の4月に大学の健康診断を受診し、心身ともに健康であること。
- ⑨麻疹（はしか）の抗体検査・予防接種を行い、免疫があると認められていること。
- ⑩母体保護のため、実習開始日が妊娠中もしくは出産から8週間以内でないこと。
- ⑪実習校が所在する各都道府県教育委員会に、特別な定めがある場合は、それを満たしていること。

(2) 栄養教育実習参加条件（健康栄養学科）

栄養教育実習にあたっては、3年次終了までに次の①～⑪の条件を満たしていなければなりません。

この条件がひとつでも欠けると、栄養教育実習に参加することはできません。

- ①教壇に立って授業を行うに必要な学力を有すること。
- ②栄養教育実習指導教員の指導のもとに、栄養教育実習生としてふさわしい行動のとれる人物であること。
- ③本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為を行い、処分を受けたことがない学生であること。
- ④3年次終了の時点で卒業に必要な単位数を**105単位以上**修得し、4年次必修授業受講条件を満たしていること。
- ⑤3年次終了の時点で、以下の2つの条件をともに満たしていること。
 - (i) 「教育学概論」、「教職概論」、「教育の制度と経営」、「教育心理学」、「特別支援教育基礎論」、「教育課程論」、「道徳教育論」、「特別活動の理論と方法（総合的な学習の時間の指導法を含む）」、「教育方法の理論と実践(情報通信技術を含む)」、「生徒指導論（進路指導論を含む）」、「教育相談」、11科目のうち、7科目以上の単位を修得済みであること。
 - (ii) 「学校栄養教育の基礎」、「学校栄養教育の実践」を修得済みであること。
- ⑥4年次において、卒業に必要な科目（単位）および教育職員免許状を取得するために必要な科目（単位）を修得し終える見込みのある者。
- ⑦次の a. b. c. を含む大学及び関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。
 - a. 実習前年度の9月までに、実習受入の内諾を受け大学に文書で通知がきていること、または実習の申請に必要な手続きを完了させていること。
 - b. 大学指定の誓約書に署名・捺印のうえ所定の期日までに提出していること。
 - c. 教育実習料を所定の期日までに納入していること。
- ⑧教育実習実施年度の4月に大学の健康診断を受診し、心身ともに健康であること。
- ⑨麻疹（はしか）の抗体検査・予防接種を行い、免疫があると認められていること。
- ⑩母体保護のため、実習開始日が妊娠中もしくは出産から8週間以内でないこと。
- ⑪実習校が所在する各都道府県教育委員会に、特別な定めがある場合は、それを満たしていること。

(3) 教育実習（栄養教育実習）のスケジュール

< 2年次 >

春季休暇前

春季休暇中にやっておくことについて説明



< 3年次 >

4月上旬

教育実習事務手続説明会 次年度教育実習予定校確保（内諾）についての説明

（オリエンテーション期間中）



4月以降

教育実習校への内諾依頼（各自出身校等へ次年度実習の依頼に行くこと）



9月中旬

教育実習受入内諾書の確認
教育実習希望調書の提出（東京都立学校希望者のみ）



1月

教育実習校の発表

< 4年次 >

4月上旬

教育実習承諾書確認
教育実習直前説明会 実習直前の心構え、実習上の注意事項、実習校持参書類の配布



4月中旬

教育実習料振込



5月上旬

教育実習打ち合わせ日、実習期間、教科等最終確認



実習終了後
1か月以内

教育実習日誌の提出

※スケジュールは変更となる場合があります。日程の詳細・変更のお知らせはすべて東洋大学公式アプリで行いますので、必ず確認してください。説明会を欠席したり、手続きを怠ると、実習参加ができなくなるので注意してください。また内諾を得たのちのキャンセルや、一度納入した実習料の返金は一切できません。

6) 介護等体験について（食環境科学科のみ対象）

中学校教諭の免許状取得希望者は、教職に必要な科目の修得、卒業要件の充足の他に、3年次に特別支援学校で2日間と社会福祉施設で5日間、計7日間、高齢者や障害者に対する介護、介助、交流等の体験を行い、受入先に体験を行った証明をいただく必要があります。

この体験を行うには、大学を通して申し込みをしなければなりません。概要は以下の通りです。

(1) 参加条件

以下の条件を1つでも満たさない場合は、介護等体験に参加できません。

- ①介護等体験に積極的に参加する意欲があること。
- ②全3回の説明会（2年次2月・3年次6月および8月を予定）に出席し、必要な書類を提出すること。
- ③実施年度の4月に大学の定期健康診断を受診し異常なしと診断され、心身ともに健康であること。
- ④麻疹（はしか）の抗体検査・予防接種を行い、免疫があると認められた者であること。
- ⑤介護等体験料を所定の期日までに振り込んでいること。
- ⑥指定された体験日程で介護等体験に参加できること。
- ⑦その他、必要な手続きのすべてを完了していること。

(2) 体験日程・体験先

受入先の都合を考慮したうえで埼玉県教育委員会および埼玉県社会福祉協議会が希望者一人ひとりの日程と受入先を調整・決定します。個人的な事情や要望（サークル、アルバイト、海外留学、就職活動等）による日程・受入先の指定や変更（また、このことに関する個人交渉）・辞退は一切できないので、参加希望者はこの点を了承し、自己の予定を調整したうえで体験に臨んでください。

①日程

授業期間だけではなく、夏季・冬季休暇期間・土・日・祝祭日を含む日程で行います。

②体験先

いずれも埼玉県に所在する学校・施設で行います。現住所に近い場所で行えるとは限りません。

<特別支援学校>

視覚障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む）に対して、小中学校等に準ずる教育を行うとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする学校。在籍する児童生徒等に対する教育を行うほか、障がいにより教育上特別の支援を必要とする小中学校等の児童生徒等の教育に関し、必要な助言又は援助を行います。

<社会福祉施設>

- ・高齢者にかかわる施設
- ・児童福祉・障がい児にかかわる施設
- ・障がい者（身体、知的、精神障がい者）にかかわる施設
- ・生活保護にかかわる施設

(3) 内容

- ・学校、施設の利用者の介護・介助（入浴・排泄等含む）

- ・学校、施設の利用者との交流（話し相手）、学習活動の指導・援助
 - ・学校、施設が実施する行事（学園祭・バザー・遠足・サークル活動等）の補助
 - ・学校、施設の掃除、洗濯等の作業
- 特別支援学校事例・・・授業参観・作業学習補助・学校行事補助等（プール実習・マラソン大会等）
 社会福祉施設事例・・・車椅子補助・点字の勉強・送迎バスへの添乗・サークル活動の補助等

（４）介護等体験に関するスケジュール

< 2年次 >

2月 介護等体験第1回説明会 体験の概要・申込前の注意事項・今後の手続の説明・参加登録票提出



2月下旬 埼玉県教育委員会へ一括申し込み



< 3年次 >

4月上旬 はしか抗体検査結果証明書提出（新学期教職ガイダンス時）



5月下旬 特別支援学校受入決定発表（掲示）



6月中旬 介護等体験第2回説明会
特別支援学校での体験上の注意、申込み方法の説明、申込みと体験に必要な書類の配布等



6月下旬 埼玉県社会福祉協議会へ一括申し込み



8月頃 社会福祉施設受入決定発表（掲示）
介護等体験第3回説明会 社会福祉施設での体験上の注意等
体験準備および体験（要項・受入連絡票を熟読の上、体験に臨むこと）



体験終了後
2週間以内 介護等体験日誌の提出

※スケジュールは変更となる場合があります。日程の詳細・変更のお知らせはすべて東洋大学公式アプリで行いますので、必ず確認してください。説明会を欠席したり、手続きを怠ると、体験参加ができなくなるので注意してください。また申込後のキャンセルや、一度納入した体験費用の返金は一切できません。

7) 教職実践演習について

4年次の秋学期に必修科目として「教職実践演習」の履修が必要です。この科目は、全学年を通じた教職に関する「学びの軌跡の集大成」と言えるものであり、学生が身に付けた資質・能力が教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され形成されたかを確認することを目的としています。しかしこの確認は4年次秋学期になってはじめて

で行うのではなく、1年次から継続的・くり返し自らの教職への意志や適性を問いつづけるというものです。

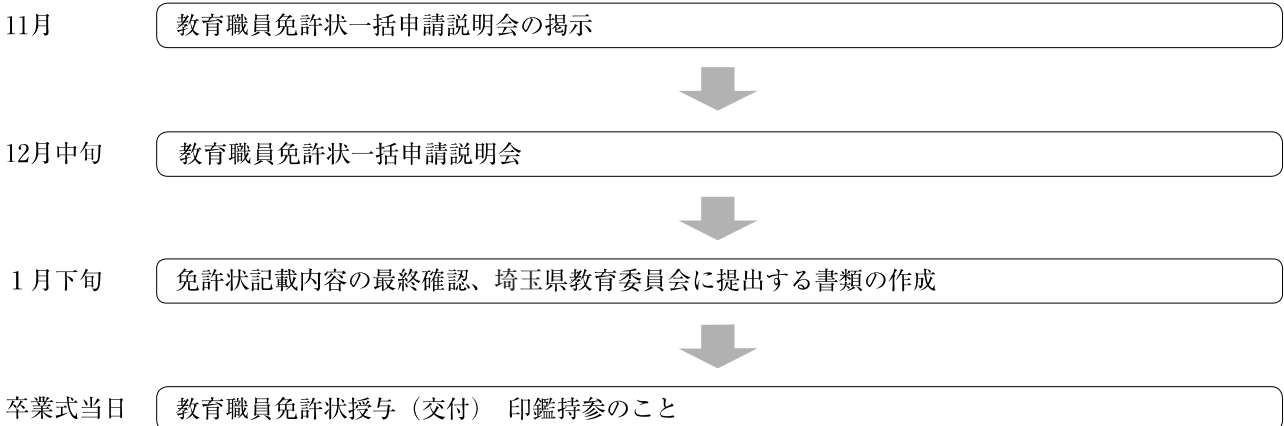
従って、教員をめざす学生は1年次から意識的・意欲的に教職課程の学びを継続し、学修の成果と課題を記録しておくことが求められます。本学では「教職パスポート」を用意してその一助としており、「教職パスポート」を活用して、4年間の学修の流れを継続的・系統的に、目に見えるかたちで記録していくことが求められます。「教職パスポート」を管理し活用していることが「教職実践演習」の履修条件のひとつとなるので、大切に保管し活用するようにしてください。なお、2年次終了時点で「教職パスポート」の中間点検を行い、必要に応じて指導・助言を行います。教職への適性が疑われる場合には進路の変更を促す場合もあるので、しっかりとした自覚をもって学修に取り組んでください。

8) 教育職員免許状一括申請について

教育職員免許状に必要な単位を修得した学生は、教育免許状の取得が見込まれる年度に教育職員免許状申請の手続きをする必要があります。通常は大学を通して教育職員免許状の申請（以下一括申請）を下記のスケジュールに従って行います。これらの手続きを怠った場合は、卒業時に教育職員免許状が授与されなくなるので注意してください。ただし、栄養教諭の教育職員免許状は個人申請が必要となりますので、申請をする自治体の教育委員会に各自で問い合わせてください。

教育職員免許状一括申請に関するスケジュール

<4年次>



※スケジュールは変更となる場合があります。日程の詳細・変更のお知らせはすべて東洋大学公式アプリにて行いますので、必ず確認してください。

◎個人申請について

一括申請手続きを行わなかった場合でも、教育職員免許状に必要な単位を修得していれば、卒業後に個人で教育職員免許状を申請すること（個人申請）が可能です。

個人で申請する際の申請先等は下記の通りです。

<申請先>

住民票をおいている都道府県の教育委員会（通常は都道府県庁の教育職員免許状を発行する部署）

<申請に必要な書類・受付時期・免許状発行日>

申請先によって異なるので各自で問い合わせてください。

9) 休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合について

在学中に休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合は、教育実習・介護等体験等の実施時期や教育職員免許状の取得時期が通常の学生より1～2年遅くなることがあるので、必ず事前に板倉事務課窓口まで相談に来てください。

10) 教員採用試験について

教育職員免許状を取得した者が教員になるためには、まずは教員採用試験に合格する必要があります。

出願期間・受験条件・試験日程・試験方法は教育委員会・学校によって異なるので、教員採用試験の実施要綱の取り寄せと応募は各自で行ってください。

実施要綱が大学に届いた場合は、教職支援室で閲覧できます。教員採用試験（第1次・第2次）に合格した場合は必ず板倉事務課窓口に届け出てください。

(1) 公立学校の教員採用

公立学校の教員になるためには、まずは各都道府県または市の教育委員会が実施する採用試験に合格し、採用候補者の名簿に登録される必要があります。名簿の中からその年度の欠員状況、教員組織の状況などを考慮して選定され、採用が決定します。

(2) 私立学校の教員採用

各都県の私学協会等が実施する「私立学校教員適性検査」を基に採用を行う場合と公募制による採用があります。

「私立学校教員適性検査」は採用試験ではなく、適性検査を受けた受検者の氏名と評価等が記載された名簿を基にして、教員の採用を行っていくものです。ただし、検査を実施する都県にある私立学校全てが「私立学校教員適性検査」の結果を基に教員募集を行っているとは限りません。

11) 教員採用に関する支援について

教職支援室の教職アドバイザーによる選考試験の学習指導や、教員採用試験対策講座等の実施を予定しています。講座の開催・申込時期等については東洋大学公式アプリでお知らせします。

2. 食品衛生管理者および食品衛生監視員（任用資格）

食品衛生法第48条の規定により、食肉製品やマーガリン、添加物等、特に衛生上の考慮を必要とする食品の製造又は加工を行う営業者は、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置くことが義務づけられています。食品衛生管理者はその製造又は加工の衛生管理を行います。

一方、食品衛生監視員とは全国にある主な海港・空港の検疫所で、輸入食品の安全監視や指導を行います。国家公務員Ⅱ種試験あるいは厚生労働省が行う食品衛生監視員採用試験に合格することが必要です。また、地方公務員として、主に各都道府県の保健所で、飲食に起因する衛生上の危害を防止するために、食品を取り扱う営業施設等への監視指導、立入検査及び食品等からの試験品を採取する権限を有し健康被害を防ぐために公衆衛生業務に携わることも可能です。

食環境科学部は、食品衛生管理者養成施設として厚生労働大臣の登録を受けているので、各学科（専攻）で指定された科目を修得することで国家資格の任用資格を得ることができます。（P87～88参照）

※ 「任用資格」とは、所定の科目を修得し、卒業後に公務員として採用され、その資格に関連する職務に就業して初めて活きる資格です。

食品衛生管理者・食品衛生監視員になるまで

< 1年次春学期 >

4月上旬～

ToyoNet-Gで資格登録

< 1年次～4年次 >

9月中旬

3月中旬

各学期の成績発表期間にToyoNet-Gで各自単位修得状況の確認

< 4年次 >

卒業式当日

コースの既定単位充足者へは修了証授与

< 4年次～卒業後 >

卒業後

食品衛生管理者：関連する職務に就業することで、食品衛生管理者となれます。

10～11月頃

食品衛生監視員：厚生労働省検疫所食品衛生監視員（専門行政職）採用試験を受験

合格者は全国主要海港・空港の検疫所に配属

- 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格は「食環境科学部食環境科学科フードサイエンス専攻またはスポーツ・食品機能専攻」、「食環境科学部健康栄養学科」で所定の課程を全て履修した卒業生であること。
- 編入学により入学した学生は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得することはできない。
- 転入学（転部転科含む）により入学した学生が資格を取得する場合は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成課程からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当学校の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

食環境科学部食環境科学科フードサイエンス専攻

区 分	基本科目名	授業科目名	配当学年	単位数	履修方法
A群 化学関係	分析化学	機器分析	2	2	必修
		有機化学	基礎化学	1	2
	化学実験		1	2	必修
	フードサイエンスの化学		1	2	選択
	有機化学Ⅱ		2	2	必修
	無機化学	生体高分子化学	3	2	選択
無機化学		1	2	必修	
B群 生物化学関係	生物化学	現代化学	1～4	2	選択
		基礎生化学	2	2	必修
	食品化学	食品化学	2	2	選択
		食品分析学概論	2	2	選択
		食品学概論	2	2	選択
	食品分析学	プロバイオティクス	3	2	選択
機能食品科学		3	2	必修	
C群 微生物学関係	微生物学	基礎微生物学	1	2	必修
		フードサイエンス実験Ⅰ	2	3	必修
		食品微生物利用学	3	2	選択
	食品微生物学	食品微生物制御学	3	2	必修
食品保存学	食品加工貯蔵学	3	2	選択	
D群 公衆衛生学 関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2	2	必修
	食品衛生学	食品衛生学	3	2	必修
		食品安全学	3	2	選択
衛生行政学	HACCP論	3	2	必修	
E群 その他の 関連科目	水産化学、畜産化学、放射線科学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目等	生物学	1	2	必修
		細胞生物学	2	2	必修
		生物学実験	2	3	必修
		基礎栄養学	2	2	必修
		植物バイオテクノロジー概論	2	2	必修
		フードサイエンス実験Ⅱ	3	3	必修
		応用酵素学	3	2	必修
		フードエンジニアリング	2	2	選択
		食品検査概論	3	2	選択
		食品バイオテクノロジー	3	2	選択
		食品官能評価概論	3	2	選択
		生物資源利用学	3	2	選択
		応用栄養学	3	2	選択
		食品添加物概論	3	2	選択
予防・臨床栄養学	3	2	選択		

※A群～D群については、必修科目をすべて修得し、選択科目から6単位以上を修得すること。

※E群については、必修科目をすべて修得し、選択科目から8単位以上を修得すること。

※編入学により入学した学生は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得することはできない。

※転入学（転部転科含む）により入学した学生が資格を取得する場合は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成課程からでないことと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当学校の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

食環境科学部健康栄養学科

区 分	基本科目名	授業科目名	配当学年	単位数	履修方法
A群 化学関係	分析化学	食品分析学	1	2	選択
	有機化学	基礎化学	1	2	必修
		生体高分子化学	3	2	選択
	無機化学	現代化学	1～4	2	必修
B群 生物化学関係	生物化学	生化学	1	2	必修
		生化学実験Ⅰ	2	1	選択
		生化学実験Ⅱ	2	1	選択
	食品化学	食品学Ⅰ	1	2	必修
		食品学実験Ⅰ	2	1	必修
		食品機能学	3	2	選択
	食品分析学	食品機能性分析学	1	2	必修
C群 微生物学関係	微生物学	微生物学	1	2	必修
		微生物学実験	2	1	選択
	食品微生物学	食品学Ⅱ	2	2	必修
D群 公衆衛生学 関係	公衆衛生学	社会・環境と健康Ⅱ	2	2	必修
	食品衛生学	食品衛生学	2	2	必修
		食品衛生学実験	2	1	必修
衛生行政学	食品安全学	3	2	選択	
E群 その他の 関連科目	水産化学、畜産化学、放射線科学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目等	解剖生理学	1	2	必修
		基礎栄養学Ⅰ	1	2	必修
		公衆栄養学Ⅰ	2	2	必修
		応用栄養学Ⅰ	2	2	必修
		臨床栄養学Ⅰ	2	2	必修
		臨床栄養学実習Ⅰ	3	1	必修
		公衆栄養学実習	3	1	必修
		臨床栄養学実習Ⅱ	3	1	必修
		基礎栄養学Ⅱ	1	2	選択
		基礎栄養学実験	1	1	選択
		フードエンジニアリング	2	2	選択
		分子生物学概論	2	2	選択
		解剖生理学実験	2	1	選択
		応用栄養学Ⅱ	2	2	選択
		公衆栄養学Ⅱ	2	2	選択
		食品学実験Ⅱ	2	1	選択
		臨床栄養学Ⅱ	3	2	選択
		臨床栄養学Ⅲ	3	2	選択
食品バイオテクノロジー	3	2	選択		
スポーツ栄養学	3	2	選択		

※A群～D群については、必修科目をすべて修得し、選択科目から6単位以上を修得すること。

※E群については、必修科目をすべて修得し、選択科目から8単位以上を修得すること。

※編入学により入学した学生は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得することはできない。

※転入学（転部転科含む）により入学した学生が資格を取得する場合は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成課程からでないことと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当学校の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

3. フードスペシャリスト

「食」に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた「食」を消費者に提案できる力を持つ「食」の専門職、それがフードスペシャリストです。

人間らしさを支える快適・安心な食卓への期待が高まる一方、個食、朝食抜き、野菜不足、過度の痩身願望、太りすぎなど、現実の食には問題がいっぱいです。この期待と現実とのギャップを埋める「食」の提案が食品産業の大きな課題になっています。製造から流通、小売、外食に至るまで、食品産業におけるフードスペシャリストの活躍の場は広がっています。

食環境科学部では、下表の必修科目を修得（見込みを含む）することで受験資格が得られます。フードスペシャリストの資格認定試験は、毎年1回、12月の第3日曜日に実施します。認定試験の受験資格を有する者は以下の通りです。なお、②の3年次受験で合格した場合でも、資格認定証の交付は卒業時となります。

- ①最終年次に属する学生
- ②第3年次に属する学生で、第3年次中に所定の授業科目の単位の全てを修得すると認められる学生
- ③食環境科学科または健康栄養学科を卒業し、かつ、養成機関において所定の授業科目の単位の全てを修得している学生（修得見込である学生も含む）。

公益社団法人 日本フードスペシャリスト協会 <http://www.jafs.org/>

〈食環境科学科フードサイエンス専攻〉

1. 必修科目

区 分	必修科目（単位数）	配当学年
フードスペシャリスト論	フードスペシャリスト特別講義（2）	1
食品の官能評価・鑑別論	食品官能評価概論（2）	3
	フードサイエンス実験Ⅰ（3）	2
食物学に関する科目	食品学概論（2）	2
	食品加工貯蔵学（2）	3
	フードサイエンス実験Ⅱ（3）	3
食品の安全性に関する科目	食品安全学（2）	3
調理学に関する科目	調理科学実習（2）	2
	美味しさの科学（2）	2
栄養と健康に関する科目	基礎栄養学（2）	2
食品流通・消費に関する科目	食品流通学（2）	2
フードコーディネート論	フードコーディネート論（2）	1
合 計	26単位	

2. 選択科目（以下の科目は、受験にあたり履修した方が望ましい）

区 分	選択科目（単位数）	配当学年
フードスペシャリスト資格に 適当とされる科目	食品化学（2）	2
	機能食品科学（2）	3
	応用栄養学（2）	3
	食品衛生学（2）	3
合 計	-	

〈健康栄養学科〉

1. 必修科目

区 分	必修科目 (単位数)	配当学年
フードスペシャリスト論	フードスペシャリスト特別講義 (2)	1
食品の官能評価・鑑別論	食品官能評価概論 (2)	3
	食品学実験Ⅱ (1)	2
食物学に関する科目	食品学Ⅰ (2)	1
	食品学Ⅱ (2)	2
	食品学実験Ⅰ (1)	2
食品の安全性に関する科目	食品衛生学 (2)	2
調理学に関する科目	調理学実習Ⅰ (1)	1
	調理学実習Ⅱ (1)	3
	調理科学 (2)	1
栄養と健康に関する科目	基礎栄養学Ⅰ (2)	1
食品流通・消費に関する科目	食品流通学 (2)	2
フードコーディネータ論	フードコーディネータ論 (2)	1
合 計	22単位	

2. 選択科目 (以下の科目は、受験にあたり履修した方が望ましい)

区 分	選択科目 (単位数)	配当学年
フードスペシャリスト資格に 相当とされる科目	調理科学実験 (1)	2
	基礎栄養学Ⅱ (2)	1
	応用栄養学Ⅰ (2)	2
	応用栄養学実習Ⅰ (1)	2
合 計	-	

4. 危険物取扱者（甲種）

消防法により、危険物の貯蔵・製造・販売等取り扱う施設には危険物取扱者を置くことが義務づけられています。危険物取扱者はその施設において保安監督を行います。危険物取扱者は国家資格であり、甲種、乙種、丙種があり、それぞれ指定された危険物を扱うことが出来ます。

食環境科学部では、化学に関する科目（下表参照）を15単位以上修得することで甲種の受験資格が得られます。消防試験研究センターが行う国家資格「甲種危険物取扱者」の試験を受験することが出来ます。

財団法人消防試験研究センター <http://www.shoubo-shiken.or.jp/>

化学に関する科目対応一覧 <食環境科学科フードサイエンス専攻用>

			1		2		3		4	
			授業科目	春秋	授業科目	春秋	授業科目	春秋	授業科目	春秋
基礎教育科目	共通教養科目	学問の基礎	現代化学 生命科学史	2 2						
専門科目	必修	必修	基礎化学 化学実験 基礎微生物学 フードサイエンスの化学	2 2 2 2	基礎生化学 有機化学Ⅱ 分子生物学概論	2 2 2	食品衛生学 機能食品科学 生体高分子化学	2 2 2		
			無機化学 有機化学Ⅰ	2 2	公衆衛生学 機器分析 フードエンジニアリング 物理化学 生物有機化学 食品化学	2 2 2 2 2	生物資源利用学 動物バイオテクノロジー	2 2		
		選択必修								

化学に関する科目対応一覧 <健康栄養学科用>

			1		2		3		4	
			授業科目	春秋	授業科目	春秋	授業科目	春秋	授業科目	春秋
基礎教育科目	共通教養科目	学問の基礎	現代化学 生命科学史	2 2						
専門科目	必修	必修	生化学 基礎栄養学Ⅰ 社会・環境と健康Ⅰ	2 2 2	食品衛生学 生化学実験Ⅰ 社会・環境と健康Ⅱ	2 1 2				
			基礎化学 微生物学	2 2	生化学実験Ⅱ	1	社会・環境と健康Ⅲ	2		
					分子生物学概論 フードエンジニアリング	2 2	生体高分子化学	2		
		選択								

5. バイオ技術者認定試験（中級・上級）

食環境科学部では、バイオ技術の進歩に対応した高い知識を持ち、バイオテクノロジーに応用出来る技術者の育成を目指しています。バイオ技術認定試験はその客観的評価が得られる試験の一つです。

中級バイオ技術者認定試験は、「遺伝子組換え技術、細胞融合技術、増殖能利用技術並びに生物及び生物由来材料利用技術、そしてこれらを行うための安全管理に関する知識をもち、適切な指導者の元で実際にバイオテクノロジーに適応し得る資質」を認定するもの、上級バイオ技術者認定試験は、「生命工学技術の中で生物利用技術を中心に、遺伝情報利用技術、増殖能利用技術および安全管理技術、並びにそれらに関する知識を持ち、指導的立場でそれを実際にバイオテクノロジーに応用し得る資質を高めた高度な技術者」を認定するものです。

食環境科学部では、在学している学年により受験資格が得られます。中級は2年次修了者および2年次修了見込の者、上級は3年次修了者および3年次修了見込の者となります。

NPO法人 日本バイオ技術教育学会 <http://bio-edu.or.jp/>

6. 管理栄養士・栄養士（健康栄養学科のみ）

管理栄養士は、健康診断を受けた人や高齢者、病気にかかった人などに対して、栄養面からの適切な対応が求められる高度な仕事です。栄養士は、栄養を考えた食事を提供したり、食生活をアドバイスすることで、人々の健康を保持・増進する役割があります。

管理栄養士国家試験の受験資格を取得するには、厚生労働大臣が指定する管理栄養士養成施設（修業年限4年の大学）に入学し、所定の教育科目の単位を修得し卒業することで、栄養士免許が取得できると同時に管理栄養士国家試験の受験資格が取得できます。健康栄養学科は、その管理栄養士養成施設として指定されており、本学における建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を礎とした管理栄養士の育成を行っています。

4年次の管理栄養士国家資格で合格を手にするためには、1年次からの予習・復習を習慣つけることが重要です。健康栄養学科では、試験に役立つ各種参考書や教科書、模擬試験の情報が豊富にそろった国家試験対策室も整備しています。また、国家試験対策講座や模擬試験の実施、健康栄養学科オリジナルの「管理栄養士ハンドブック」を配布、パソコンやスマートフォンで利用可能なアクティブe-ラーニングシステムによる学習支援を行い、学生をサポートしています。

（詳細についてはP52～54 教育課程表（資格関連科目）を確認して下さい。）

IV 学籍および納付金

(学籍異動に関する手続き)

1. 学籍（学籍異動に関する手続）

学 籍

○二重学籍の禁止

本学の学生になるには、入学手続きを完了し、学生証の交付を受けなければなりません。

本学に在籍しているにも拘らず、他大学及び本学の他学部・他学科に在籍（在学）することはできません。（学則第34条）

○在学年限（学期数）

卒業に必要な単位を修得するために連続して在学できるセメスタ（在学セメスタ）は最長で16学期間（8年間）です。ただし、休学の学期数は在学学期数に算入されません。

○変更届

入学手続き時にWeb登録した内容について変更が生じた場合、板倉事務課窓口で所定の用紙に変更箇所を記入し、届け出をしなければなりません。登録されている内容は学生の身分を本学が証明する基礎となる重要なデータであり、卒業後も永久保存され、厳重に保管されるものです。変更が生じた場合（氏名変更、住所変更）は速やかに届け出てください。なお、住所変更についてはToyoNet-G上で変更できます。（外国人留学生は板倉事務課のみ）

主な変更届と必要な書類は以下のとおりです。

変 更 事 項	提出時に必要な書類等
本人氏名変更（改姓・改名）	戸籍抄本
本人住所変更（電話番号の変更も含む）	〈外国人留学生の場合は在留カードのコピー（表裏）〉
通学区間変更	
保証人変更	保証人の署名・捺印
保証人住所変更（電話番号の変更も含む）	
保証人勤務先変更	
緊急時連絡人変更	
本籍地変更	住民票（ただし本籍の記載のあるもの）、または戸籍抄本

本学の就学手続きを完了した学生に、学生証を交付します。（学則第29条）

学生証は、本学学生としての身分を証明するものであり、常に携帯し、次の場合これを提示しなければなりません。

- 1) 本学教職員の請求があった場合
- 2) 定期試験を受験する場合
- 3) 各種証明書や学生旅客運賃割引証明書（学割）等の交付を受ける場合
- 4) 通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船し係員の請求があった場合等

学 生 証

学生証は、学長印、学生本人の写真、裏面シールの貼付が無いものは無効です。
学生証は他人に貸与または譲渡することはできません。

○有効期間

学生証の有効期間は1年間です。春学期入学者（進級）の場合は、4月1日から次年度の4月15日までです。入学時に交付を受けた学生証は、4年間使用します。

○有効期間の更新

毎年学期始めの進級手続き期間内に、学生証の有効期間の更新を受けなければなりません。

○返 還

卒業または退学・除籍等、本学に籍がなくなった場合は、学生証を本学に返還しなければなりません。

○再 発 行

学生証を紛失もしくは破損・著しく汚損した場合は、直ちに本学に届け出し、以下の手続きに従って学生証の再発行を受けなければなりません。

（再発行には、1週間かかります）。

※いずれの場合も再発行手数料（2,000円）が必要です。

申込キャンセルによる手数料の返金はできません。

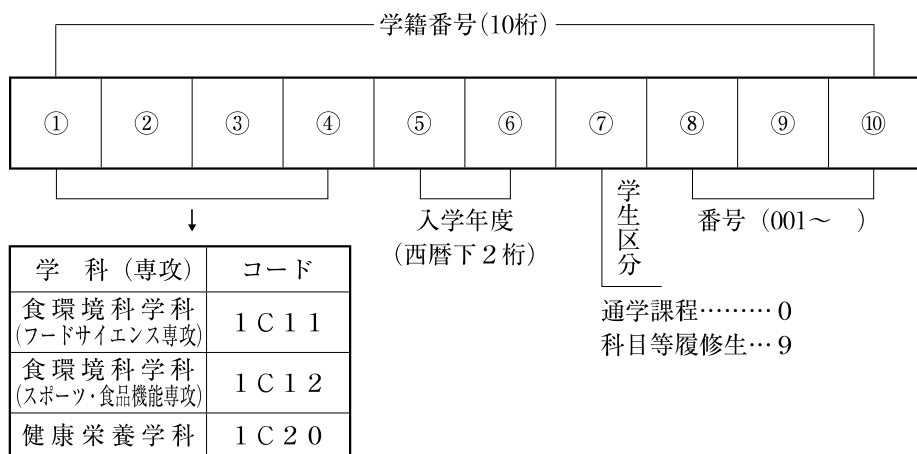
○暗証番号（パスワード）

第三者に不正使用されないために、4桁の数字の暗証番号が登録されています。入学手続き時に届け出た暗証番号は、自動証明書発行機で証明書を発行する際に必要です。必ず覚えておいてください。

学 籍 番 号

入学の手続きを完了した学生には、学籍番号が与えられ学生証に記載されます。この学籍番号は、卒業まで変わることはありません。

学籍番号は履修登録や、試験の答案用紙提出、各種届出、証明書の申請等で必要となりますので、正確に記憶しておいてください。



進 級

休学者が復学した場合などの特別な事情がない限り、原則として上級の学年に進級できます。

4 年 原 級

本学に学生として最低4年間修学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。4年次終了までに所定の単位を修得できず、卒業できないことを4年原級といいます。

卒業要件単位を修得するために連続して在学できる年数（在学年数）は、通算して8年を限度とします。その年限までは4年生ということになります。

○納付金

4年次生で原級する場合の納付金は、当該学生の入学年度の納付金を適用します。

休 学

病気・家庭の事情、留学等の理由で、3ヶ月以上本学に就学することができない場合は、大学の許可を得て休学することができます。（学則第35条）

原則として連続する2セメスタを超えて休学することはできません。ただし特別な事情がある場合は、大学の許可を得て休学することができます。休学の期間は通算して8セメスタを超えることはできません。

○休学期間

休学期間について

- 1) 春学期の休学の許可を受けた日から、当該学期の9月30日までです。
- 2) 秋学期の休学の許可を受けた日から、当該学期の3月31日までです。

休学期間を終了した場合

- 1) 春学期休学した場合は、10月1日付で復学しなければなりません。
- 2) 秋学期休学した場合は、4月1日付で復学しなければなりません。

休学期間の延長について

- 1) 春学期休学者は、秋学期終了時までとし、さらに延長することはできません。
- 2) 秋学期休学者は、春学期終了時までとし、さらに延長することはできません。

* 上記休学期間を終了した場合に復学することになりますが、復学ができない場合は、板倉事務課へ相談してください。

○手 続 き

休学を希望する場合は、許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署の上、学生証を添えて板倉事務課へ提出してください。

なお、病気・怪我が理由の場合には、医師の診断書が必要です。
休学が許可された場合は、休学許可書を保証人宛に郵送します。

手続きは原則として学生本人が行ってください。ただし、やむを得ない事情がある場合は、板倉事務課へ相談してください。

休学の手続き期間は、その年度の春学期6月30日、秋学期12月31日までです。ただし、期首付（春学期4月1日付、秋学期10月1日付）の休学の手続き期間は、その学期の納付金納入期限までとなります（下記「納付金」の項目参照）。

○納付金

（1）第1期（春学期）の納入期限までに休学を願い出た場合

休学日を4月1日付として扱い、納付金のうち授業料・実験実習料は納入する必要はありません。ただし、施設金は半期分の半額等を納入する必要があります。

全額一括納入した場合は、第1期（春学期）分の授業料・実験実習料・施設金の半額および第2期（秋学期）分の納付金を払い戻します。

（2）春学期中に休学する場合

春学期の途中で休学する場合、第1期（春学期）の納付金は払い戻しません。

（3）第2期（秋学期）の納入期限までに休学を願い出た場合

休学日を10月1日付として扱い、納付金のうち授業料・実験実習料は納入する必要はありません。ただし、施設金は半期分の半額等を納入する必要があります。

第2期（秋学期）分の納付金を納入した場合は、第2期（秋学期）分の授業料・実験実習料を払い戻します。

（4）秋学期中に休学する場合

秋学期の途中で休学する場合、第2期（秋学期）の納付金は払い戻しません。

*連続休学する場合、次学期分の授業料・実験実習料を除く納付金は納入しなければなりません。

復学

○手続き

休学期間を満了し、在学することを復学といいます。春学期休学の場合は10月1日付、秋学期休学の場合は次年度4月1日付で復学しなければなりません。

復学の対象者（当該学期休学者）には、板倉事務課から復学手続きの案内、復学に必要な書類及び納付金振込用紙を各学期末月の下旬頃に保証人宛に郵送します。

復学する場合は案内にしたがって、指定した期間内に手続きをしなければなりません。復学に関する手続きを怠ると除籍になります。（学則第38条三）

○納付金

- (1) 休学者が復学する場合の納付金は、入学年度の額が適用されます。
- (2) 1セメスタ（半期）休学する場合、全額一括納入・分割納入の選択が可能な納入期は、第1期（春学期）とします。
第2期（秋学期）に復学する場合は、復学時に1セメスタ（半期）分の納付金を納入することになります。

○履修方法

休学期間中の履修登録科目は、全て無効となります。
*詳細な履修方法については、復学の手続き後、板倉事務課で履修指導を受けてください。

退 学

事情により本学での修学継続が困難な場合は、大学の許可を得て退学することができます。（学則第36条）

○手 続 き

退学を希望する場合は、板倉事務課で退学に関する指導を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添えて板倉事務課へ提出してください。

なお、病気・怪我が理由の場合には、医師の診断書が必要です。
これらの手続きは学生本人が行ってください。ただし、やむを得ず本人が手続きできない場合には、板倉事務課に相談してください。
退学が許可された場合は、退学許可書を保証人宛に郵送します。

○納付金

- (1) 新学期の納入期限の末日までに退学を願い出た場合
退学日を前学期の末日付として扱い、当該年度・学期の納付金を納入する必要はありません。
- (2) 春学期中に退学する場合
 - ①春学期の途中で退学する場合は、第1期（春学期）分の納付金は払い戻しません。
 - ②全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻します。
- (3) 秋学期中に退学する場合
秋学期の途中で退学する場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しません。

退 学 再 入 学

○手 続 き

退学した学生が春学期再入学を希望する場合は1月末、秋学期再入学を希望する場合は7月末までに板倉事務課で再入学に関する説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、板倉事務課へ提出してください。

再入学が許可された場合は、春学期へは4月1日付、秋学期へは10月1日付で再入学することができます。（学則第36条2項）

*外国籍の学生については在留資格取得の関係で、4月再入学は前年10月末、10月再入学は4月末日が手続きメ切となります。

○納付金

退学者が再入学する場合の納付金は、再入学する学年次の納付金を適用します。ただし、入学金は再入学する年度の入学金の半額となります。

○履修方法

再入学する学年は、原則として退学した学年になりますが、単位修得状況によって学年を繰り下げの場合もあります。また、学科教育課程表も原則として入学年度のものを使用しますが、大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表が適用される場合があります。

*なお、詳細な履修方法については、再入学の手続き終了後、板倉事務課で履修指導を行いますので、必ず受けてください。

懲戒による退学

本学の規則に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生は、所属学部教授会の議を経て懲戒による退学となる場合があります。(学則第57条)

除 籍

指定された期間内に納付金を納入しない学生、在学年数を越えた学生、休学期間を越えた学生、新生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生、その他本学において修学の意味がないと認められる学生、外国人留学生で「留学」の在留資格の発給を拒否された学生は、学則第38条により除籍となります。なお、詳細は板倉事務課で確認してください。

除籍は、学籍の抹消として処理され、本学の在籍者としての身分を失うことになります。この場合は、速やかに学生証を本学に返還しなければなりません。

除籍になった場合は、除籍通知書を保証人宛に郵送します。

除籍日は、除籍事由により9月30日もしくは3月31日となります。

(「留学」の在留資格の発給を拒否された学生を除く)

○手 続 き

除籍者より証明書の申請がある場合には、除籍等の項目を明記した在籍証明書を板倉事務課にて発行します。

除 籍 再 入 学

除籍になった学生は、大学の許可を得て再入学することができます。(学則第38条3項)

○手 続 き

除籍になった学生が春学期再入学を希望する場合は1月末、秋学期再入学を希望する場合は7月末までに板倉事務課窓口で再入学に関する説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、板倉事務課窓口へ提出してください。

再入学が許可された場合は、春学期へは4月1日付、秋学期へは10月1日付で再入学することができます。(学則第36条2項)

○納付金

除籍者が再入学する場合の納付金は、再入学する学年次の納付金を適用します。ただし、入学金は再入学する年度の入学金の半額となります。

○履修方法

転部・転科

再入学の学年は、原則として除籍時の学年になりますが、単位修得状況によっては学年を繰り下げられる場合もあります。また、学科教育課程表も原則として入学年度のものを用いますが、大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表が適用される場合があります。

*なお、詳細な履修方法については、再入学の手続き後、板倉事務課で履修指導指導を行いますので、必ず受けてください。

本学内で他の学部・学科への転部・転科を希望する学生に対して選考試験を実施します。(学則第32条)

転部・転科を希望する学生は、第1部(昼)内の他学部・他学科への転部・転科、および第2部(夜)への転部・転科となります。

○転部・転科試験の手続き

10月下旬に配布予定の試験実施要領をもとに手続きを取り、1月中旬に実施予定の試験を受験してください。

合格発表は、3月下旬に行う予定です。

*転部・転科試験の手続きに関しては、東洋大学公式アプリでお知らせします。

*詳細は、板倉事務課窓口へ相談してください。

○納付金

納付金は転部・転科先の学年の納付金を適用します。ただし、入学金は、転部・転科先との不足分を納入することになります。

編入学・転入学

編入学

本学では卒業後に本学の学部・学科への編入学希望者に対して、編入学試験を実施しています。(学則第30条)

○納付金

編入学する場合の納付金は、編入学する年度の新入生の納付金を適用します。ただし、本学出身者が編入学する場合、入学金は編入学する年度の新入生の額の半額となります。

○履修方法

編入学する場合は、原則として3年生となりますが、単位の修得状況によって編入学する学年を繰り下げられる場合もあります。また、学科教育課程表も編入学する入学年度のものを用います。

*詳細は、編入学の手続き時に板倉事務課で説明を受けてください。

転入学

本学では、他大学等から本学の学部・学科への転入学の希望者に対して転入学試験を実施しています。(学則第31条)

○納付金

転入学する場合の納付金は、転入学する年度の新入生の納付金を適用します。

○履修方法

転入学する場合は、原則として3年生となりますが、単位の履修状況によって転入学する学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表も転入学する入学年度のものを適用となります。

*詳細は、転入学の手続時に板倉事務課で説明を受けてください。

科目等履修生

特定の科目について学修しようとする場合は、科目等履修生として、科目履修を許可される場合があります。

*詳細は、板倉事務課で配布している「科目等履修生募集要項」を参照してください。

許可願

休学・退学等の手続きを取る場合には、板倉事務課に許可願を提出しなければなりません。許可願の種類は以下のとおりです。

異動種別	配布方法	様式
休学	窓口配布 (ToyoNet-G 各種資料より ダウンロード 出来ます。)	許可願
退学		
退学からの再入学		
除籍からの再入学		
転部・転科願	窓口配布	志願書

2. 納付金に関する取扱

- (1) 「学費」と「その他の費用」を合わせて「納付金」と称します。「学費」は大学徴収分を指し、「その他の費用」は預り金（受託徴収分）を指します。
- (2) 2年次以降は、入学金を除く納付金が毎年度必要になります。

納入期間について

- (1) 納付金は、全額一括納入（全納）と授業料・一般施設設備資金・実験実習料を年2回に分割する分割納入（分納）を選択することができます。
※1年を二期に分け、入学月の属する期を第1期とし、その次の学期を第2期とします。
第1期（春学期）納入期限 5月31日
第2期（秋学期）納入期限 11月10日
(各年の曜日の関係により、納入期限が短縮される場合があります。)
- (2) 所定の納期までに納付金を納入しない学生は、学則第38条第1項により、除籍とします。
- (3) 修学の意味がない場合は、上記（1）に記載の納入期限までに退学許可願を板倉事務課に提出してください。
- (4) 修学の意味がありながら学期始めに休学する場合は、上記（1）に記載の納入期限までに休学許可願を板倉事務課に提出し、休学に必要な費用を納入してください。なお、大学の営業日にあわせて期限が前後することがあります。
- (5) やむを得ない事情で納入期限までに納付金を納入できない場合は、納入期間内に板倉事務課に相談してください。

納入方法について

- (1) 本学所定の納入方法で、国内の金融機関から振り込んでください。
 - (2) 大学窓口での受付および海外からの送金はできません。
 - (3) 納入された納付金は、超過納入が明らかな場合または学籍異動に伴い徴収の対象とならない場合を除き返還しません。
 - (4) 振込用紙の送付先は保証人宛て（留学生は本人宛て）となります。振込用紙を紛失した場合は、至急、板倉事務課まで連絡してください。
※本人または保証人の住所に変更があった場合は、ToyoNet-G上で住所変更を行ってください。
- 納付金についての問い合わせ先 TEL：0276-82-9111
- 住所変更についての問い合わせ先 TEL：0276-82-9118

各種証明書

板倉事務課では、下記の証明書を発行しています。

種 類	手数料	発 行 方 法	備 考
在 学 証 明 書	200円	証明書発行機	板倉・白山・川越・赤羽台のキャンパスで発行可能です。 ※当該年度に本学の健康診断を受けた者のみ
卒業見込証明書	200円		
成 績 証 明 書	200円		
健康診断証明書※	200円		
学 生 証 再 発 行	2,000円	板倉事務課窓口	
英文在学証明書	500円		
英文卒業見込証明書	500円		
英文成績証明書	1,000円		
英文履修科目証明書	1,000円		
英文健康診断証明書	1,000円		

窓口で証明書の発行を申請する場合は、次のような手順となります。

1. 証明書発行機にて「証明書発行願」を購入する。
2. 「証明書発行願」に必要事項を記入し、学生証を添えて提出する。

*なお、学生証や英文の証明書等日数がかかるものもありますので、早めに申し込んでください。

*発行方法が変更となった場合は、別途お知らせします。

「証明書コンビニ発行サービス」を導入しています。詳細についてはホームページで確認してください。

成績証明書の成績の反映は、

春学期修得分…修得年度の10月1日

秋学期修得分…修得次年度の4月1日です。

ただし、卒業決定者は卒業式以降より発行可能です。

V そ の 他

1. 国際教育センター 海外留学・研修プログラム
2. 板倉キャンパスの情報環境について
3. 学則（学籍に関する事項の抜粋）
4. 東洋大学食環境科学部規程

1. 国際教育センター 海外留学・研修プログラム

海外留学・研修プログラムの概要

本学では、休学することなく参加できる海外留学・研修プログラムを豊富に用意しています。

プログラムの概要は以下のとおりです。

プログラム名	①長期留学	②協定校 語学留学	③語学 セミナー	④海外インターンシップ・ ボランティア	⑤ワシントンセンター	⑥Diversity Voyage
留学形態	学部留学 ^{※1}	語学留学 ^{※2}		—	—	—
期 間	1 学期 または1 年 ^{※3}	3～6 ヶ月	3～4 週間	2～6 週間	3～5 ヶ月	約10日間
出発時期	春学期：2～3月 秋学期：8～10月	春学期：2～5月 秋学期：8～9月	夏季および 春季休暇中		8～9月	夏季および 春季休暇中
語学条件	あり	なし		あり		なし
単 位	単位認定申請可 ^{※4}			履修登録対象 ^{※5}	単位認定申請可 ^{※4}	履修登録対象 ^{※5}
東洋大学留学 奨学金（給付型）	あり		なし			
東洋大学海外留学 促進奨学金（給付型）	グローバルリーダー型 トップ大学型	アクティブ型	チャレンジ型	アクティブ型	なし	

プログラムの内容等は変更になる場合があります。

- ※1 学部留学…現地で正規課程の科目を履修及び修得することを目的とする留学
- ※2 語学留学…海外の大学附属の語学学校で語学を集中的に学ぶ留学
- ※3 1年…留学先機関によって学期制度や学期の日程が異なるため、トータルで1年間の留学期間を指す言葉として使用しています。
- ※4 単位認定申請可…留学先大学等で修得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。
- ※5 履修登録対象…該当する本学の開講科目を履修登録できます。

各種海外留学・研修プログラムの詳細

①長期留学

本学が学生交換協定を結ぶ協定校または海外学生交換コンソーシアム加盟大学（ISEP・UMAP等）、もしくは留学支援団体を通じての留学や個人で出願する留学で、1学期間または1年間留学するプログラムです。

留学先の大学では正規課程の科目を履修および修得することを目的とし、東洋大学を休学することなく留学できます。留学先の授業料は免除型（Aタイプ）と負担型（Bタイプ）があり、留学支援団体や個人での出願先については、自己負担となります。留学期間に応じて奨学金が給付されます。

大学への出願・入学手続きは原則各自で行うため、留学に先立って自ら十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが重要です。

②協定校語学留学

本学の海外協定校附属の語学学校へ、3ヶ月から6ヶ月間留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし、語学を学びながら様々なアクティビティやホームステイ等を通じた異文化体験をします。原則、留学先の授業料は自己負担となりますが、条件を満たした場合、奨学金が給付されます。また、東洋大学を休学することなく留学できます。

③語学セミナー

夏季および春季休暇を利用した短期語学研修プログラムです。語学研修、アクティビティ、ホームステイ等を通じた語学力の向上と異文化理解を目的としています。

④海外インターンシップ・ボランティア

グローバル社会で活躍するために必要となる英語力・異文化理解力・社会人マナーなどの社会人基礎力を育成し、世界に羽ばたく学生を育てることを目的としたプログラムです。夏季および春季休暇を利用し、2～6週間研修を行います。語学力の向上に加え、各国の経済状況や文化風習の違いを“働く”という社会生活を通じて体験し、今後の学生生活とキャリア形成に生かすことができます。

⑤ワシントンセンター (TWC)

アメリカの首都であるワシントンDC周辺の公的機関、NPO、企業などで15週間の就労体験と夜間に行われる授業を通じ国際的感覚を身につけ、将来のグローバルリーダーを育てるプログラムです。

⑥Diversity Voyage

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) が行う、夏季および春季休暇を利用した短期間の海外研修です。海外で現地学生等と英語でコミュニケーションを取りながら共創・協働することで、語学力のみならず「多様性適応力」を育みます。

海外留学・研修
プログラム向け
給付型奨学金

○各プログラムの詳細は大学webサイトを確認ください。
上記以外にもオンラインプログラム等、様々なプログラムを実施しています。
国際交流「海外留学を希望する方へ」
<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/>



東洋大学では、多くの学生が海外留学・研修プログラムに参加できるよう、充実した奨学金を用意しています（プログラムや語学スコアに応じ、7～300万円を給付）。

－東洋大学留学奨学金

－東洋大学海外留学促進奨学金

その他、民間団体などによる奨学金もあります。

各奨学金の要件や金額は変更になる可能性があります。

詳細や最新情報は国際教育センターwebサイトで確認ください。

https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/ryugaku_prep/scholarship/international-scholarships/



休学留学

◆本学を休学して外国の大学等へ留学した場合の単位認定について

本学を休学して外国の大学等に留学した場合、留学先で修得した単位を本学の単位として認定することができます。単位認定を希望する場合は、事前に所定の手続きを行う必要があります。

◆単位認定の対象となる機関

学位授与権を持つ大学およびその附属語学学校（学部学生のみ2年制大学及び附属語学学校を含む。）。

◆留学期間

休学期間を超えない範囲とする。

※原則として連続する2セメスタ（1年間）を超えて休学することはできません。

◆必要な手続き

休学手続きを行う前に、国際教育センターへ休学期間中の留学について届出を行う必要があります。手続き詳細については、本学webサイトを参照してください。

<http://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ies/kyugaku-ryugaku/>



！板倉事務課での事前相談について！

長期留学および協定校語学留学に出願する学生は、留学終了（帰国）後に最短で卒業および諸資格取得を可能にするため、不明な点がある場合は必ず留学出願前に板倉事務課窓口で相談してください。また、帰国後の履修手続きについて注意すべき点（継続履修および学年進行に関わる科目、帰国後の授業科目の履修・成績（卒業要件、資格取得要件等））がありますので、留学決定後にも必ずすみやかに板倉事務課窓口で相談してください。

国際交流・国際教育プログラムの内容や募集に関する情報は、国際教育センターwebサイトで確認して下さい。

URL：<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/>



◎海外留学・研修プログラムについての問い合わせ先

国際部〔国際教育センター〕（白山キャンパス8号館1階）

TEL 03-3945-7684 Email: mlryugaku@toyo.jp

◎学籍・履修・単位認定に関する問い合わせ先

板倉事務部板倉事務課

TEL 0276-82-9173

受付時間 月～金 9:20～12:50、14:00～18:30

土 9:20～12:50

2. 板倉キャンパスの情報環境について

(1) ネットワーク利用について

本学では情報環境として電子メールを中心とした「ToyoNet (トヨネット)」、大学での生活、学修上で必要となる手続き・登録を行うシステム「ToyoNet-G (トヨネットジー)」、講義内容の補完等を行い授業における教員との連絡の役割をする「ToyoNet-ACE (トヨネットエース)」、キャンパスライフを充実させるためのツールとして「東洋大学公式アプリ」が提供されています。

* 全学生にToyoNetの電子メールアドレスが無償で配布されています。

ToyoNet (トヨネット)

ToyoNetについての詳しい説明は
URL <https://www.toyo.ac.jp/toyonet/top/>で見ることができます。

ToyoNet-G (トヨネットジー)

Web上での履修登録やシラバス閲覧、時間割確認、休講情報の閲覧などができます。
URL <https://g-sys.toyo.ac.jp/portal>

ToyoNet-ACE (トヨネットエース)

教育研究支援システムです。授業の内容やレポート提出などのお知らせが載っています。実際に利用するには、パソコンや携帯端末から以下のアドレスにアクセスしてください。
URL <https://www.ace.toyo.ac.jp/>

東洋大学公式アプリ

大学からの重要な情報提供やキャンパスライフで困ったときに役立つ情報、学びをより豊かにしていくための機能を搭載しています。

(2) パソコン・ネットワークの利用場所について

学内での利用

PC教室、図書館、就職・キャリア支援室にあるパソコンは、目的に応じて利用できます。また、自己所有のノートパソコンも学内の「無線LANアクセスポイント」に接続すれば、ネットワークの利用ができます。

- ・ PC教室
2号館2階
2208教室・2209教室

PC教室は教育研究を目的にWindowsパソコンが設置されています。2209教室・2208教室共に授業・個人利用のため60台のデスクトップパソコンが用意されています。

個人利用としては、授業以外の時間でのレポート・卒論作成、電子メール利用などに開放しています。詳細は大学HPまたはPC教室前の掲示板を確認してください(ただし、原則として大学開講日(試験期間含む)月～金曜日の9:30～18:30、土曜日の9:30～12:30とします)。

・2207教室

学生ブースには60台のWindowsデスクトップパソコンを備えています。また、ビデオやDVD、CD、書画カメラなどの視聴覚機器を使用して、多角的な語学授業を行うマルチメディア教室です。

・図書館
コンピュータ・commons

Windowsパソコンが28台設置されています。PC教室(2208・2209)のPCと同じ目的・方法で利用可能です。閉館時間の15分前まで利用できます。

・無線LAN

無線LAN機能付きのパソコンで 板倉キャンパス内では「いつでもどこでも」インターネットにアクセスすることができます。

(3) サポート窓口

PC教室の利用やToyoNetメールについての相談に対応しています。

板倉情報準備室

受付時間 月～金：9：30～17：00

土：9：30～12：30

3. 学則（学籍に関する事項の抜粋）

2023年4月1日現在

別表および最新の学部規程はホームページを確認してください。

第3章 修学等

第1節 修業年限

（在学年限）

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第4章 入学、退学、休学、除籍等

第1節 入学、留学等

（入学の時期）

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- （1）高等学校を卒業した者
- （2）通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- （3）外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- （4）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- （5）文部科学大臣が指定した者
- （6）大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- （7）高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- （8）その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

（入学の志願及び選考）

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表第1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続）

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在籍期間中の本学の諸規則の遵守について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条 入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

(編入学)

第30条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうえ、編入学を許可することができる。

- (1) 短期大学を卒業した者
 - (2) 大学を卒業した者
 - (3) 高等専門学校を卒業した者
 - (4) 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者
- 2 編入学に関する規程は、別に定める。

(転入学)

第31条 学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうえ、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

(転部・転科)

第32条 学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうえ、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

(留学)

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

(二重学籍の禁止)

第34条 学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 引続き3カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。

3 休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

4 願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続を経て、除籍する。

- (1) 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
 - (2) 第20条に規定する在学年数を超えた者
 - (3) 第35条第3項に規定する休学期間を超えた者
 - (4) 新入生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の意思がないと認められる者
 - (5) 出入国管理及び難民認定法（昭和26年10月4日政令第319号）に定める「留学」又は他の中長期在留資格の取得が不許可又は不交付とされた者
- 2 学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。
- 3 第1項の規定（第2号及び第3号に掲げる者を除く。）により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

第57条 学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由なくして出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

4. 東洋大学食環境科学部規程

2023年4月1日現在

別表および最新の学部規程はホームページを確認してください。

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学学則（以下「学則」という。）に基づき、食環境科学部の教育研究に関し必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 食環境科学部は、学則第4条の2に基づき、学部及び各学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を、別表第1のとおり定める。

(学位授与、教育課程編成・実施並びに入学者の受入の方針)

第3条 食環境科学部は、学則第4条の3に基づき、学部及び各学科又は専攻の学位授与に関する方針、教育課程編成・実施に関する方針並びに入学者の受入に関する方針を、別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 食環境科学部は、学則第39条第1項第1号から第5号に基づき、各学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法を、別表第3のとおり定める。

(卒業に必要な単位等)

第5条 食環境科学部は、学則第52条に基づき、各学科又は専攻の卒業に必要な単位等を、別表第4のとおり定める。

2 食環境科学部は、4年次の必修科目等を履修するための条件を、別表第5のとおり定める。

(履修上限単位数)

第6条 食環境科学部は、学則第42条第3項に基づき、各学科又は専攻の卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を24単位とする。

(教育職員その他資格)

第7条 学則第45条に基づき、食環境科学部で取得できる資格は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 教育職員となる資格
- (2) 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格
- (3) 管理栄養士の受験資格
- (4) 栄養士となる資格

2 前項第1号の資格において、食環境科学部で取得することができる教育職員免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

学科及び専攻等	免許状の種類及び教科		
	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状	栄養教諭1種免許状
食環境科学科フードサイエンス専攻	理科	理科	—
健康栄養学科	—	—	栄養教諭

(資格取得のための授業科目及び単位数)

第8条 学則第45条第2項に基づき、食環境科学部で資格を取得しようとする者は、次の各号に定める所定の授業科目の単位を修得しなければならない。

- (1) 教育職員の資格 別表第6に掲げる授業科目の単位を修得
- (2) 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格 別表7に掲げる授業科目の単位を取得
- (3) 管理栄養士の受験資格 別表8に掲げる授業科目の単位を取得
- (4) 栄養士となる資格 別表9に掲げる授業科目の単位を取得

(改正)

第9条 この規程の改正は、学長が食環境科学部教授会の意見を聴き、学部長会議での連絡調整を経て行う。

附 則

- 1 この規程は、2022年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、2021年度以前の入学生については、第4条別表第3及び第8条第1号別表第6は、なお従前の例による。



V
そ
の
他

教員紹介(プロフィール)

オフィスアワーについて

学生の質問や相談に対し、教員は日常的に時間の許す限り、いつでも対応するように努めていますが、学生の便宜をいっそう図るため、オフィスアワーを設定しています。

1. オフィスアワーとは

正課の授業とは別に学生と教員のコミュニケーションを密接にする場として設けた時間帯のことです。あらかじめ設定された時間帯に専任の教員が研究室で待機し、学生からの質問や相談を受けやすくするための制度です。学生は、自分の所属する学科の教員だけでなく、どの学部・学科の教員を訪ねてもかまいません。

オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、単位取得について、学習の進め方、履修登録のプランなどの相談のほか、レポート指導など、学習に関することをはじめ、卒業後の進路、転部・転科、休学などの進路に関する事、留学、就職、大学院進学のための推薦状に関する事など、学生生活全般にわたって個人的な相談をすることができます。

先生方は、学生のみさんのさまざまな相談に応じ対処してくれますが、対処しきれない事柄については、他の専門の先生や、学内外の適切な関係者(組織)を紹介してくれるでしょう。

2. オフィスアワーの活用方法

オフィスアワーを活用する際は、ToyoNet-G(学務システム)のシラバス「教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯を確認し、研究室を訪問してください。予約が必要な場合もありますので、その場合は確認をしてから訪問してください。

※ここに記載されている内容は2023年4月時点のものです。

食環境科学部食環境科学科



教授 加藤 悦子
KATOH, Etsuko

1号館3階第29研究室

主な担当科目

基礎化学、フードサイエンスの化学、機器分析、物理実験

学位

博士（工学）

自己紹介、学生へのメッセージ

我々ヒトも含めた生物は、様々な生体分子を巧みに利用して生命活動を維持しています。その中でもタンパク質やデンプンなど生体高分子の原子レベルでの構造と機能の解明に興味を持ち研究しています。タンパク質は、動物が食べた食事を消化するときにも、植物が光合成を行い成長するときにも、（これは猫好きな私の個人的な趣味ですが）猫の毛の色や出方を決めるときにも、様々な場面で重要な働きをします。そしてデンプンの構造は、お米の硬さや柔らかさなど食品の食感と関連があります。このように我々の周りには原子レベルで理解できることがたくさんあり、興味は尽きません。

大学では「身近な現象を科学的に考えて理解する」ことを授業や実験を通して経験してほしいと思います。そして、学生生活の中で「自ら考える」習慣を身に付けてほしいと思います。

オフィスアワー

水曜日 13:00~14:00（事前に連絡があれば左記以外でも可能です）



教授 児玉 剛史
KODAMA, Yoshifumi

1号館2階第49研究室

主な担当科目

生物統計学、情報処理基礎

学位

博士（農学）

自己紹介、学生へのメッセージ

専門は食料経済学になります。日本型食生活に三大栄養素からアプローチしたり、野菜生産に微量栄養素からアプローチしたりと、主に食品属性と呼ばれる対象を分析しています。また、環境経済学的な研究も行ってきました。出身は鹿児島県です。スポーツ全般をやるのが好きです。バスケット、サッカーと以前やっていて、今はゴルフをはじめました。学生の皆さん、時間をかけて、苦労して手に入れたものこそ、貴重な自分の力になると思います。大学での生活は人生において非常に大切なものです。大学生活を楽しんでください。

オフィスアワー

金曜日 15:00~16:00



教授 後藤 顕一
GOTO, Kenichi

1号館2階第58研究室

主な担当科目

化学実験、理科指導法、総合的な学習の時間、教育方法、教育実習、教育実践演習

学位

博士（学校教育学）

自己紹介、学生へのメッセージ

科学教育（化学教育）の研究をしています。

近年、想定や想像をはるかに超える「想定外」の出来事が頻発しています。大学における探究型の授業や経験は、「想定外」のこれからを生き抜くうえで基盤になる力の育成につながります。それら力の獲得に向けて、主体的に社会の課題に向き合い、本質に迫って深く考える日々を重ねましょう。

教職希望者は、進路実現を果たすとともに、学び続ける力の獲得を目指してください。

オフィスアワー

月曜日 13:00~15:00



教授 佐々木 和生
SASAKI, Kazuo

1号館3階第5研究室

主な担当科目
生物学、生命論

学位
博士（理学）

自己紹介、学生へのメッセージ

植物生理学や植物分子生物学などの成果が応用されて遺伝子組換え植物が登場しました。研究の成果を社会に還元することは大切ですが、同時に社会に正しくかつ分かりやすく説明する義務も担っています。大学では勉強や研究に没頭するだけではなく、学んだこと研究したことを説明する能力を培うことが必要です。

大学での時間は長いようで短いものです。勉強にも遊びにも意欲的に取り組んで時間を浪費しないで下さい。

オフィスアワー

春学期：水曜日 13：00～14：00、秋学期：火曜日 13：00～14：00



教授 田部井 豊
TABEI, Yutaka

1号館3階第20研究室

主な担当科目
植物遺伝育種学、食品バイオテクノロジー、生物資源利用学

学位
博士（農学）

自己紹介、学生へのメッセージ

いつの時代でも将来に対して希望と不安があります。これからは、地球温暖化や人口増加による食料不足など様々な問題に直面してくると思います。そこで、ゲノム編集技術などのバイオテクノロジーを駆使することで植物の能力を最大限に活用し、様々な問題に対応することが期待されています。

大学では、物事を考える上での基礎的及び専門的知識を習得し、そのうえで自ら社会との関わりを考え、社会に貢献できるような人になることを期待しています。

オフィスアワー

木曜日 13：00～14：00



教授 西田 洋巳
NISHIDA, Hiromi

1号館3階第18研究室

主な担当科目
食環境科学英語2、フードエンジニアリング、食品微生物利用学、基礎微生物学、応用酵素学

学位
博士（農学）

自己紹介、学生へのメッセージ

日本酒造りにおいて麹と酵母が初めて混ぜられる工程を初添えと言います。この初添えからバクテリアを分離し、同定しています。それらのバクテリアの中には酒蔵に住み着いている蔵付きバクテリアが含まれる場合があります。そこで、富山の酒造会社に協力していただき、ある酒蔵特有の蔵付きバクテリアを、そのバクテリアを有していない別の酒蔵における日本酒造りにおいて添加する実験を行い、添加の有無による日本酒の違いを調べました。その結果、出来上がった日本酒の味や風味に違いが生じ、それらを飲み比べたほぼすべての人が添加した方が美味しいとコメントしました。このことは、蔵付きバクテリアが清酒酵母と相互作用した結果であると考えています。また、日本酒造りにおいてバクテリアは悪者扱いされていますが、日本酒における良い効果を持つバクテリアが存在している可能性を強く示唆しています。私は1300年以上の歴史を持つ日本の伝統文化の1つである日本酒および日本酒造りにおいて、見過ごされてきた微生物の機能を明らかにすることを研究目標に掲げ、教育、研究にかかわります。

オフィスアワー

ToyoNet-Gの教員プロフィールを参照してください。



教授 福森 文康
FUKUMORI, Fumiyasu

1号館3階第12研究室

主な担当科目
基礎生化学、生体高分子化学

学位
農学博士

自己紹介、学生へのメッセージ

日々の食事において供される食べ物が、どのようにしてつくられ食卓に届くのかを考えてみてください。また、食事や食べ物が私たちの生活や健康にはたす役割について考えてみてください。食環境科学科で学ぶ内容は幅広いものであり、いずれも食とその役割を理解するために必要な事柄です。食品の安全を守り食糧の安定供給に寄与して、国民の食生活を豊かにするとともに健康増進に貢献できる人材となるよう学修してください。

オフィスアワー
金曜日 13:00~14:00



教授 藤井 修治
FUJII, Shuji

1号館3階第14研究室

主な担当科目
物理Ⅰ、物理Ⅱ、物理実験、現代物理

学位
博士(理学)

自己紹介、学生へのメッセージ

肉、魚、野菜、乳製品、これらはすべて柔らかという特徴を持ちます。これらの柔らかな物質群をソフトマターと呼びます。我々の研究室では、食品物性をソフトマター物理の観点から眺め、様々な研究を展開していきます。

食環境科学は、他大学にはないユニークな学部です。同年代110万人のなかで食品を専攻に学ぶ人口は1%に満たないでしょう。したがって、すでに皆さんは食品を専門に学ぶ、とても貴重な存在なのです。さらにこのユニークな学部で物理的な素養を育めば、極めて個性的な存在になれると思いませんか？学び研究することが個性を生みます。科学を楽しみながら一緒に個性を磨きましょう。

オフィスアワー
水曜日 13:00~14:00



教授 宮西 伸光
MIYANISHI, Nobumitsu

1号館3階第32研究室

主な担当科目
食品化学、機能食品科学

学位
博士(水産学)

自己紹介、学生へのメッセージ

「食」は、生命が生き続ける為の「主要3要素」の1つであり、生命の誕生とはすなわち、物質の取り込み(食)が行われた瞬間の事を意味しており、「食を科学する」という事は、「生命の本質を科学する」という事に他ならない。「糖」は最も多くの食品に入っている成分と言っても過言ではない。それは、「糖」というものが生命にとって無くてはならない重要な成分であるという事を暗に示している。

また一方では、「糖」はエネルギー源として利用されるばかりではなく、「糖鎖」という形態をとる事によって、生体内の様々な物質の行き先を決める役割を果たしていたり、細胞同士の情報交換や、病原菌やウイルスの感染に関係していたり、生命の様々なコミュニケーションの場において活躍している。生命が何故、生きるために「糖」や「糖鎖」というものを必要とするのか、必要だったのか、そして採用されたのか。

我々の研究室では「糖の本質の探究」を行っています。しかしながらそれは、我々が生命の神秘を知りたくて、その探求の糸口が、たまたま「糖」というものであっただけなのだろう、と思う人がいるかも知れない。だが、それは否である。我々は、これまでの先駆者である多くのクライコバイオロジスト達が得た膨大な「糖」に関する知見から、そこにはきっと生命誕生の瞬間や、一様ではない生命進化の場面場面の一つ一つが「糖進化」という言葉に置き換えられるかどうか分からないが、そこには生命の神秘を知るに最も相応しい理解が、実に繊細かつ精密に、如実に存在していると信じてやまないのである。

オフィスアワー
水曜日 12:40~13:20



教授 吉江 由美子
YOSHIE, Yumiko

1号館3階第42研究室

主な担当科目

食品学概論、食品分析学概論、食品官能評価概論

学位

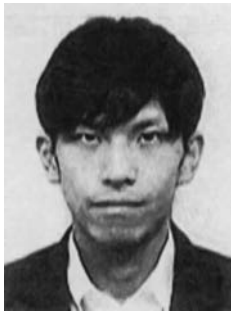
博士（水産学）

自己紹介、学生へのメッセージ

よく遊び、よく学べ、でメリハリのついた日々をおくりましょう。

オフィスアワー

月曜日 12:40~13:20



准教授 佐藤 秀保
SATO, Hideyasu

1号館3階第17研究室

主な担当科目

ビッグデータ入門、食品流通学、情報処理基礎、情報処理演習

学位

博士（農学）

自己紹介、学生へのメッセージ

専門は農業・食料経済学で、現在は全国のスーパーマーケットなどでの購入情報が記録された大規模データを用いて消費者行動の分析を行っています。昨今、コンピュータ性能・データ利用可能性の向上に伴い、データに基づく意思決定を行おうという社会的機運が高まっています。しかしデータの扱い方が不適切であれば誤った分析結果となってしまいますし、データの背景を知らないで解釈を誤ってしまう危険があります。経済学を切り口としたデータ分析は、このような誤りを排すために必要な「武器」を提供してくれるでしょう。経済学とデータ分析のスキルを求める企業も以前に比べると着実に増えてきている印象があります。これらの知識・技術を身につけることが、皆さんの豊かな将来に少しでも寄与することを念願しております。

オフィスアワー

春学期：金曜日 15:00~16:00、秋学期：月曜日 13:30~14:30



准教授 下島 優香子
SHIMOJIMA, Yukako

1号館3階第21研究室

学位

博士（獣医学）

自己紹介、学生へのメッセージ

食品はわたしたちが生きていくために必要なもので、おいしくて、栄養があって、安全であることが大切です。食品衛生学は、食中毒や食品の腐敗など食品による危害とその防止方法を学び、食品の安全・安心の確保をめざします。私は特に食中毒を起こす細菌や、食品における細菌の挙動について研究しています。

大学ではたくさん勉強して知識を吸収し、さまざまな経験を積んで、視野を広げてください。

オフィスアワー

ToyoNet-Gの教員プロフィールを参照してください。



准教授 高橋 珠実
TAKAHASHI, Tamami

1号館2階第56研究室

主な担当科目

人体の構造と機能、スポーツ救急法演習、スポーツ心理学、トレーニング指導法、
スポーツ健康科学実技(バスケットボール)、(ヨガ)、ファイトセラピー論

学位

修士 (Master of Science in Adapted Physical Education)

自己紹介、学生へのメッセージ

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は子どもだけでなく、大人の心身の健康にも大きな影響を与えています。この研究室では、人の健康に関わる研究を、乳幼児から高齢者までを対象に幅広く行っています。この分野は、ひとがイキイキとした人生を送る上で、とても重要な分野だと考えています。心の健康、運動と健康、食と健康、環境と健康、健康スポーツ科学、老化とその予防等について興味のある方、ぜひ一緒に学んでいきましょう。

オフィスアワー

春学期：月曜日 11：10～12：40、秋学期：木曜日 11：10～12：40



准教授 露久保 美夏
TSUYUKUBO, Mika

1号館3階第9研究室

主な担当科目

調理科学実習、日本の食文化、フードコーディネーター論

学位

博士 (学術)

自己紹介、学生へのメッセージ

食べものは調理操作によって状態が様々に変化します。この変化はなぜ起きるのか、おいしいと感じる時、それはどのような条件下で生まれるのか、などについて一緒に考え、多くの発見をしていきましょう。

オフィスアワー

月曜日 12：40～13：20



准教授 吉崎 貴大
YOSHIZAKI, Takahiro

1号館2階第54研究室

主な担当科目

応用栄養学、栄養疫学調査、栄養疫学実習

学位

博士 (食品栄養学)

自己紹介、学生へのメッセージ

食生活改善による健康維持・増進を将来的な目標として、生理学的な手法を用いて食生活と健康との関わりを検討してきました。管理栄養士としての全人的な視点を軸に、ヒトを対象とした研究成果を社会へ還元することに努めています。特に、科学的な視点で食生活と健康との関わりを考え、エビデンスを相手に伝えられる力、さらには相手に“何が伝わるのか”を意識して行動変容を促すことが重要であると考えています。例えば、相手の食生活を改善しようとアプローチし、食生活に関する意識や知識を伝えられたとしても、食行動を変えられなければ健康状態の改善は見込めません。自分の知識や伝えたい内容と、相手に伝わる内容とが乖離しないように十分なコミュニケーション能力を培う必要があります。そのためにも、切磋琢磨できる仲間たちと学生生活を有意義に過ごし、お互いを尊敬し合える多くの仲間を作ること重要と考えています。

そして、これからの食の専門家には、社会の中で“何をすべきか”といった職業倫理観が必ず問われることとなります。主体的に社会の課題に取り組むためには、大学で専門家としての学習を十分に行い、短期、中期および長期目標を定めて努力を続ける必要があります。将来的には、本学部を卒業した学生が社会的なリーダーとして、未来の「食と健康」の分野を牽引していくことを期待しています。

オフィスアワー

春学期：水曜日 12：40～13：15、秋学期：水曜日 12：40～13：15



助教 **小西 可奈**
KONISHI, Kana

1号館3階第8研究室

主な担当科目

実践スポーツ栄養学、食育論、スポーツと健康Ⅱ

学位

博士（スポーツ健康科学）

自己紹介、学生へのメッセージ

私たちが口にする食べ物は、生命を維持するだけでなく、腸内細菌や代謝産物を介して、自分自身の行動の制御に関わると言われています。肥満の予防や改善に役立つ食・栄養処方を明らかにするために、習慣的、あるいは一時的な食・栄養の摂取が、ヒトの行動や認知・実行機能にどのような影響を与えるか検討しています。また、スポーツ選手がパフォーマンスを向上させるために、どのような食・栄養を摂取すればよいかについても検討してきました。もしこのような内容に興味があれば気軽に訪ねてください。

今頑張っていることをさらに発展させるために、あるいは、これから意欲を持って取り組みたいと思えることを見つけるために、学生生活ではたくさん経験し、視野を広げてください。

オフィスアワー

水曜日 11：30～12：30



助教 **杉本 光輝**
SUGIMOTO, Koki

1号館2階第48研究室

学位

博士（工学）

自己紹介、学生へのメッセージ

慢性疾患の発症には日常の食習慣が大きく関わっています。慢性疾患へのリスクが高い食生活が知られるようになると、反対に疾患を予防できる食品成分があると信じられるようになりました。このような、食べ物が特定の疾病を予防する機能を食べ物の三次機能と呼んでいます。我々の研究ではこの三次機能に着目し、様々な食品成分の健康機能を探索しています。中でも食品の「脂質成分」に焦点をあて、動物実験・細胞実験といった技法を用いて研究に取り組んでいます。興味がある方は気軽に訪ねてください。

大学生活は人生において非常に大切な時間です。たくさんの経験をし、視野を広げ、将来に役立ててください。

オフィスアワー

春学期：金曜日 12：40～13：20、秋学期：木曜日 12：40～13：20

食環境科学部健康栄養学科



教授 五十嵐 博久
IGARASHI, Hirohisa

1号館2階第53研究室

主な担当科目
Integral English I、Integral English II

学位
博士（文学）

自己紹介、学生へのメッセージ

食環境科学部、文学部、食環境科学研究科（大学院）の英語関連科目、基盤教育科目、英米文学の専門科目（シェイクスピア）を担当しています。担当するすべての授業をスーパーグローバル大学の授業らしい、ユニークで魅力的な内容にしたいと思っています。また、海外留学プログラムや課外での英語教育活動にもかかわっていますので、留学や英語学習についていつでも気軽に相談してください。

健康栄養学科のゼミ（卒業研究）も担当します。ルネサンス時代の英国における「食」について、当時の医学や文化史的な観点から学んでみたいという人や、シェイクスピアを「食」や「医」をヒントに新たな視点で読み解いてみたいという人を募集します。

趣味は芝居鑑賞、釣り、散歩、読書、ガーデニング、料理、旅先での居酒屋（パブ）めぐりなどです。趣味はすべて健全な思考の糧と思っています。

オフィスアワー
月曜日 15:00～16:30



教授 井上 広子
INOUE, Hiroko

1号館3階第67研究室

主な担当科目
栄養教育論Ⅰ、栄養教育論Ⅱ、実践栄養教育論、栄養教育論実習、学校栄養教育の基礎、学校栄養教育の実践、教職実践演習（栄養教諭）

学位
博士（食品栄養学）

自己紹介、学生へのメッセージ

私は、栄養教育論と栄養教諭養成の担当をしています。
「栄養教育」とは、人々の健康の維持・増進、生活の質（QOL）の向上を目的に、望ましい栄養状態と食行動の実現に向けて、人々の行動変容を支援することです。管理栄養士は、栄養の専門職として、すべての人々（健康な人、傷病者、障がい者など）のライフステージやライフスタイルを対象に様々な「食」に対して支援をいかなるべきではありません。対象とする人々が行動変容できるようになるためには、単に栄養の基礎的知識を教育することだけでは行動変容できず、その人（集団）がおかれた環境、知識・態度・行動、心理状態、栄養素や食物摂取状況を多角的に把握・評価し、的確な栄養教育をしなくてはなりません。そのために、管理栄養士は行動科学理論やモデルに対する知識の修得、カウンセリングの技術を兼ね備え、栄養教育の計画・実施・評価を的確に行う遂行能力が求められます。私が担当する「栄養教育論」は、上記の内容を座学と実習を併せて学びます。

またこれからの管理栄養士は、研究のスキルを持つことも求められます。私は、疾病の一次予防とヒトが健康で長生きできるための実践・応用的研究を進め、社会に還元できる成果をあげられるよう努めています。

本学の健康栄養学科で学ぶ皆さんが研究スキルを身に付け、社会で活躍できる管理栄養士になってもらえるよう研究の楽しさ、面白さも伝えられたらと思っています。

オフィスアワー
春学期：木曜日 12:40～13:20、秋学期：水曜日 12:40～13:20



教授 上野 哲
UENO, Satoru

1号館3階第43研究室

学位
博士（医学）

自己紹介、学生へのメッセージ

二酸化炭素排出量増加による地球温暖化がもたらす熱中症は夏季において社会問題となっています。今まで、労働者の業務上疾病を防ぐことを目的とした研究所で熱中症の研究を行ってきました。熱中症は多要因によって引き起こされるため、現場に存在する各要因を発見して地道に一つ一つなくしていく積み重ねが有効な対策です。熱中症に限らず世の中で起きている問題は複数の要因がからんでいることが多いと思います。

学生の皆さんには、困難にぶつかった時に問題点を発見して解決していくための基礎力をつけることを期待します。

オフィスアワー
ToyoNet-Gの教員プロフィールを参照してください。



教授 金 賢珠
KIM, Hyounju

1号館3階第45研究室

学位
博士（農学）

自己紹介、学生へのメッセージ

栄養素や食による生活習慣病の改善とその機序の解明を主な研究テーマとしています。魚油に豊富に含まれているn-3系脂肪酸のEPAとDHAが脂質代謝関連遺伝子の発現に強く関わることを明らかにしており、さらに、魚油と薬の併用が糖・脂質代謝の改善作用に及ぼす影響について研究しています。

学生の時、韓国と日本で栄養学を勉強・研究したことが私の強みです。皆さんが様々な栄養学を学び、研究しながら、「ワクワクする何か」に出会えるよう、応援しながらサポートします。

オフィスアワー

ToyoNet-Gの教員プロフィールを参照してください。



教授 高鶴 裕介
TAKATSURU, Yusuke

1号館3階第65研究室

主な担当科目

基礎医学、臨床医学Ⅰ、臨床医学Ⅱ、実践人体の構造・および疾病のなりたち

学位
博士（医学）

自己紹介、学生へのメッセージ

私はこれまで、分子生物学的研究から始まり、電気生理学、in vivo imaging、行動薬理研究、そして、老年内科を中心とした臨床研究と、幅広く行ってきました。過去の研究テーマ（脳梗塞、周産期ストレス）はいずれも、慢性的な変化が最終的な病態に反映されます。臨床現場で主に診療している高齢者の疾患もやはり、それぞれの人生の積み重ねが結果に影響します。多くの疾患の治療・予防は「よく食べ、よく寝る、規則正しい生活を送る」ことですが、とりわけ健康維持のための食は奥深く、長い積み重ねが重要です。全てのライフステージで適切な食のアドバイスをするスペシャリストになろうとしている皆さんと、究極の医療人になるという抱負をもって、ともに勉学に励んでいければ幸いです。

オフィスアワー

木曜日 11:00~12:00（事前相談があれば左記以外も対応可）



教授 高橋 東生
TAKAHASHI, Tosei

1号館3階第39研究室

主な担当科目

公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習、食生活論、食生活実習、事前演習、臨地実習Ⅵ

学位
博士（医学）

自己紹介、学生へのメッセージ

公衆栄養学は、管理栄養士養成課程における専門分野の一つです。わが国や諸外国における健康問題（特に栄養に関する）に関するこれまでの動向とそれらに対応した主要な栄養政策について学びます。管理栄養士として主要なスキルである「栄養調査」について、その方法論や具体的なテクニックについて一緒に学んでいきます。

将来、管理栄養士として社会貢献を目指すよう努力を惜しまず、積極的に学習することを期待します。

オフィスアワー

水曜日 12:40~13:20（原則として）



教授 辻 ひろみ
TSUJI, Hiromi

1号館3階第44研究室

主な担当科目
給食経営管理論 I

学位
栄養学修士

自己紹介、学生へのメッセージ

どの年代においても食事作りはできるだけしたくない人が多いのが現実。給食は、人が楽しく食べるために食品を料理に転換することで、健康につながる栄養補給を可能にしています。

組織人として経済活動のなかで専門性を発揮できる管理栄養士が増えることを願っています。

オフィスアワー

水曜日 12:40~13:20



准教授 大瀬良 知子
OSERA, Tomoko

1号館3階第40研究室

主な担当科目
応用栄養学 I・II、応用栄養実習、スポーツ栄養学

学位
博士（食物栄養学）

自己紹介、学生へのメッセージ

私はこれまで、幼稚園で給食経営や食育の推進を行ってきました。自分が作成した献立が食事となり、それを食べるのが、子どもたちの成長に繋がっていく様子を目の当たりに出来たことは、大変嬉しい経験でした。この経験は管理栄養士が社会で重要な役割を果たしているという確信にも繋がりました。

一方で、それらの活動で生じた疑問を、研究（疫学手法）によって明らかにしてきました。現在は、人々が持つ食意識と食行動・食事内容との関連を中心に研究を進めています。応用栄養学では、ライフステージごとの食事内容の評価、献立作成など人を対象としたときに必要とされる知識と技術を幅広く習得しなければなりません。実生活でも大変役に立つ教科であると考えます。将来、社会で活躍できる管理栄養士になれるよう、4年間を大切に過ごして下さい。私もその素地を一緒に作っていければと思っています。

オフィスアワー

水曜日 11:10~12:40



准教授 郡山 貴子
KORIYAMA, Takako

1号館3階第46研究室

主な担当科目
調理科学、調理科学実験、調理学実習 I、調理学実習 II

学位
博士（学術）

自己紹介、学生へのメッセージ

調理学（調理科学）は「調理のコツが真実ならば、そこには科学があるはずである」という先人の信念のもと発展した学問です。調理操作によって食品に起こる様々な現象について、物理・化学・生物など自然科学の基礎的知識に基づいてその法則性を見出し、解明していこうとするところにおもしろさがあります。

授業は調理を理論的に理解しながら、技術を身に付けられるよう構成されています。日常行われている調理の中に科学的な目で問題意識を持ち、「なぜそうなるのか?」といった素朴な本質的な疑問を大切にすることが大変重要です。是非、みなさんも主体的に学ぶ姿勢をもって取り組んでください。

オフィスアワー

水曜日 12:40~13:20



准教授 塩原 明世
AKIYO, Shiohara

1号館3階第66研究室

主な担当科目

臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅱ、事前演習、総合演習、臨地実習Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ
学位

博士（学術）

自己紹介、学生へのメッセージ

高齢社会になった今日、食を通じてよりよい生活に貢献するためにも、生活習慣と疾患との関連について学び、毎日の食事から疾患を予防していくことが求められています。臨床栄養について学ぶことは、決して病態における栄養学だけでなく、日々の私たちの生活を豊かにしてくれることでしょう。科学の進歩の加速と共に、近年変化の目まぐるしい分野ですが、是非関心を持って、共に学んでいきましょう。

オフィスアワー

木曜日 13:20～14:30 (この時間を原則としますが、可能な限り対応します。)



准教授 藤澤 誠
FUJISAWA, Makoto

1号館3階第28研究室

主な担当科目

基礎化学、微生物学、食品衛生学

学位

博士（生命科学）

自己紹介、学生へのメッセージ

当研究室ではこれまでに、微生物のスクリーニング、微生物のゲノム解析による特徴的な遺伝子の同定、分子生物学的手法による遺伝子の改変、タンパク質の精製と機能解析までを一貫して行うことで、微生物の持つ機能を分子レベルで包括的に理解することを目指してきました。例えば、食塩の中からアルカリpHでよく生育する細菌を発見しました。この微生物のゲノムを調べると、イオンの輸送体のイオンの結合領域に、これまでに見つかっていない変わった特徴がありました。このような変わった特徴をうまく利用することで、特定の食品中の微生物の生育の制御を行うことができるようになると考えています。現在は、このような微生物の制御技術の開発や微生物の簡易かつ迅速な検出技術の開発を目指して研究を行っています。

当研究室は自分で考え、自発的に行動できる方を募集しています。研究は人類史上初めての発見(!)の連続です。また、遺伝子を改変することで、生物史上初(!!)の機能を持ったタンパク質を作り出すことも可能です。研究にはそのような魅力がありますが、それを証明するためには一つ一つしっかりとしたデータをとる必要があります。研究は根気のいる作業にはなりますが、新しい発見に向けて一緒に挑戦してみませんか？

オフィスアワー

金曜日 12:40～13:20



准教授 細谷 孝博
HOSOYA, Takahiro

1号館3階第68研究室

主な担当科目

食品学、食品分析学、食品機能学、食品学実験

学位

博士（薬学）

自己紹介、学生へのメッセージ

我々が食品に期待することとして、味、色、香り、生理活性などの機能性があります。これら機能性を発現するには、食品中の様々な成分が複合的・相互的に関与するため、食品に含まれる個々の成分を調べるだけでは説明ができません。また逆に、食品そのものの機能性を調べるだけでも、その本質にたどり着くことはできません。こうした個々の成分を明らかにし、全体を見る、または、全体を見て個々の成分を確認することで、食品の機能性やすばらしさを科学的に証明していきたいと思っています。

講義や実習では、「食」についての基本をしっかりと学び、食のすばらしさを科学的根拠とともに伝えることができる管理栄養士を目指しましょう。

オフィスアワー

金曜日 12:40～13:20



助教 **安枝 明日香**
YASUEDA, Asuka

1号館2階59研究室

主な担当科目

臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ、キャリアデザインⅠ、事前演習

学位

博士（医学）

自己紹介、学生へのメッセージ

私は管理栄養士養成課程卒業後、大学で栄養に関連した臨床研究および、附属病院における臨床業務に従事していました。その後、大学院に進学し、炎症性腸疾患をはじめとした腸炎に関する研究を行ってきました。

様々な経験の中で学んだこととして、皆さんが目指している管理栄養士、特に臨床で活躍する栄養士には、臨床における基礎知識のみならず、研究能力や情報収集、情報発信など、様々な能力が求められていくことになると思います。学生生活の中で、たくさんの能力を、是非楽しみながら身につけて下さい。皆さんと一緒に私自身も学びながら、勉強や生活面でのサポートを行っていききたいと思います。

担当科目の授業内容だけでなく、進路や生活面でも気軽にご相談に来てください。

楽しく、学び多き大学生活になるように応援しています。

オフィスパワー

春学期：水曜日 10：00～12：40、秋学期：月曜日 10：00～12：40



助手 **岡田 果純**
OKADA, Kasumi

1号館2階健康栄養学科研究室

学位

学士（健康栄養学）

自己紹介、学生へのメッセージ

こんにちは。私は食環境科学部健康栄養学科の5期生として本校を卒業し、薬局に勤めた後、実習指導助手になりました。

健康栄養学科は、実験実習、レポート等が多く大変だと思う時もあるかもしれませんが、仲間と助け合い国家試験合格と自分の夢に向かって頑張っていきましょう。助手として、時には先輩として皆さんを全力でサポートするので、皆さんからも気軽に話しかけてくれると嬉しいです。また、4年間はあっという間に終わってしまいます。今しかできない色々な事に挑戦し、充実した大学生生活を送れるよう応援しています。



助手 **押田 莉沙**
OSHIDA, Risa

1号館2階健康栄養学科研究室

学位

学士（健康栄養学）

自己紹介、学生へのメッセージ

こんにちは。実習指導助手として、実験や実習等を通し、みなさんのサポートに務めます。私自身、本学科の5期生として、食と健康に関する学びを得てきました。

本学科では、管理栄養士養成課程のもと、栄養学をはじめとする幅広い学問を学びます。また、実験実習等の実技科目も多いため、ときに大変だと感じることもあると思います。健康栄養学科の学生・教員は、国家試験合格を目標とする1つのチームです。全力でサポートいたしますので、気軽にお声がけください。

みなさんの4年間が実りある大学生活であるよう、応援しております。



助手 **川崎 詩歩**
KAWASAKI, Shiho

1号館2階健康栄養学科研究室

学位
学士（健康栄養学）

自己紹介、学生へのメッセージ

皆さんが取り組む実習や実験等の助手を務めさせていただきます。食事や栄養は人々の健康に大きく関わりがあると私自身、調剤薬局に勤務していた時に患者様との栄養指導、相談を通じて実感しました。また、栄養指導していた患者様の検査値が改善した時は、とてもやりがいを感じられました。

健康栄養学科は管理栄養士養成課程ということもあり学ぶことも多く、充実しています。そのため大変だと感じることもあるかもしれませんが、それでも諦めないで管理栄養士を目指してほしいと思います。一緒に頑張りましょう。



助手 **深澤 美優**
FUKASAWA, Miyu

1号館2階健康栄養学科研究室

学位
学士（健康栄養学）

自己紹介、学生へのメッセージ

私は2022年度に東洋大学食環境科学部健康栄養学科を卒業し、実習指導助手になりました。実習や学生生活、国家試験、就職活動など困ったことがありましたら気軽に相談してください。この学科で学んだ経験を実習指導助手として、少しでも還元できるようにしたいと考えています。

4年間多くのことに興味を持ち、チャレンジしてください。皆さんにとって実りのある学生生活となり、管理栄養士の国家試験に合格して卒業できるよう応援しています。



助手 **古河 美咲**
FURUKAWA, Misaki

1号館2階健康栄養学科研究室

学位
学士（健康栄養学）

自己紹介、学生へのメッセージ

みなさんこんにちは。実習指導助手の古河と申します。

私が栄養学を学びたいと思ったきっかけは高校生の時の部活動でした。運動部で食事にも気を付けており、その中で自分の食べた物で自分の体はできておりどんな成分がどのように体に現れていくのかということに興味を持ち栄養士の道に進みました。

また、私は福祉施設で勤務していた経験から食事による栄養状態の改善例や食形態による喫食状態の違い、利用者様の笑顔等を拝見し食事の大切さや楽しさを実感してきました。

栄養学は自分の為ならず、周りの人にも役に立ち笑顔にすることができます。実験や実習も多く国家試験の勉強も大変だと思いますが、何事にも興味を持って取り組み楽しんでください。皆さんのサポートを目いっぱいさせていただきたいと思いますので一緒に頑張りましょう。宜しく願いいたします。

英語講師



准教授 江口 智子
EGUCHI, Tomoko

1号館2階第50研究室

主な担当科目
Integral English I, Integral English II

学位
英文学博士 (PhD English)

自己紹介、学生へのメッセージ

主に1年生の必修英語授業を担当しています。専門は19世紀の英文学ですが、最近では英語教育や動物と関連付けた研究に興味を持っています。

あるイギリスの馬術オリンピック選手は「競技会での演技は何年もの訓練の成果」であると語り、日々の基礎トレの重要性を家の土台づくりに喩えて主張しています。

英語の学習も基礎事項を理解した上で練習を積み重ねることが上達の鍵だと思います。英語が得意な方も苦手な方も、それぞれ目標を定めて一緒にがんばりましょう。No pain, no gain!

オフィスアワー
水曜日 13:30~14:30



英語講師 アシュトン ジョージ スティーヴン
ASHTON, George Steven

1号館2階第52研究室

主な担当科目
English Communication I/II、English Speech & Presentation、
English Reading & Writing

学位
Master of Science (MSc) in Technology and Industrial Organisation
Bachelor of Science (BSc) in Physics

自己紹介、学生へのメッセージ

I'm British, and was born and raised in London, where I worked mostly in the financial services industry. Here in Japan, as well as being a teacher, I'm also an actor and voice actor, so you might see or hear me on television occasionally.

I like to use drama techniques in my classes, but please don't worry - you don't need any acting skills or experience to take part.

It's a fun way to learn, and can help you relax, be creative, improve your teamworking abilities, and build confidence - these are all skills that good scientists, entrepreneurs and innovators need.

If you see me on campus, please don't be shy - just come up to me and say hello.

オフィスアワー
Spring: Wednesday 9:30~11:00, Autumn: Thursday 13:20~14:50



英語講師 ガルシア ヒブラン
GARCIA, Gibran

1号館2階第51研究室

主な担当科目
English Communication I/II、English Speech & Presentation、
English Reading & Writing、スペイン語

学位
博士 (学術) Ph.D. in Education

自己紹介、学生へのメッセージ

Hello, everyone!

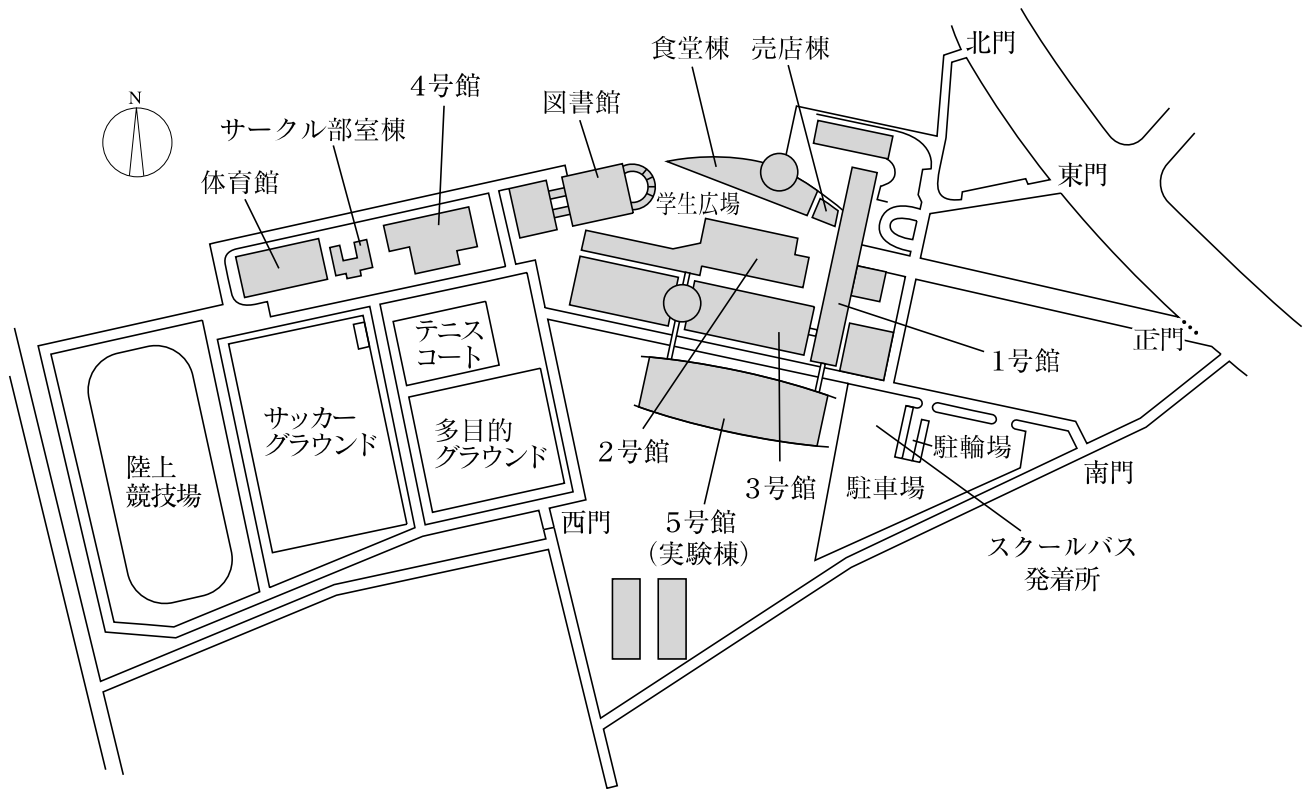
My name is Gibran Garcia, and I am an English and Spanish teacher. I was born in one of the most culturally diverse states in southern Mexico, Oaxaca. I hold a doctoral degree in education from the International Christian University (ICU). My main field of research is education technology, but I am also interested in philosophy, psychology, and personal development. As an instructor, I embrace educational changes and take advantage of new technologies to improve students' education.

I look forward to meeting you all.

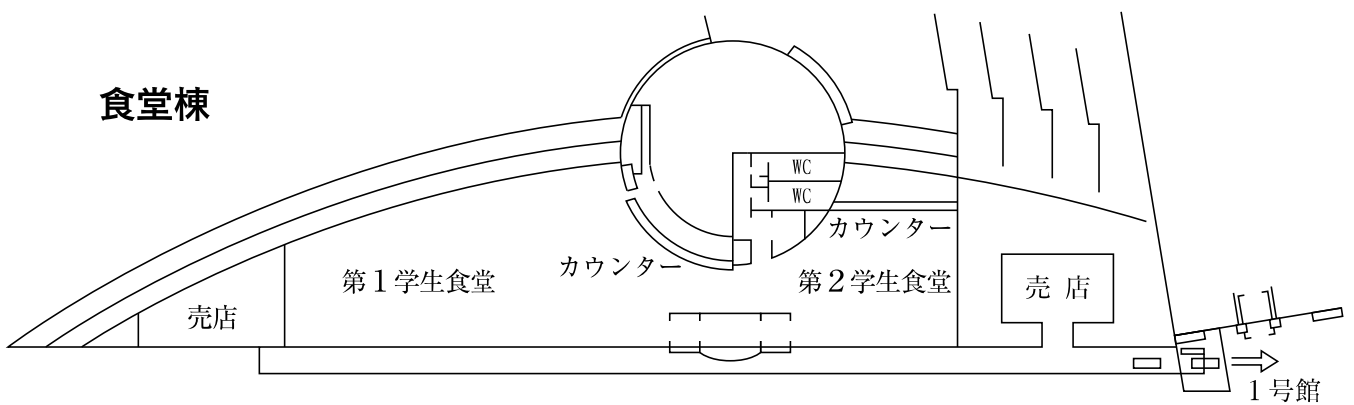
オフィスアワー
水曜日 3限目 13:20~14:50

板倉校舎案内図

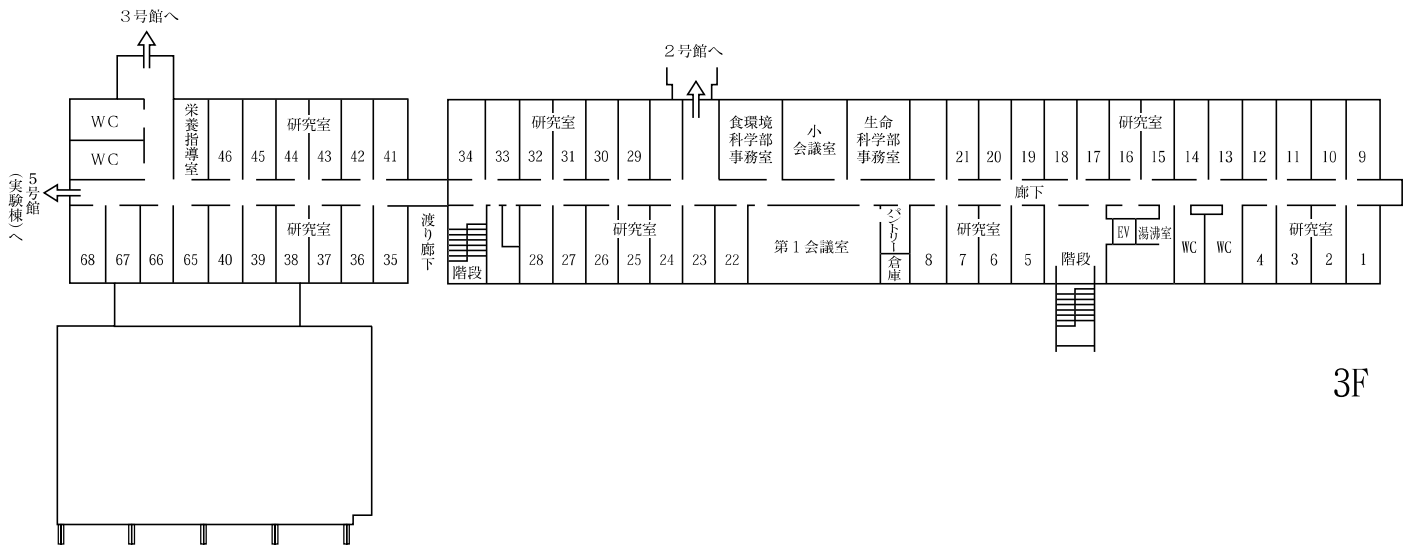
〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1



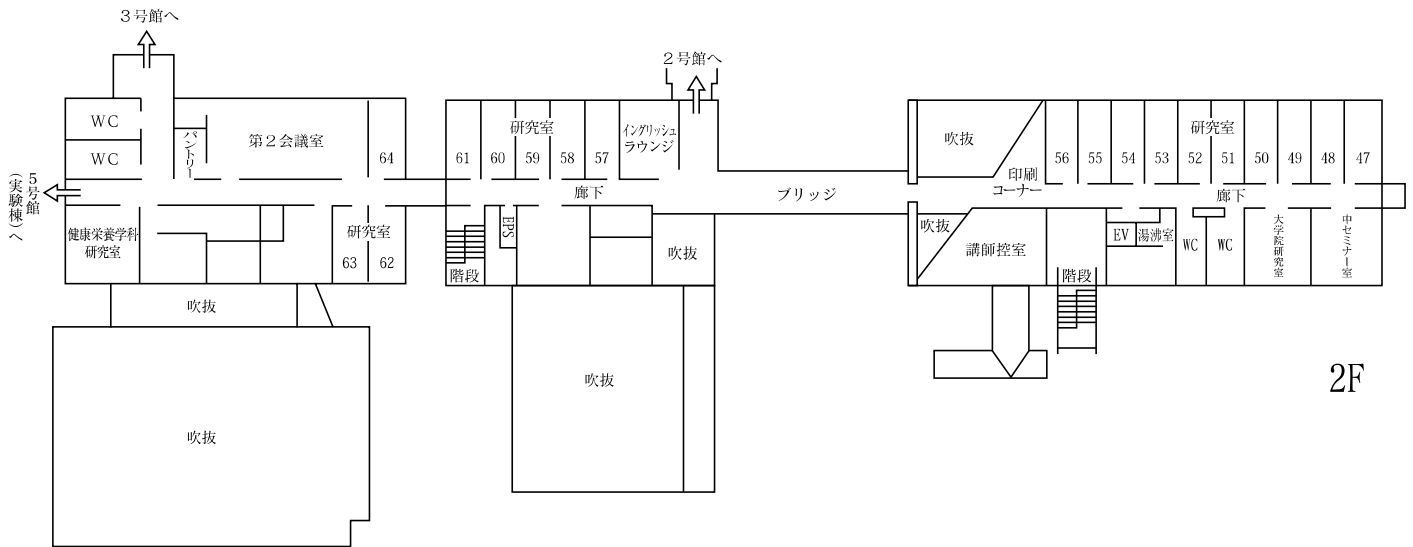
食堂棟



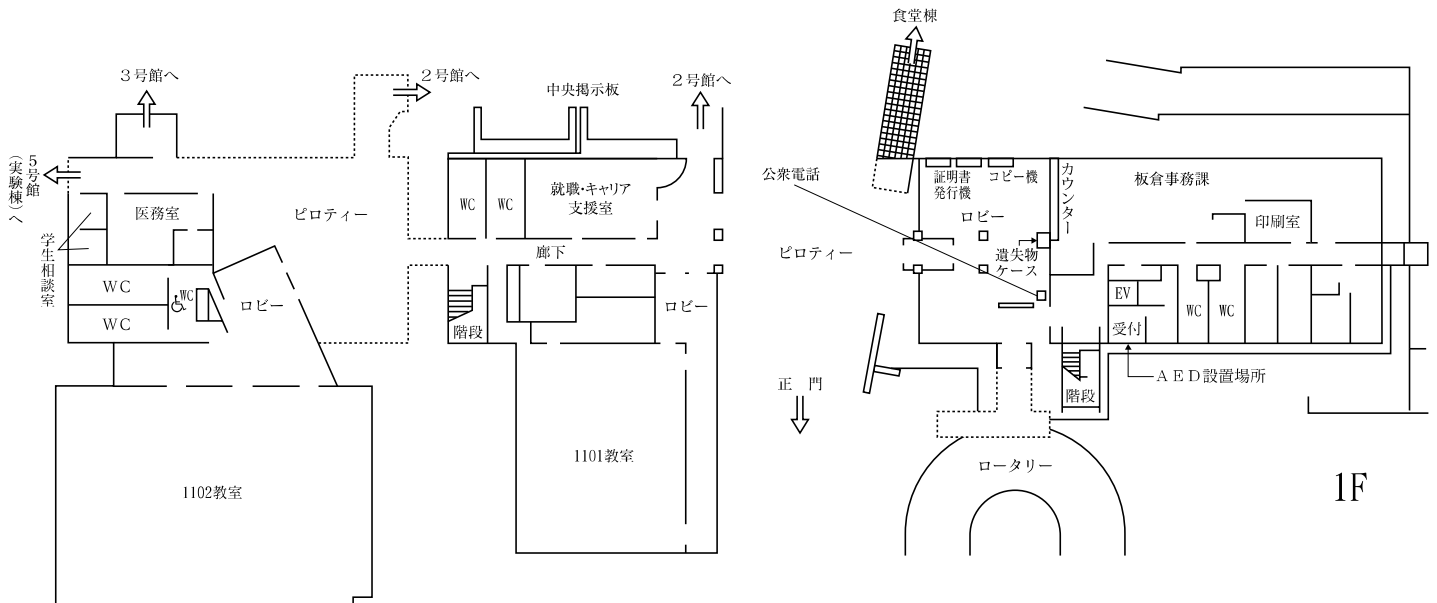
1号館



3F



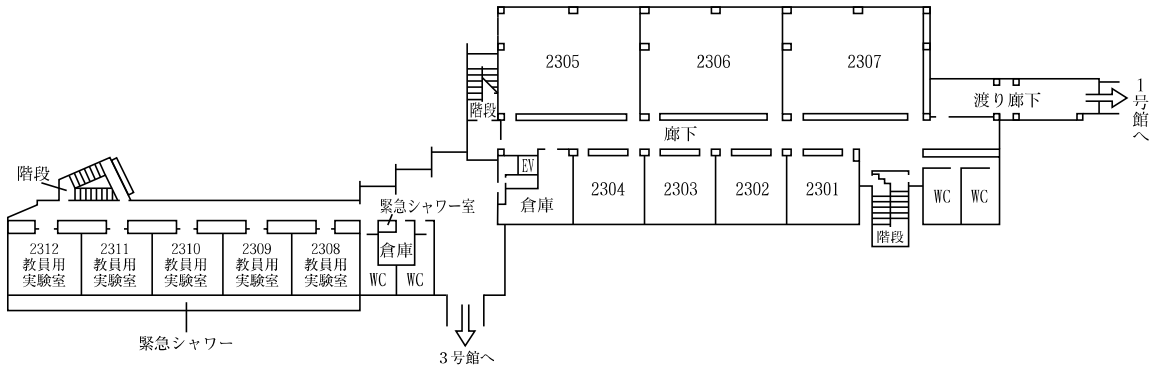
2F



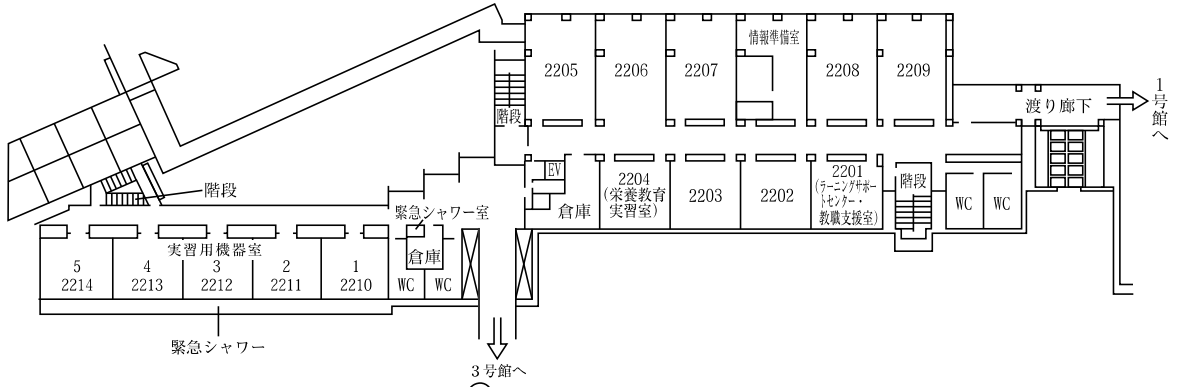
1F

2号館

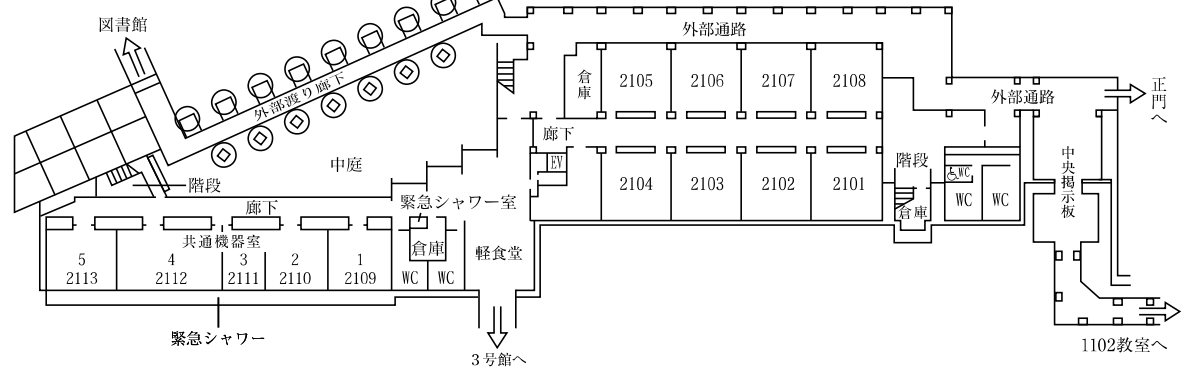
3F



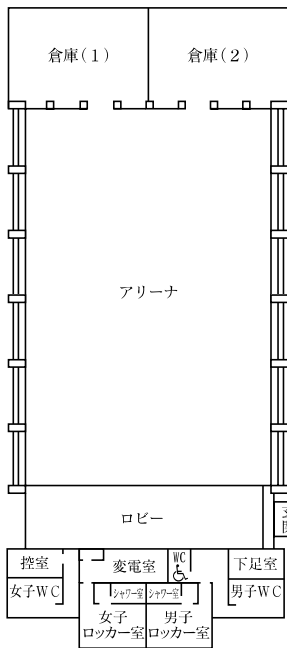
2F



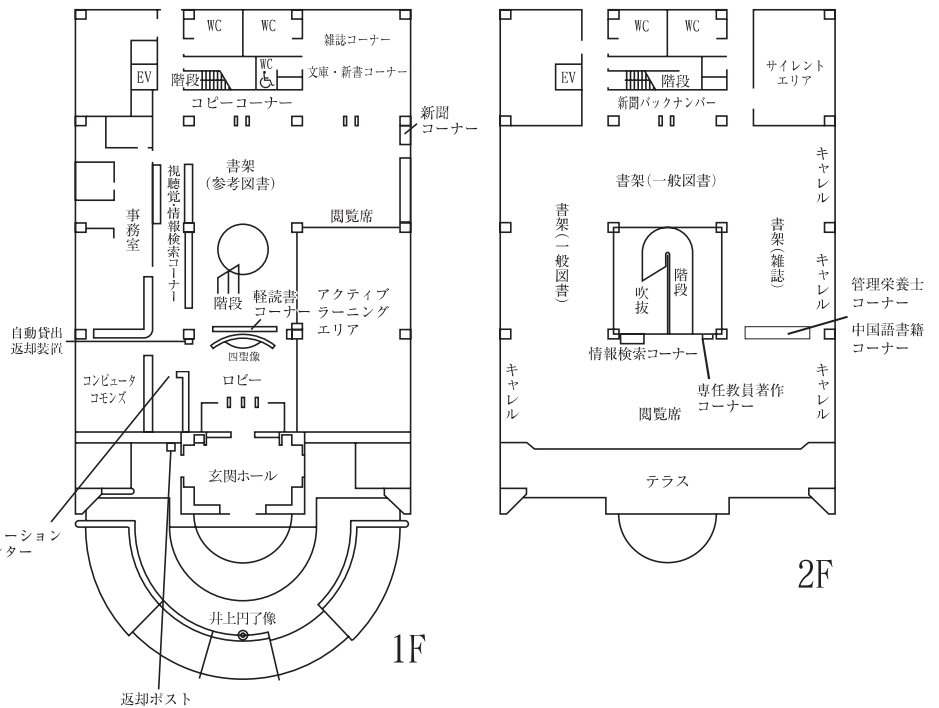
1F



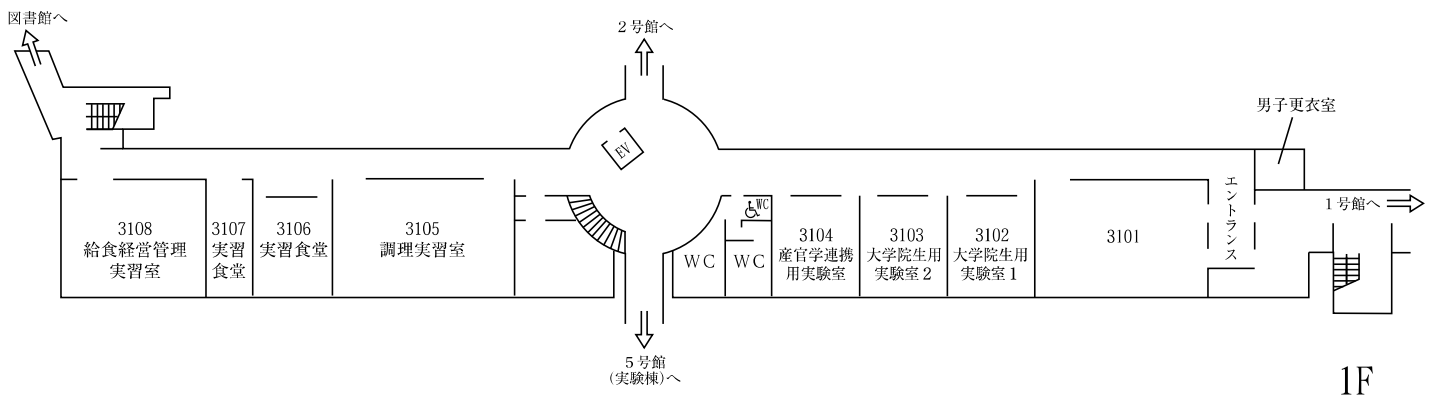
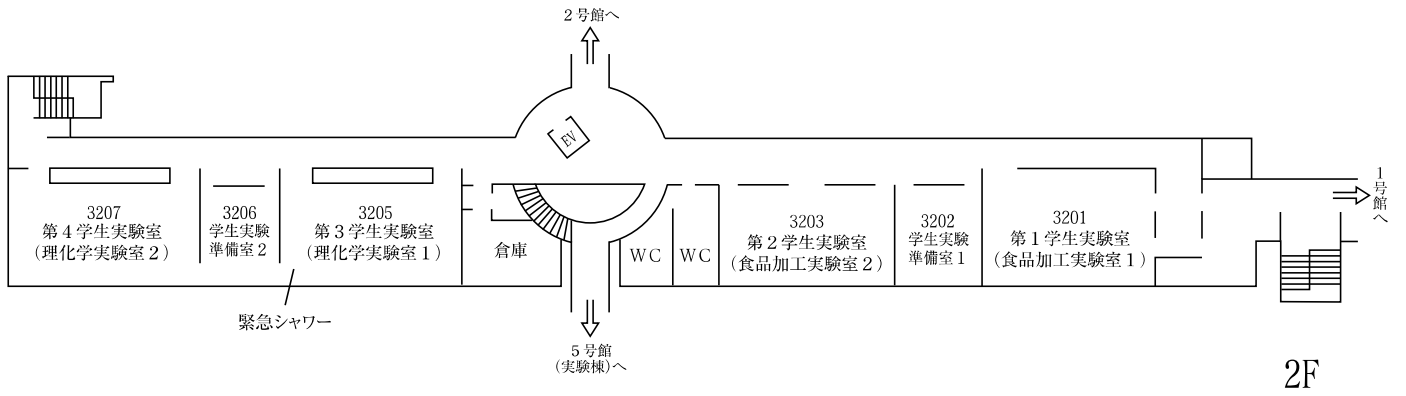
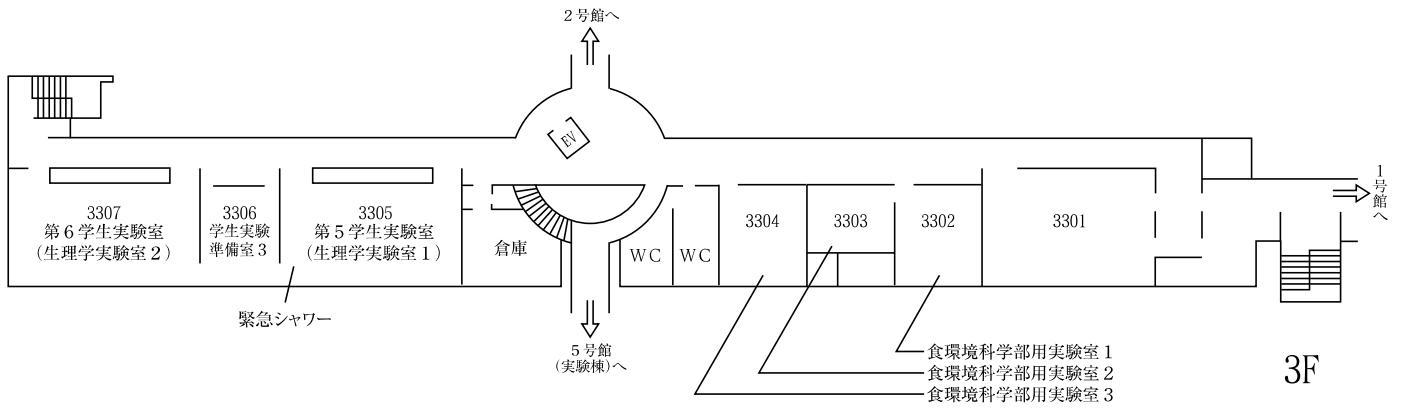
体育館



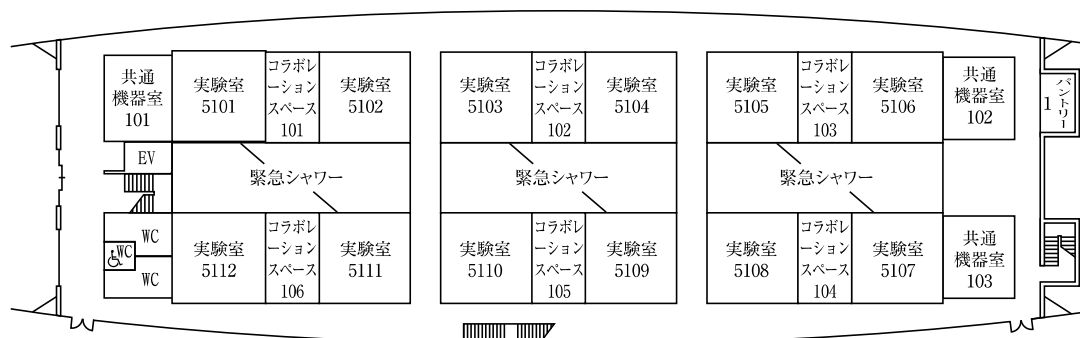
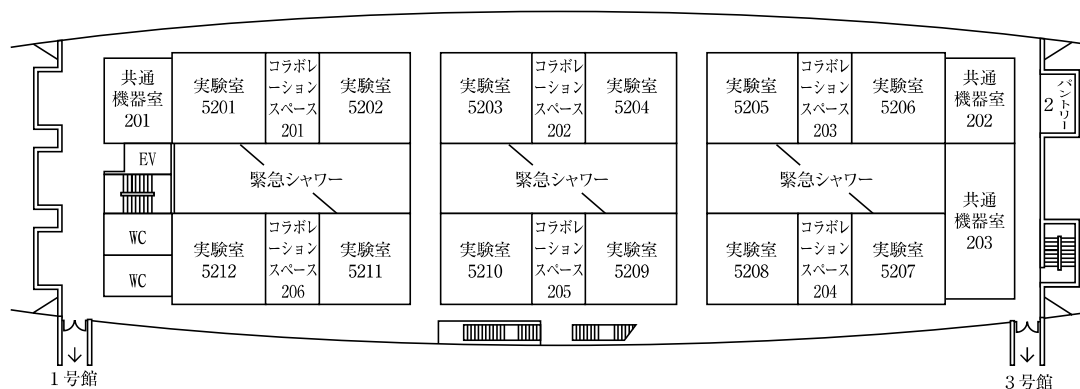
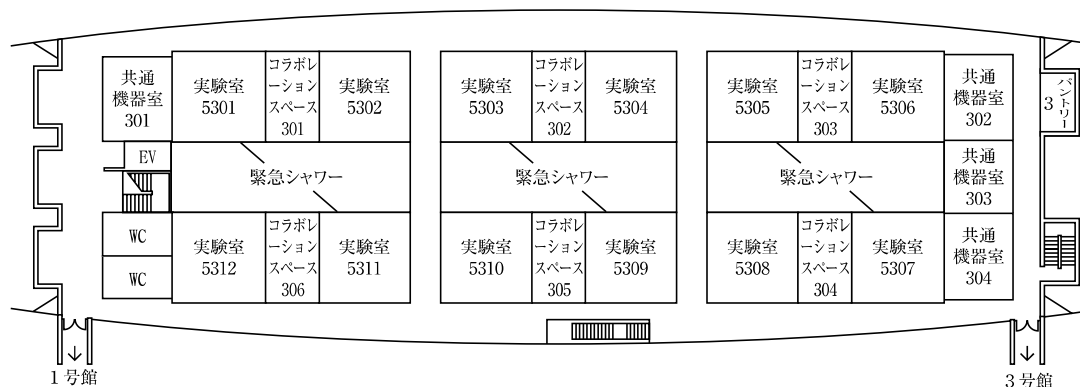
図書館



3号館



5号館 (実験棟)



2023 食環境科学部 履修要覧

2023年4月発行

編集 東洋大学食環境科学部
発行

〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1

TOYO UNIVERSITY

<https://www.toyo.ac.jp/>